

山鹿市文化財調査報告書 第15集

か と う だ
方 保 田 遺 跡

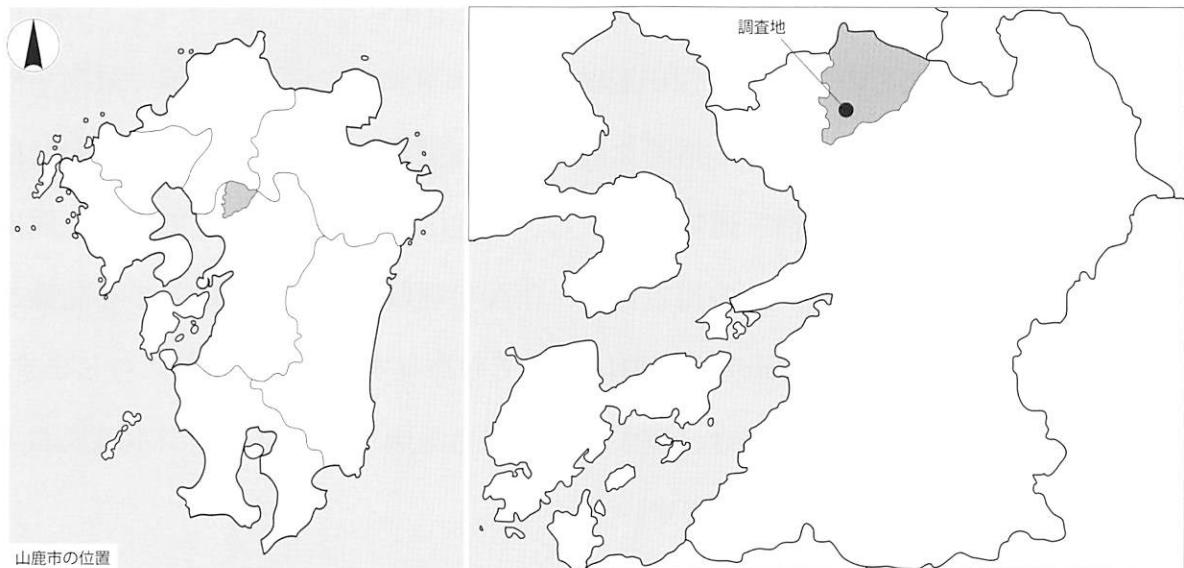
水道事業による方保田配水池整備事業に伴う
方保田遺跡発掘調査(第1次調査)報告書

2014年

熊本県山鹿市教育委員会

か と う だ 方 保 田 遺 跡

水道事業による方保田配水池整備事業に伴う
方保田遺跡発掘調査(第1次調査)報告書



2014年

熊本県山鹿市教育委員会

序 文

山鹿市は旧石器・縄文時代から活発な人類活動が展開され、市内各所に多様な文化財が残されています。本格的な発展は弥生時代の中九州を代表する大集落遺跡の方保田東原遺跡にはじまり、チブサン古墳に代表される日本有数の装飾古墳群、朝廷が築造した古代山城の鞠智城跡、近世幕開けの契機となった肥後国衆一揆の舞台である中世山城群、近世から近代にかけて物資集積地として発達した豊前街道の町並みや芝居小屋八千代座などがあげられます。山鹿市ではこれらの文化遺産とあわせて、大地に埋もれた歴史の証拠である埋蔵文化財についても保護と活用に取り組んでいます。

ここに報告する方保田遺跡の発掘調査は、水道事業に伴い平成24年から25年にかけて実施したものです。方保田遺跡は開田事業に伴い昭和43年に遺物が採集されておりますが、今回が本格的な最初の発掘調査です。限られた面積の発掘調査でしたが、多くの遺構・遺物が出土し、当地区の歴史を知る上で貴重な成果を得ることができました。この報告書が、市民の埋蔵文化財保護に対する認識と理解を深め、さらには学術研究の進展に少しでも寄与するならば幸甚に存じます。

埋蔵文化財保護に理解を頂き、多大なるご協力を賜りました山鹿市水道局および関係各位に深く感謝申し上げます。

平成26年3月31日

山鹿市教育委員会

教育長 堀田 浩一郎

例　　言

1. 本書は、下記についての埋蔵文化財発掘調査報告書である。
 - (1) 遺跡名 方保田（かとうだ）遺跡（熊本県遺跡番号 43-208-167）
 - (2) 調査地 熊本県山鹿市方保田 2839 番、2390 番 1
 - (3) 調査原因 水道事業による方保田配水池整備事業
 - (4) 調査期間 平成 24 年 5 月 21 日～平成 24 年 8 月 17 日
整理調査 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月、出土文化財管理センターにて
- 2 本書で用いた標高は T.P.（東京湾平均海面高度）である。方位は日本測地系に基づく。
- 3 本書の土層や胎土の色調については、『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本式再研究所色票監修）2002 年版による。
- 4 本書に掲載した地図は「山鹿市都市計画図 1：2,500」平成 14 年の一部を調整したものである。
- 5 本書に掲載した遺構実測図は 1/50、遺物実測図は 1/4 を基本としているが、これ以外の縮尺もある。各実測図にはスケールを付した。
- 6 出土した赤色顔料付着遺物の顔料種類については、肉眼判断による。今後の理化学的な測定で結果が変更される可能性がある。
- 7 本書の執筆編集は宮崎が行なった。
- 8 調査で出土した遺物および作成した図面・写真等は、すべて山鹿市教育委員会が所管する山鹿市出土文化財管理センターにおいて保管している（〒 861-0382 熊本県山鹿市方保田 128 番地・電話 0968-46-5512）。

本文目次

序文 例言 目次

第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯	1
第2節 位置と環境	2
第3節 調査の方法	4
①調査の体制	4
(1) 平成24年度	
(2) 平成25年度	
(3) 作業員	
②調査の方法	4
第4節 法令等の手続き	5
第5節 調査の経過（調査日誌抄録）	5

第2章 調査の成果

第1節 調査区の位置	6
第2節 層序	6
第3節 遺構と遺物	7
①1トレンチ	7
(1) 住居 SH-18	7
(2) 住居 SH-73	7
(3) 住居 SH-100	10
(4) 建物 SB-128	10
(5) 溝 SD	10
(6) 溝 SD-70	10
(7) 土括 SK-3	13
(8) 土括 SK-4	13
(9) 土括 SK-12	13
(10) 土括 SK-16	13
(11) 土括 SK-17	14
(12) 土括 SK-19	14
(13) 土括 SK-21	14
(14) 土括 SK-23	14
(15) 土括 SK-39	17
(16) 土括 SK-61	17
(17) 土括 SK-62	20
(18) 土括 SK-65	20
(19) 土括 SK-82	20
(20) 土括 SK-93	20
(21) 土括 SK-107	22
(22) 土括 SK-113	22
(23) 柱穴 PIT-5	22
(24) 柱穴 PIT-66/67	22
(25) 柱穴 PIT-87	22
(26) 柱穴 PIT-88	22
(27) 柱穴 PIT-102/103	22
②2トレンチ	23
(1) 住居 SH-10	24
(2) 住居 SH-17	24
(3) 建物 SB-104	25
(4) 溝 SD-7	25
(5) 土括 SK-4	29
(6) 土括 SK-18	29
(7) 土括 SK-70	31
(8) 柱穴 PIT-34/35	31
(9) 柱穴 PIT-62	31

(10) その他の出土遺物	31
第4節 まとめ	31

挿図目次

第1図 周辺の遺跡	1
第2図 調査区の配置	2
第3図 遺構配置図	3
第4図 1トレンチ平面図	6
第5図 1トレンチ遺構番号	7
第6図 1トレンチ SH-18・出土遺物	8
第7図 1トレンチ SH-18 出土遺物	9
第8図 1トレンチ SH-73 ほか	11
第9図 1トレンチ SH-73 出土遺物	12
第10図 1トレンチ SH-73・SH-100 出土遺物	13
第11図 1トレンチ SB-128・出土遺物	14
第12図 1トレンチ SD-1 ほか	15
第13図 1トレンチ SD-1 出土遺物	16
第14図 1トレンチ SK-21 ほか	17
第15図 1トレンチ SK-21 出土遺物	18
第16図 1トレンチ SK-21 ほか出土遺物	19
第17図 1トレンチ SK-107・出土遺物	20
第18図 1トレンチ PIT・検出中出土遺物	21
第19図 2トレンチ平面図	23
第20図 2トレンチ遺構番号	24
第21図 2トレンチ SH-10・出土遺物	24
第22図 2トレンチ SH-17・出土遺物	25
第23図 2トレンチ SB-104・土括出土遺物	26
第24図 2トレンチ SD-7	27
第25図 2トレンチ SD-7 出土遺物	28
第26図 2トレンチ PIT 出土遺物	29
第27図 2トレンチ検出中出土遺物	30
第28図 方保田遺跡出土遺物（昭和43年）	32

表目次

1 試掘調査の調査区	2
2 出土遺物の重量	4
3 1トレンチ 土器観察表	51
4 2トレンチ 土器観察表	61
5 1トレンチ石器・鉄器・土製品観察表	67
6 2トレンチ石器・鉄器・土製品観察表	67

写真目次

1 既存の配水タンク	3
2 粗跡か	7
3 体験発掘	22
4 埋め戻し後（北から撮影）	22
5 2トレンチ作業中	24

図版目次

図版1 調査区遠景

- 1 南から
- 2 北西から

図版2 1トレンチ完掘状況

- 1 1トレンチ全景 南西から
- 2 SH-73 南から

図版3 1トレンチ SD-1・SK-107

- 1 SD-1 南東から
- 2 SK-107 南西から

図版4 2トレンチ完掘状況

- 1 全景 南から
- 2 SD-7 北東から

図版5 1トレンチ SH-18・SH-73

- 1 SH-18 東から
- 2 SH-18 北西から
- 3 SH-73 北西から

図版6 1トレンチ SH-73・SK-107

- 1 SH-73 ベッド状遺構 南西から
- 2 PIT-123 (SH-73内) 南東から
- 3 土括 SK-124 (SH-73内) 北西から
- 4 PIT-102/103 切り合い (SH-73内) 南西から
- 5 SK-107 北西から
- 6 SK-107 南東から
- 7 SK-107 白砂層 (ベンガラ混) 南東から
- 8 調査区西壁断面 北東から

図版7 1トレンチ SB-128

- 1 柱穴配置状況 南東から
- 2 PIT-37 断面 北から
- 3 PIT-37 北から
- 4 PIT-110 東から
- 5 PIT-112 南西から

図版8 1トレンチ SD-1

- 1 北西から
- 2 北壁断面 南から
- 3 南壁断面 北から
- 4 中央 / 南区間断面南壁 南から
- 5 SD-70 断面 南西から

図版9 1トレンチ土括

- 1 SK-16 南東から
- 2 SK-21 土器出土状況 南から
- 3 SK-23 南東から
- 4 SK-23・SD-1 断面 北西から
- 5 SK-61 南東から
- 6 SK-61 完掘 南東
- 7 SK-65 (焼土) 南東から
- 8 SK-93 南から

図版10 2トレンチ SH-10

- 1 西から
- 2 南西から
- 3 焼土断面 北西から
- 4 焼土上面の土製勾玉出土状況 南西から

図版11 2トレンチ SH-17

- 1 北から
- 2 東から
- 3 焼土 西から
- 4 焼土 南東から

図版12 2トレンチ SD-7

- 1 南から
- 2 南西から
- 3 断面北壁 北東から
- 4 調査区北壁 西から
- 5 調査区西壁 南東から

図版13 2トレンチ SD-7・SK・PIT

- 1 SD-7 挖削状況 北東から
- 2 SD-7 遺物出土状況 南西から
- 3 SK-4 西から
- 4 SK-18 東から
- 5 SK-70 南から
- 6 SK-70 南東から
- 7 PIT-34/35 南西から
- 8 PIT-72 北東から

図版14 1トレンチ出土遺物

- 1 SH-18(第6図7)
- 2 SH-18(第6図)
- 3 SH-18(第6図)
- 4 SH-73(第8図)
- 5 SH-73(第8図3)
- 6 SH-73(第9図)
- 7 SH-73(第9図)

図版15 1・2トレンチ出土遺物

- 1 SK-21(第14図)
- 2 SK-21(第14図)
- 3 SK-21(第14図6)
- 4 SK-21(第14図7)
- 5 SK-107(第16図)
- 6 SD-1(第12図)
- 7 SD-7(第23図5)
- 8 SH-10(第19図4)
- 9 SD-7(第23図14)

図版16 1・2トレンチ出土遺物

- 1 土製勾玉
- 2 滑石製模造品
- 3 繩文土器
- 4 鉄製品
- 5 石斧・石錐

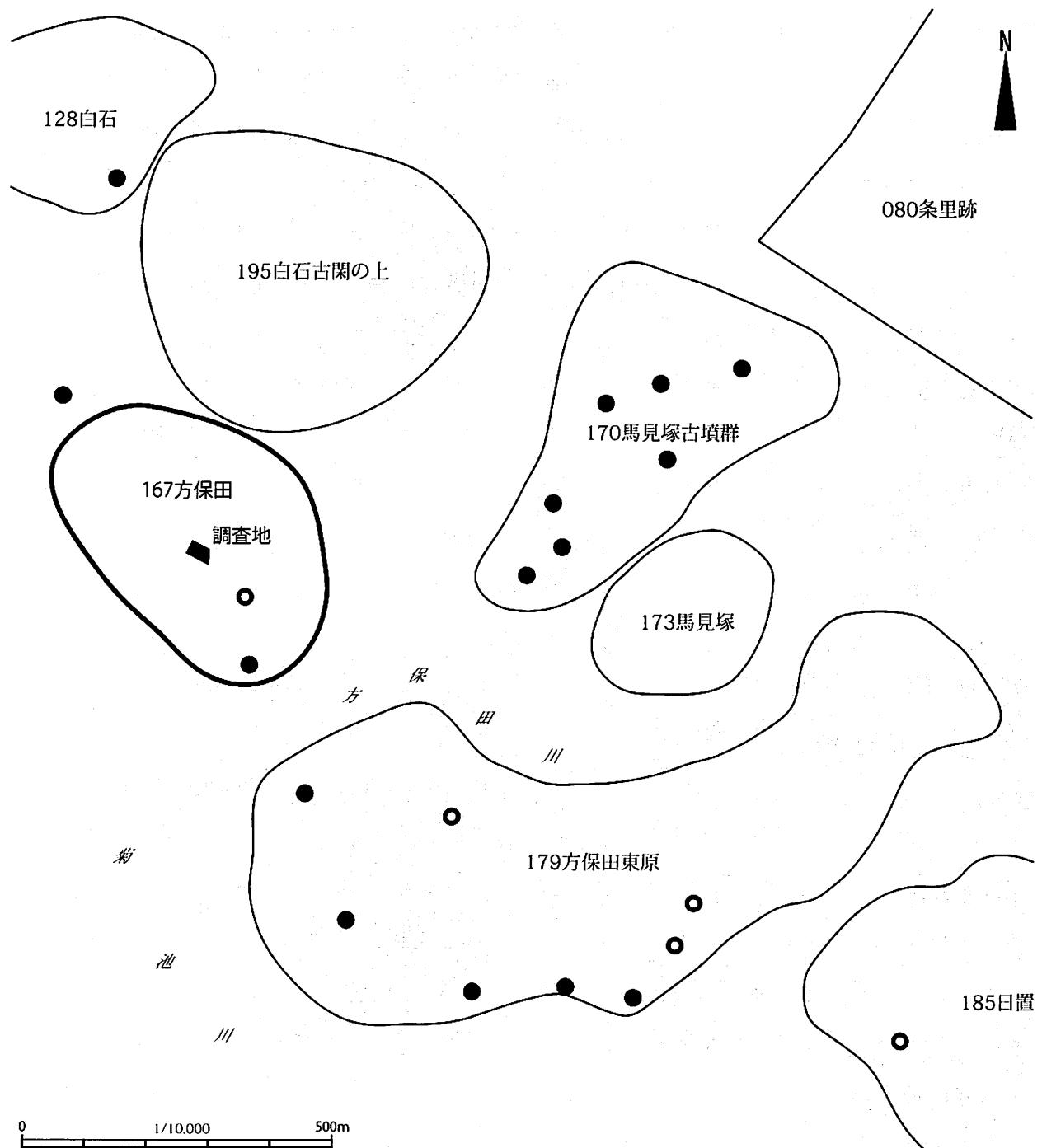
第1章 調査の経過

第1節 調査の経緯

山鹿市水道事業では、方保田（かとうだ）水源・配水施設において配水エリアの見直し及び未普及地域の解消を行うため、施設の耐震化と更新を図り安心安全な上水道事業を推進することを目的として、

平成25年度に配水池の増設並びに管理棟（ポンプ室）を建設することになった。

事業に先立ち、担当課である山鹿市水道局水道課から、平成22年11月18日付けで計画地における埋蔵文化財についての照会があった（22年度申請第180号）。地図と照合した結果、埋蔵文化財包蔵地（方保田遺跡）の範囲内であった。計画地周辺では調査歴がなく地下構造の状況が不明であったため、水道課からの発掘通知提出によって平成23年12月13日に試掘調査を実施した。



第1図 周辺の遺跡

●古墳 ○箱式石棺(現存しないものも含む)数字は遺跡番号

試掘調査は計画地のうち、配水タンク予定地と管理棟予定地に3箇所の調査区を設定し、重機で掘削した。(第2図) その結果、いずれの調査区でも溝や柱穴などの遺構を検出し、弥生時代後期から古墳時代初頭及び古代の土器3袋(1.6kg)、鉄器1点(刀子片、第18図35)が出土した(表1)。

試掘調査によって当該地区に遺構・遺物が分布することが明らかとなった。このため、事業計画の変更によって埋蔵文化財が保護できないか事業者と協議したが実現できず、事業範囲について記録保存の措置を取るため発掘調査を実施することになった。

調査にあたっては山鹿市を甲、山鹿市教育委員会を乙として調査期間を平成24年度(発掘調査)から25年度(報告書作成)とする実施協定を平成24年5月10日付けで締結した。また、発掘調査ならびに報告書作成業務の委託契約を各年度(24年5月10日付け・25年4月1日付け)で締結した。

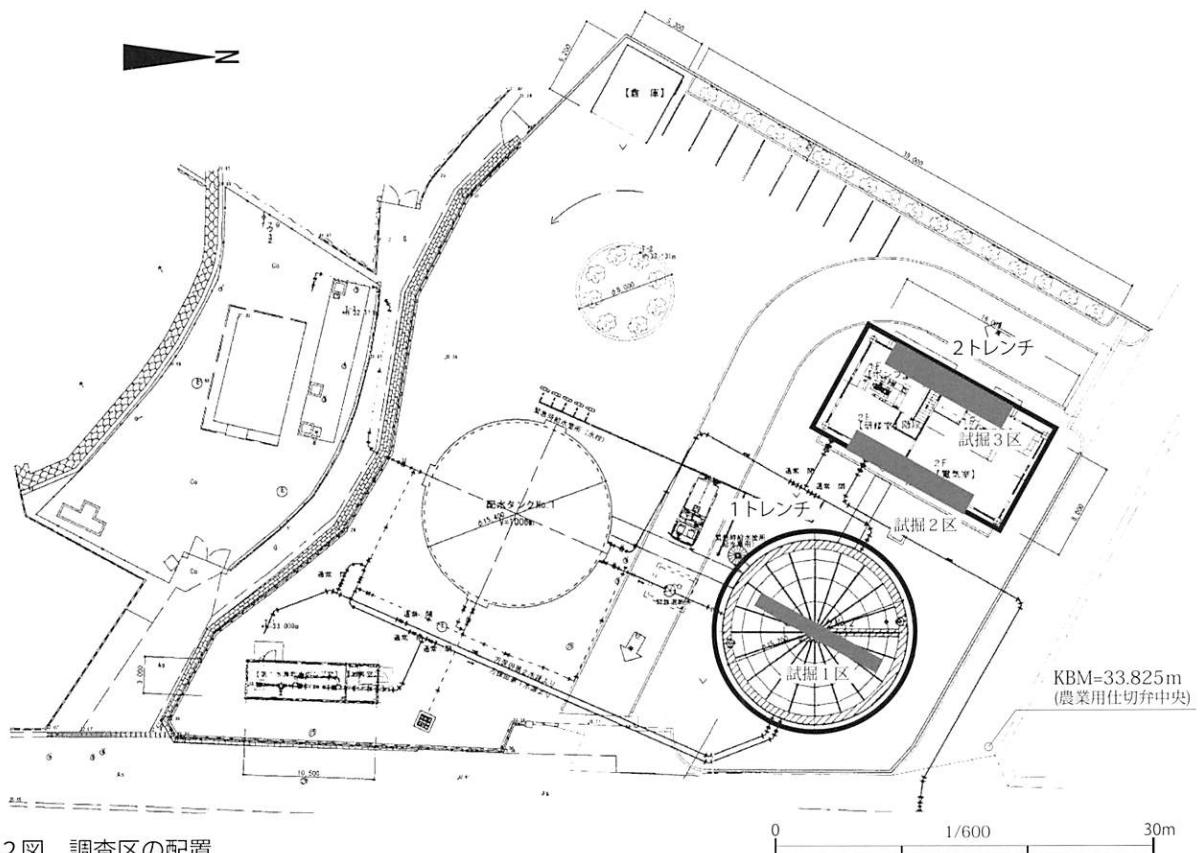
調査区	幅	長さ	遺構面までの深さ
1区	1.2	11.0	0.4
2区	1.8	10.7	0.35
3区	2.0	10.6	0.25

表1 試掘調査の調査区 (単位:m)

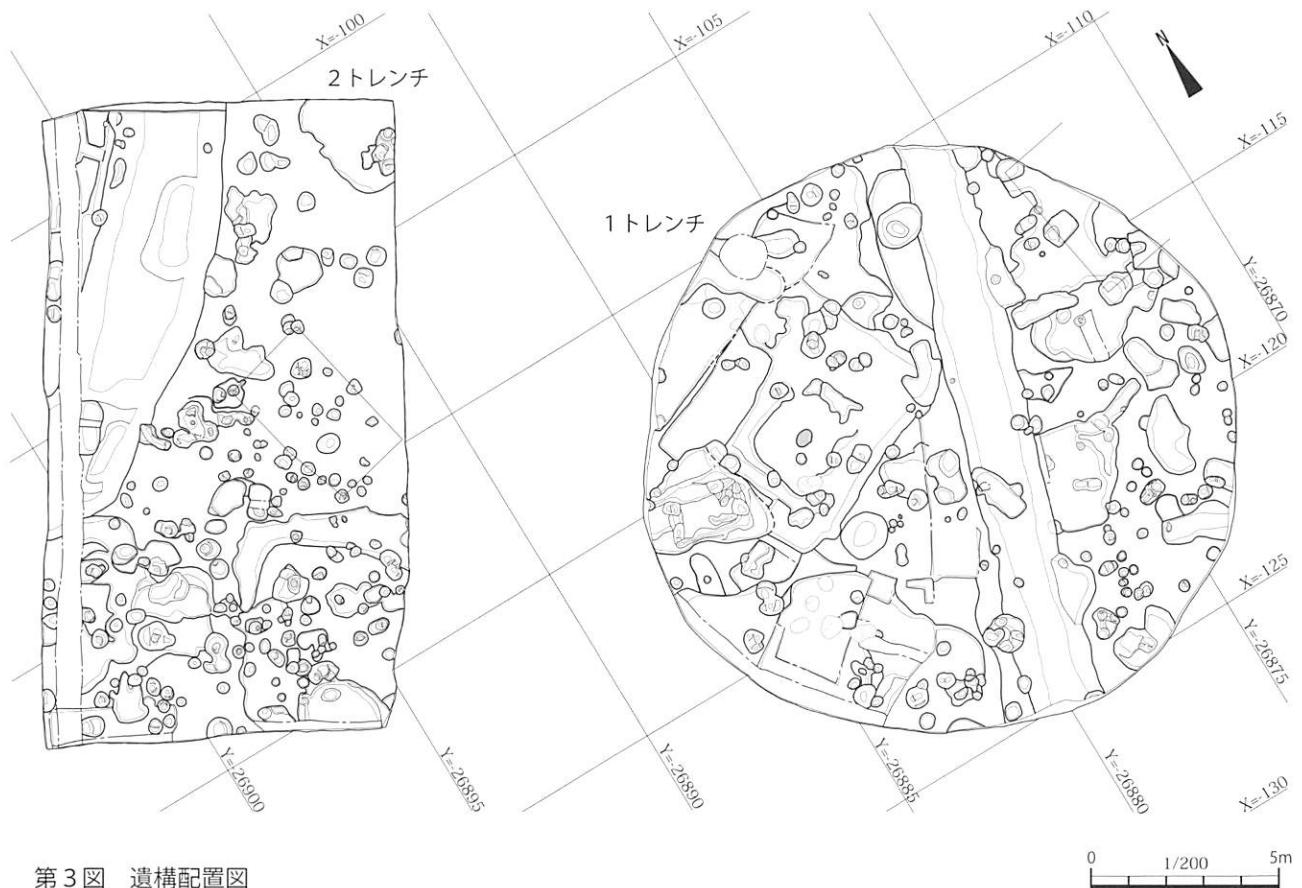
第2節 位置と環境

方保田遺跡は山鹿市南部、菊池川中流域右岸の台地中央部の南端に立地する(第1図・図版1)。遺跡範囲は東西500m、南北350mの範囲と推定されている。この台地は後期更新世の低位段丘で標高30~40m程度、中央を東西に国道325号が通る。台地西端に山鹿市街地があり、東部には鹿本町の市街地(近世における山鹿新町)がある。台地南端では菊池川が西流し、崖面が形成されている部分もある。台地中央付近は主に水田や畑として利用されており、家屋も散在している。調査地の周辺は北から南の菊池川と沖積平野に向けて低くなり、台地上面と沖積平野との比高差は10~15m程度である。

調査地の旧状は畑地でほぼ平坦、地表面の標高は33.0~33.3m付近。北と東は道路、西は畑、南は段丘崖が造成され、宅地(日の出団地)となっている。周辺では昭和43年3月に圃場整備(山鹿市東部方保田地区開田圃場整備事業)に際して、遺物が多量に採集された記録がある(注1)。当時は行政による埋蔵文化財保護体制が整備される前であったため、高校の考古学部生徒らによって遺物採集が行われた。5基の箱式石棺のほか、竪穴住居址らしき遺構も確認されたが記録できずに破壊されてしまっ



第2図 調査区の配置



第3図 遺構配置図

たという。報文では「ブルドーザーとの競争みたいな調査」にも関わらず「ほぼ全域から多量の遺物を検出」して「土器片の数は千点を越すと思われる」ことが記されている。出土品は弥生時代から古墳時代や古代の土器、鉄器などがあった（第28図）。

方保田遺跡の周辺には同時期の集落遺跡や古墳、箱式石棺が分布する。方保田遺跡の南東、方保田川が開析した小規模な谷をはさみ隣接した位置に方保田東原遺跡があり、60回以上の発掘調査によって弥生時代後期から古墳時代前期にかけてを中心とした多種多様な遺構と遺物が出土している（注2）。方保田遺跡の北に隣接して白石古閑の上遺跡と白石遺跡があり、これまで小規模な試掘調査等によって弥生後期から古墳前期及び古代などの遺構・遺物が出土しているが、詳細は判然としない。方保田遺跡東方の丘陵上には7基の円墳からなる馬見塚古墳群があり、盟主墳とされる辻古墳は昭和40年と平成22年に発掘調査が実施された（注3）。昭和40年の調査では家形石棺、舟形石棺、箱式石棺など4基の石棺が出土した。このほか遺跡周辺に分布する箱式石棺は昭和40年代に不時発見されたため、内容について判然としないものが多い（注4）。しかし、同時期に存在したこれらの遺跡や古墳はそれぞれ密

接な関係があるものと思われる。

注1：隈 昭志、杉村彰一「方保田調査概報」『チブサン』第13号、熊本県立鹿本高等学校考古学部、1968年

隈 昭志「山鹿市方保田の石棺群と遺物包含層の調査」『菊池川流域の古代文化』熊日出版、2012年に再掲

注2：宮崎 歩『方保田東原遺跡14』山鹿市文化財調査報告書第12集、山鹿市教育委員会、2011年ほか

注3：『山鹿市史』上巻、215-221頁、1985年

佐治健一『馬見塚古墳群 辻古墳』山鹿市文化財調査報告書第14集、山鹿市教育委員会、2012年

注4：中村幸史郎『方保田神社裏古墳』山鹿市文化財調査報告書第5集、山鹿市教育委員会、2007年



写真1 既存の配水タンク

第3節 調査の方法

①調査の体制

(1) 平成24年度

山鹿市教育委員会

教育長 杉本作徳（平成25年3月1日まで）
教育次長 寺崎泰和

文化課長 早田弘隆

審議員 丸山信敏

課長補佐兼文化財係長 園田正尚

文化財係（調査担当）宮崎 歩

山鹿市水道局

水道局長 宮本 稔

水道課長 宮田裕二

課長補佐 阿蘇品 健

(2) 平成25年度

教育長 堀田浩一郎

教育部長 木村厚男

文化課長 丸山信敏

課長補佐 園田正尚

文化係長 鮑本勝徳

文化係 宮崎 歩

山鹿市水道局

水道局長 宮本 稔

水道課長 宮田裕二

課長補佐 中原欣也

業務係長 功能宇治

(3) 作業員

原口洋一、森本正晴、江良敏彦、隈部匡徳、塚本良助、古閑孝昭（現地作業・山鹿市シルバー人材センター）

前川真由美、石橋洋子、高木由起子、松田上司（整理作業・山鹿市出土文化財管理センター）

②調査の方法

対象地の表土掘削は、調査員が包含層の状態を確認しながら重機で掘り下げた。その後作業員によって遺構面を清掃し、遺構を検出して検出状況写真を撮影した。東側の配水タンク予定地を1トレンチ、西側の管理棟（機械室）予定地を2トレンチとした。（第2・3図）

遺構は平板等によって配置図を作成し、種類ごとではなく検出順に番号をつけた。遺構写真は調査員

がカラーリバーサル・モノクロフィルムを使用して撮影した。撮影は35mmフィルムカメラを基本に、補助用としてデジタルカメラ、全体写真用として中型カメラを使用した。専門的な業務は以下のように委託した。

- ・発掘作業（山鹿市シルバー人材センター）
- ・遺構平面実測、遺構実測図デジタルトレース（㈱埋蔵文化財サポートシステム熊本支店）
- ・航空写真撮影（九州航空㈱熊本営業所）

調査期間中、調査地近くの大通小学校6年生を対象とした発掘調査体験（6月7日開催、50人参加）および市民を対象とした現地説明会（7月28日開催、20人参加）を実施して普及啓発に努めた。

現地調査期間は平成24年5月21日から8月17日であった。

今回の調査で出土した遺物量は内法54×34×15cmのコンテナで76箱、重量332.6kg。遺物量が多いのは両トレンチとも溝であった（表2）。

整理調査は遺物をすべて水洗・乾燥して、取り上げ単位（主にビニール袋）及び出土遺構ごとに番号をつけ、台帳を作成した。遺物は調査員が選別し、遺構の時期を示すものや特徴的なものを中心で注記した後、接合・復元した。注記は遺跡の略記号と調査年を組み合わせた「KTD2012」とし、遺物内面など目立たない部分に記入した。実測は作業員が中心に行い、担当者が確認した。実測図は印刷仕上がりの二倍サイズに縮小し、ロットリングペンでトレースした。一部の図面は担当者がデジタルトレースした。遺物写真は担当者が撮影した。整理作業終了後の出土遺物や実測図・写真類は、山鹿市出土文化財管理センターで保管している。

1トレンチ	2トレンチ
溝 SD-1	62.32
上括 SK-21	12.27
上括 SK-107	18.71
住居 SH-18	31.22
住居 SH-73	32.22
その他	73.9
合計	230.64
溝 SD-7	37.95
住居 SH-10	0.82
住居 SH-17	1.4
その他	37.62
合計	77.79
検出中	24.18
総合計	332.61

表2 出土遺物の重量
(単位:kg)

第4節 法令等の手続き

今回の発掘調査における文化財保護法(以下「法」という。)等の法令に基づく手続きは以下のとおり。

①調査の通知(法94条) 平成23年11月16日付け山下P1-104号。試掘調査の結果を添付して23年1月4日付け山教文M6-188号で熊本県教育委員会へ進達。24年1月16日付け教文第2431号で県から通知、発掘調査実施の指示。

②発掘調査の通知(法99条1) 24年5月1日付け山教文M6-25号で県教委に通知、24年5月11日付け教文第323号で県教委から通知。

③発見届(遺失物法13条)・保管証(法100条) 24年10月3日付け山教文M6-136号で山鹿警察署および県教委に提出。

④埋蔵物監査(法102条2); 24年10月22日付け教文第152号で県教委から通知。

第5節 調査の経過(調査日誌抄録)

5/21(月) 曇一時雨/機材搬入、小屋トイレ。9時から16時30分まで重機掘削、0.45級一台。検出開始。1トレで包含層(暗灰粘質土(床土) 植物細根多くしまる)より土器集中。床土の直下が遺構面(暗茶~茶褐色粘質土、しまる)。

5/22(火) 快晴やや風あり/調査区周辺に角杭とロープ設置。1トレ検出。南北方向に溝、住居少なくとも2棟。弥生後、古墳、古代の土器が混ざる。遺構面乾燥で見にくい。シートをかける。

5/23(水) 曇/1トレ検出。シート効果で作業が楽。検出写真撮影。

5/24(木) 曙/遺構掘削。中央溝は古代から中世。不定形の上拡はおおむね浅い。柱穴は深いものがある。

5/25(金) 雨/降雨のため作業中止。シートを外し水分補給。

5/28(月) 曙→快晴/2トレ検出ほぼ終了。2トレ全体に黒いSDか落ち込みか。1トレ平板。

5/29(火) 晴れ/2トレ検出、撮影、掘削。溝北端にサブトレ。

5/30(水) 曙/2トレ掘削。SD-7北サブトレ完掘。SH-10焼土上面より土製勾玉。

5/31(木) 曙時々雨/2トレ掘削、南半ピット群。北東SK-10焼土周辺より鉄1片。埋管(塩ビパイプ) w60、d76以上。南東SH-17焼土中心に方形プラン。

6/1(金) 曙/2トレ掘削、南半ピット群深い。SD-7掘削。

6/4(月) 曙、強風/2トレ、SD-7断面写真撮影。断面実測。

6/5(火) 雨のち曇/雨のため休み。

6/6(水) 晴れのち曇/2トレ、体験発掘用意(サイン、道具、資料等)。柱穴、土坑の掘削。SD-7東側。SH-10完掘。

6/7(木) 曙/体験発掘、SD-7上層の黒褐土を掘削。①9:30~6年1組22人+引率教諭。②10:30~6年2組23人+引率教諭。報道(新聞2社、テレビ2社)、秘書課。2トレ柱穴掘削。SD-7中央中層よりほぼ完形の大型壺1点。

6/8(金) 雨のち曇/雨天のため休み。

6/11(月) 曙のち雨/2トレ SD-7内にSK-70。

6/12(火) 曙のち雨/雨天のため中止。

6/13(水) 快晴/2トレ PIT-72中央の焼粘土、断面実測。SK-70(SD-7内)断面実測。

6/14(木) 快晴/2トレほぼ完掘。塩ビパイプは排水管。

6/15(金) 曙のち雨/1トレ検出。降雨のため、午前中終了。

6/20(水) 曙/2トレ完掘状況撮影。SD断面実測。

6/22(金) 快晴/1トレ東半検出、SD-1掘削。5m毎に三分割。

6/26(火) 曙のち晴れ/2トレ排水。1トレ掘削。

6/28(木) 曙一時小雨/1トレ SD-1、N区とC区ほぼ完掘。白磁合子、ベンガラ付き凝灰岩片。SH-17出土状況撮影。

6/29(金) 曙/1トレ SH-21周辺にサブトレ①~⑤掘削。

7/2(月) 曙のち雨/2トレ排水、土器洗浄。午後、1トレ掘削・SH-18・21、SD-1南東のピット群。

7/3(火) 曙のち雨、7/4(水) 雨一時曇/降雨のため土器洗浄。

7/5(木) 曙/2トレ排水。1トレ掘削 SH-18、一段下げて柱穴。SH-21周辺。SD-1完掘。

7/6(金) 曙のち雨/1トレ掘削。雨のため土器洗浄。SK-39、遺構群の上のたまりか。一部掘削。

7/9(月) 快晴/1トレ掘削、SH-18遺物取り上げ。下に遺構なし。

7/10(火) 晴れのち曇/1トレ掘削、検出。

7/11(水) 曙/1トレ SK-37、PITか。PIT-5切り合いあり。

7/19(木) 曙、午後快晴/2トレ排水、泥出し。1トレ掘削。

7/24(火) 快晴/2トレ実測。1トレ掘削、PIT-5、SK-23。

7/25(水) 晴れ/1トレ掘削。1、2トレ実測。

7/26(木) 快晴/1トレ掘削、断面図。PIT-87、SD-1ベルト。

7/27(金) 快晴(一時雨)/1トレ SH-73掘削。SK-19ベルト撮影。

7/28(土) 快晴/現地説明会、20人参加、広報宣伝不足。

7/30(月) 晴れ一時雨/1トレ掘削。SK-93断面実測、完掘。SD-70、SH-62ベルト実測。

7/31(火) 快晴/2トレ掘削。東風強い。

8/1(水) 快晴のち曇/1トレ SH-73掘削。E区内のPIT切り合う。S区、うつすらと白粘土。N・W区掘削始める。

8/2(木) 曙のち晴れ/1トレ SH-73・SK-21遺物取り上げ。PIT実測。SK-21、浅い。断面実測。

8/3(金) 晴れ一時曇/1トレ SH-73・SK-21・SD-1等掘削。

8/6(月) 晴れのち曇/1トレ PIT-37・110・112、SK-107白粘土、ベンガラ。SD-1ベルトより滑石製垂飾。層位不明。

8/7(火) 晴れのち曇/1トレ掘削。撮影前掃除、SK-107から鉄器、刀子か。柄らしき木質も。SK-18・19下層掘削。

8/8(水) 晴れのち曇/1トレ掘削、掃除。

8/9(木) 曙一時雨/清掃。全景写真撮影後、雨が降り始める。メッシュ設営。SH-73ベルト実測。SD-1南北両端写真。

8/10(金) 快晴/SH-73ベルト掘削、写真。SD-1南北端実測。2トレ図面確認。SD西端実測。トイレ汲み取り、ハウスと共に撤収。機材は文化財管理センターへ搬出。SH-73中央に灰溜まり。

8/15(水) 晴れ/実測(3名)

8/16(木) 晴れ/実測(4名) 図面チェック。

8/17(金) 晴れ/機材洗浄、10~17時埋め戻し、撤収。

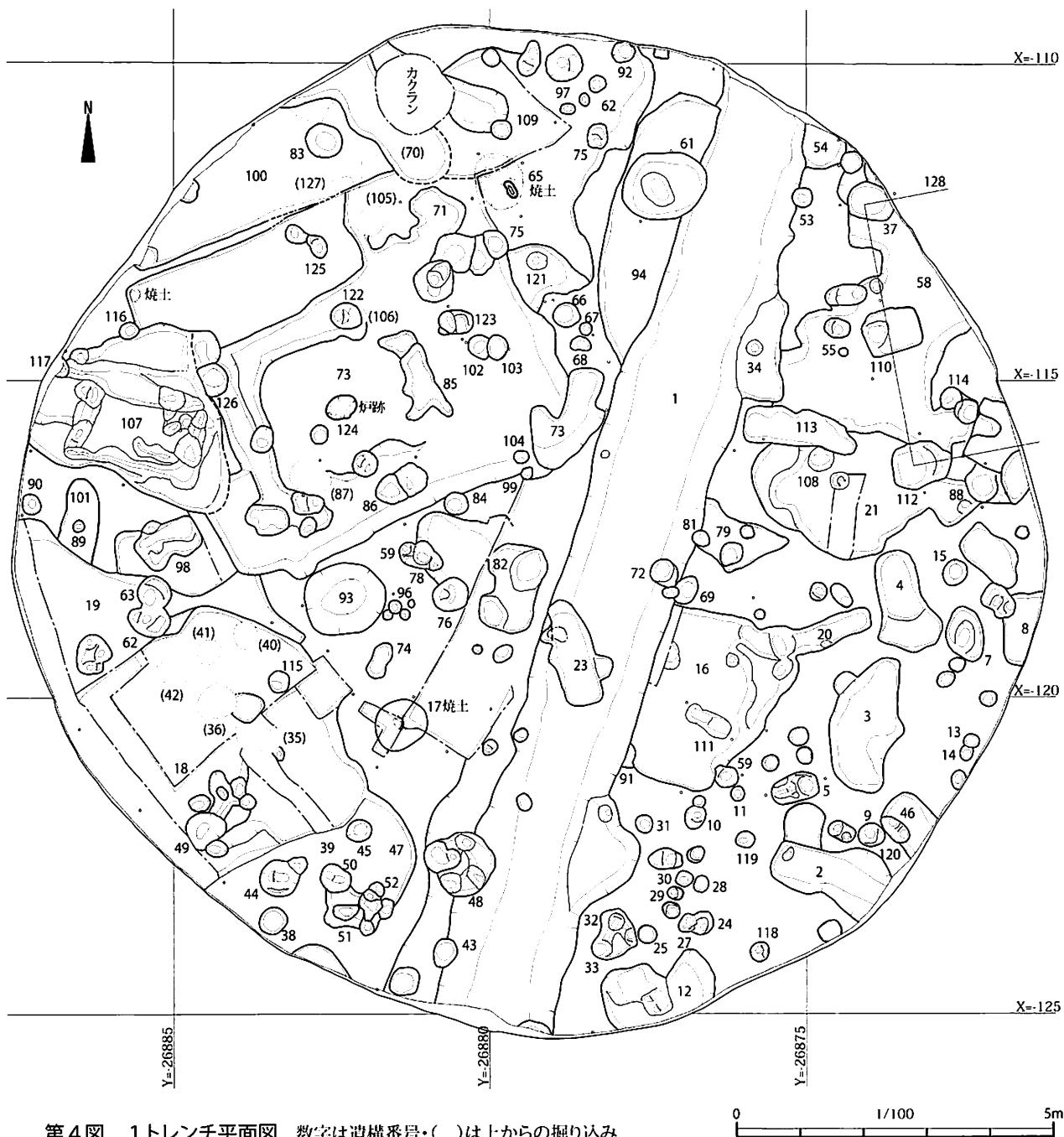
第2章 調査の成果

第1節 調査区の位置

今回の調査地点は遺跡推定範囲の中央付近、台地の南縁近くに位置する（第1図）。周辺は昭和43年の圃場整備事業以降、水田や畑として利用されている。調査面積は1トレンチ 200 m²、2トレンチ 150 m²（合計 350 m²）である。

第2節 層序

調査区はかつて畠として利用されていたため、ほぼ平坦であった。地表面の標高は33.0～33.3 m付近。層序はどちらの調査区も大差なく、上層から順に耕作土（厚さ0.2 m程度）・床土（厚さ0.1～0.2 m程度）の下層が遺構検出面であった。かつて圃場整備によって大きく削平されたとのことで、床土に土器が多く含まれる部分があった他に明確な包含層は残存していなかった。遺構検出面は標高32.8～32.9 m付近の褐色土（10YR4/4）で、これ以下は



32.4～32.7 m付近で締まりのある黄褐色粘質土(10YR5/6)となる。表土の堆積状況は1トレンチ溝SD-1の南北壁(第12図①⑤)、2トレンチ溝SD-7北壁(第23図①)などを参照のこと。

第3節 遺構と遺物

①トレンチ(第4・5図、図版4)

調査地の東側、配水タンク建設予定地に設定した円形の調査区である。中央部でほぼ南北に走る溝SD-1、その東側に竪穴住居SH-18・73と墓拡SK-107、北東部で掘立柱建物SB-128の一部、南東部で不整形の土坑や直径0.3 m程度の小規模な柱穴などが分布する。遺構面の南北2箇所で焼土を確認したが、これに伴う遺構は検出できなかった。

(1) 住居 SH-18(第6・7図、図版5・14)

調査区南西に位置する竪穴住居。平面形状は東がふくらんだ楕円形で、南西は調査区外。南東で土拡SK-18を切る。東西3.7×南北3.7 m以上、深さ0.4 m。北壁の掘り込みはなだらかで、南壁はおおむね垂直に立ち上がる。柱穴やカマド・炉・貼床などは検出しなかった。竪穴住居としたが、不整形な平面や掘り込み形状などから、大規模な土拡である可能性もある。

遺物は埋土全体から土器片などが31.22kg出土したが、接合状況は悪い。甕は頸部付近までタタキ調整を残すものが大半である。内面をよく削り器壁を薄くしているものもある(第7図1・2)。壺口縁(7図3～11)に文様は見られないが、外面の一部にベンガラが付着したるものがある(7図10)。大型の鉢(7図21・22、図版14-2)は直径の異なる別固体の口縁部だが、いずれも頸部の突帯に刻目を施す。

台付鉢(7図23、図版

14-3)は脚台に二孔一組で三方向のゆがんだ円形透かし孔があるが、貫通しているのは一箇所のみである。土拡SK-21でも同様に、透かし孔が貫通していない高杯脚部(16図4)が出土している。器台(7図32、図版14-3)の脚部外面中央には長さ6 mm程度の糲状の植物種子圧痕がある(下写真)。この器台は外面にほとんどナデ調整を施さず、口縁も水平に整えないなど粗雑な作りである。小型のコシキ(7図33)は底部に単孔がある。

(2) 住居 SH-73(第8～10図、図版2・3・14)

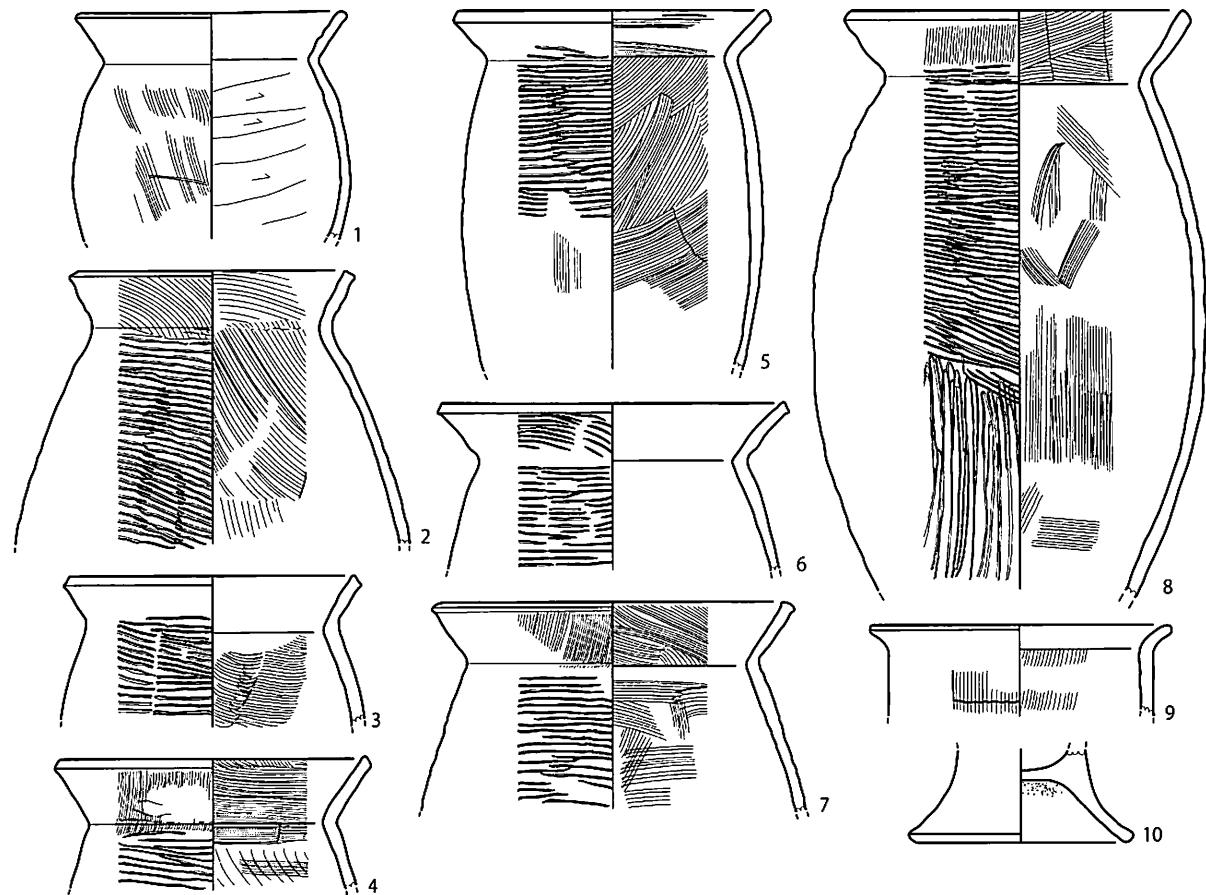
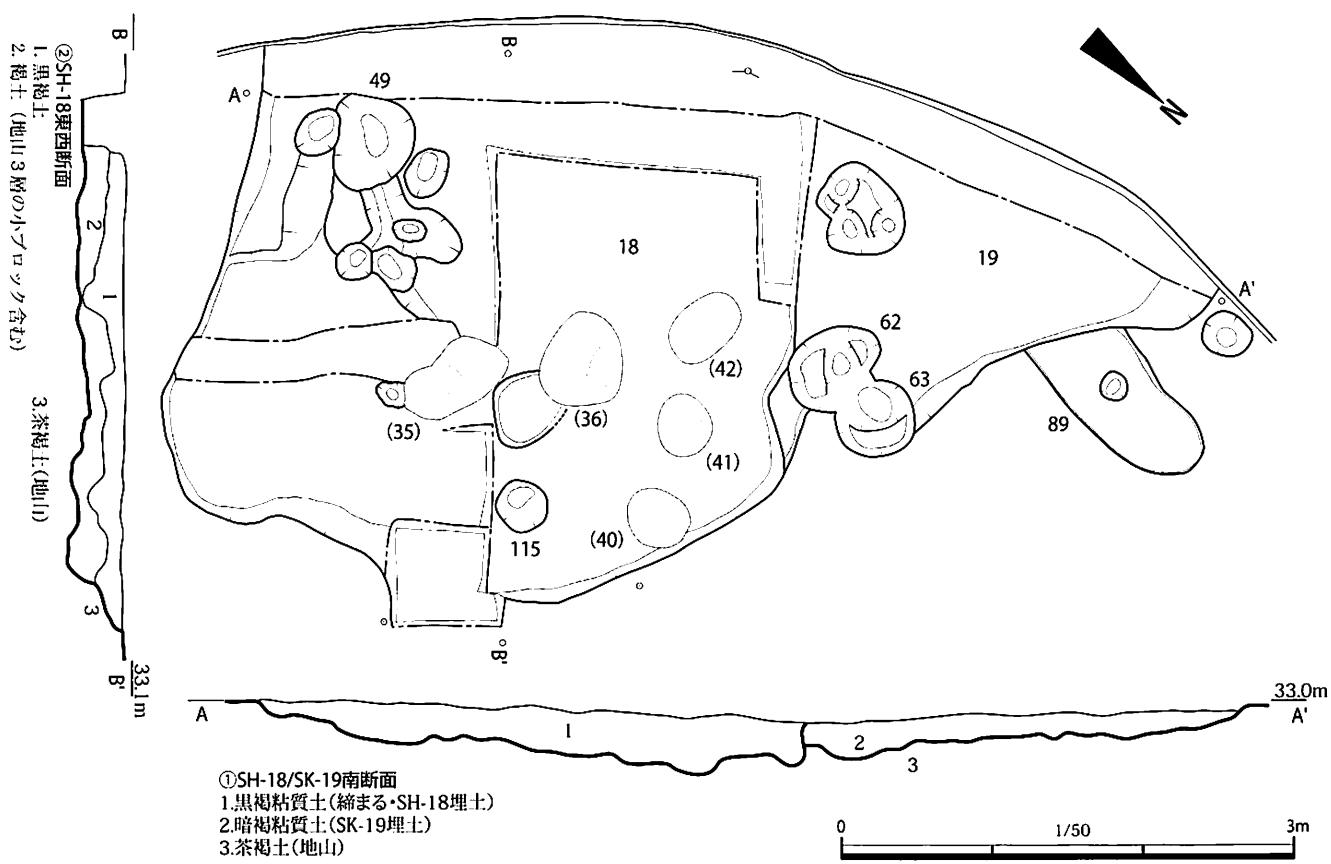
調査区中央北西に位置する竪穴住居。西壁の大半を土拡SK-107に、西隅を不整形の土拡SK-73に、北隅を溝SD-70に切られ、北東で竪穴住居SH-100



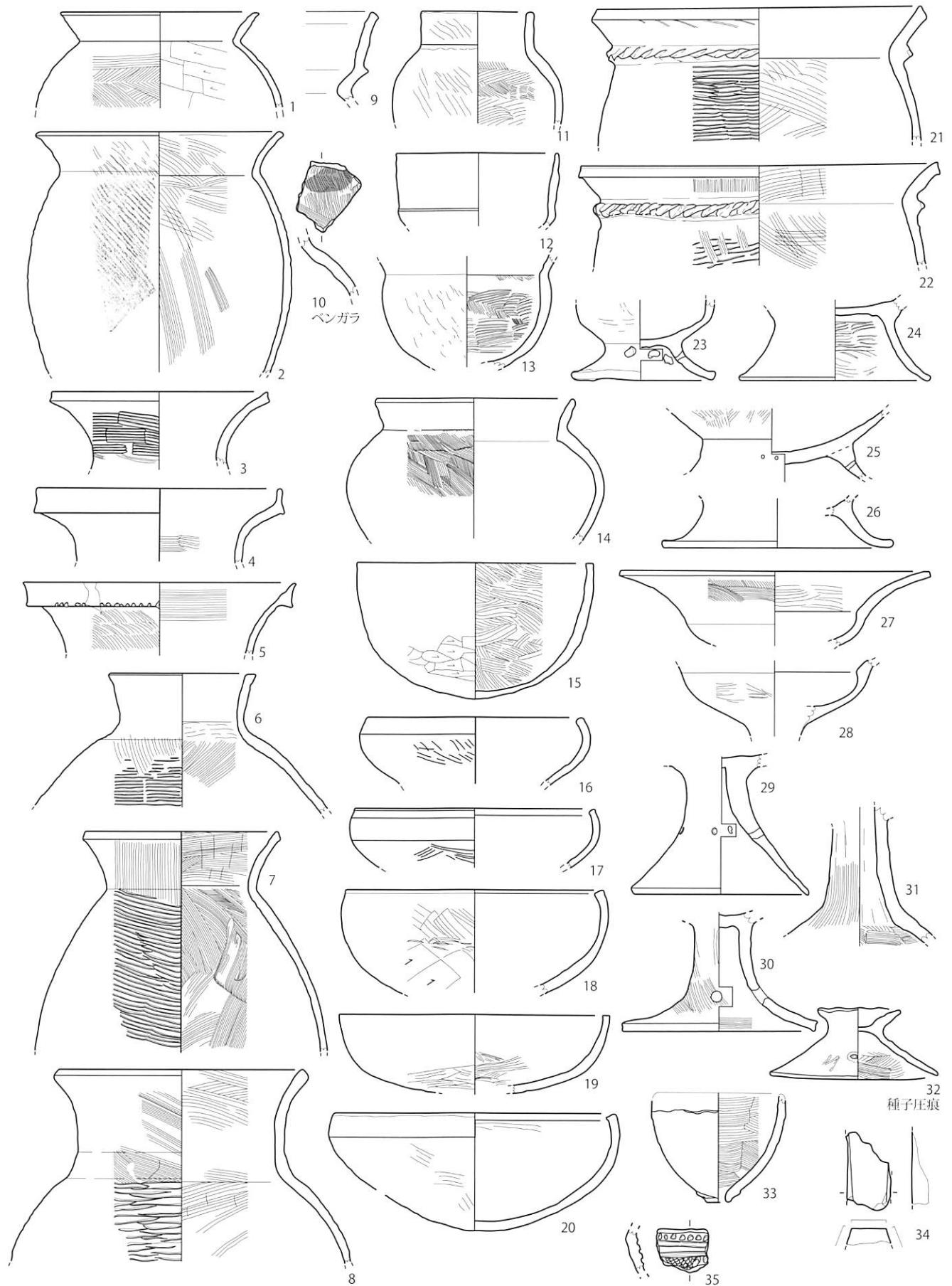
写真2 糲痕か



第5図 1トレンチ遺構番号



第6図 1トレンチSH-18・出土遺物



第7図 1トレンチSH-18出土遺物

を切る。平面形状は東西に長い長方形で、規模は北辺 5.8 m、南辺 6.1 m、東辺 5.2 m、西辺 5.0 m、深さ 0.12～0.41 m。北西にベッド状遺構(3.7×1.5 m・図版 6-1)。主柱穴は柱穴 PIT-126 ほか 3 基で、西隅には所在しない。中央やや南で炉 (SK-124、0.5 × 0.4 × 深さ 0.03 m・8 図 6・図版 6-3) があり、ごく浅いくぼみに焼土が集まっていた。東半中央付近の柱穴 PIT-123 (0.38×0.55× 深さ 0.4 m・図版 6-2) の底面近くから、ほぼ完型の小型丸底壺 (10 図 13、図版 14-4) が出土した。

遺物は埋土全体から土器片などが出土した (32.22kg)。甕は体部外面に刷毛調整を施し、タタキは見られない。沓型器台 (9 図 13) は今回の調査で唯一の出土。大型の広口壺 (9 図 18) は口縁端部と頸部突帯に同一の刷毛状工具による刺突文を施す。グラス状の小型土器 (10 図 3・4、図版 14-6) は精製され砂粒を含まない胎土で、杯部外面全体を磨いてから鋭利な工具による細線刻を施す。杯部の文様は口縁下に平行した二本の直線文と、そこから下に向けて緩やかに湾曲して先端の尖る鉤状文からなる。土器を上から見て口縁の周間に文様を展開させると、巴形銅器を思わせるような文様構成である。杯部と脚部は接点がないが、胎土や調整から同一固体と判断して図化した。脚部には単孔三方向の透かし孔がある。ミニチュア土器は杯などがあり、高杯の脚部らしき小片 (10 図 9、図版 14-6) は内面に放射線状の線刻があり、外面にも一部線刻が残る。鉢口縁部 (10 図 12) は住居内中央部の柱穴 PIT-122 から、口縁の一部が欠損するのみでほぼ完形の小型丸底壺 (10 図 13、図版 14-4) は住居内東部の柱穴 PIT-123 から出土した。鉄器は鎌の一部 (10 図 15)、針状製品 (10 図 14) がある (図版 16-4)。砥石とした石材 (10 図 16) は上下両端を欠損している。使用面が見られないことから自然石の可能性もある。埋土からはこのほかに縄文土器 (鉢、深鉢) 口縁部 (10 図 17～26、図版 14-7) や石錐 (10 図 27、図版 16-5) も出土した。

(3) 住居 SH-100 (第 8 図)

調査区北西端に位置する竪穴住居。大部分が調査区外に位置し、南東を竪穴住居 SH-73 に切られ、東を溝 SD-70 に切られる。深さ 0.12～0.2 m と浅い。規模は東西 4.5 m 以上。調査区端で南西隅らしきカーブがあるので、東壁が溝 SD-70 付近とすれば

東西辺 5.0 m 程度か。床面はほぼ平坦で、柱穴 PIT-83 (規模 0.6×0.54m、深さ 0.24m) はこの住居に伴うものか。カマドや炉、貼床などは検出しなかった。高杯口縁部 (第 10 図 28) などが出土した。

(4) 建物 SB-128 (第 11 図、図版 7)

調査区東部に位置する掘立柱建物。大部分が調査区外にある。建物を構成する柱穴は 3 基を検出し、北から順に PIT-37 (0.6×0.75× 深さ 0.54 m・図版 7-2)・PIT-110 (0.7×0.8× 深さ 0.48 m・図版 7-4)・PIT-112 (0.7×0.95×0.43 m・図版 7-5)。いずれも平面は隅丸方形で深く、底面は平坦、柱穴 PIT-110 のみ一部が深い。柱痕は検出しなかった。柱穴間距離は芯々で 2.1 m の等間隔。

南の柱穴 PIT-110・112 は土括 SK-21 の下層で検出した。PIT-37 や PIT-110 から甕脚部 (第 11 図 1) などが出土したが、遺構時期を示すものではないだろう。柱穴規模などからみて、古代に属する建物か。

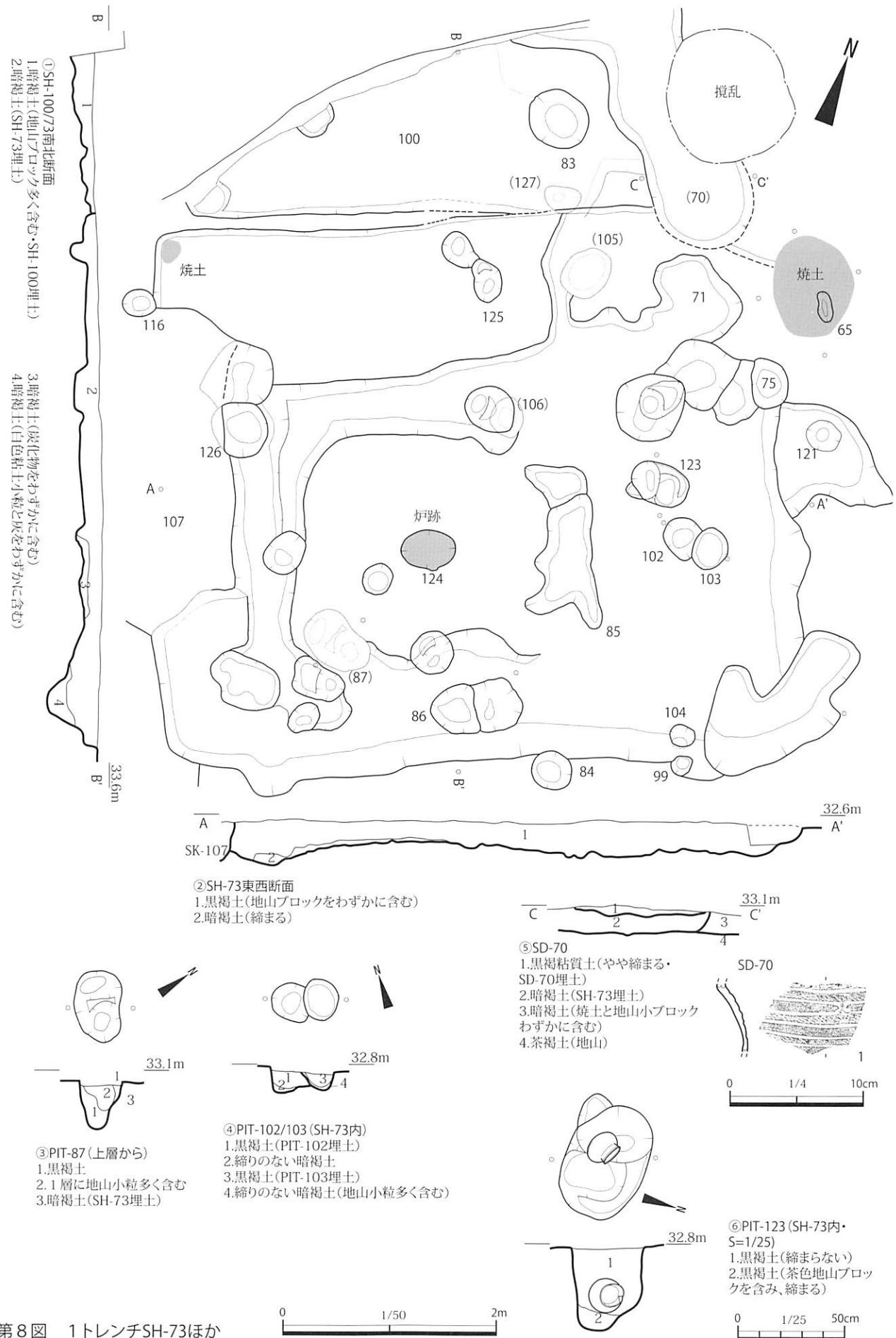
(5) 溝 SD-1 (第 12・13 図、図版 3・8・16-3)

調査区中央を北から南に流れる溝。長さ 15.4 m を検出し、両端は調査区外へ続く。幅は調査区北端で 1.85 m、南端で 2.8 m。標高は北端で 32.73 m、南端で 32.46 m。底部はほぼ平坦。土括 SK-16・23・61、柱穴 PIT-48 など他の全ての遺構を切る。全体を 3 分割 (北区・中央区・南区) して掘削した。

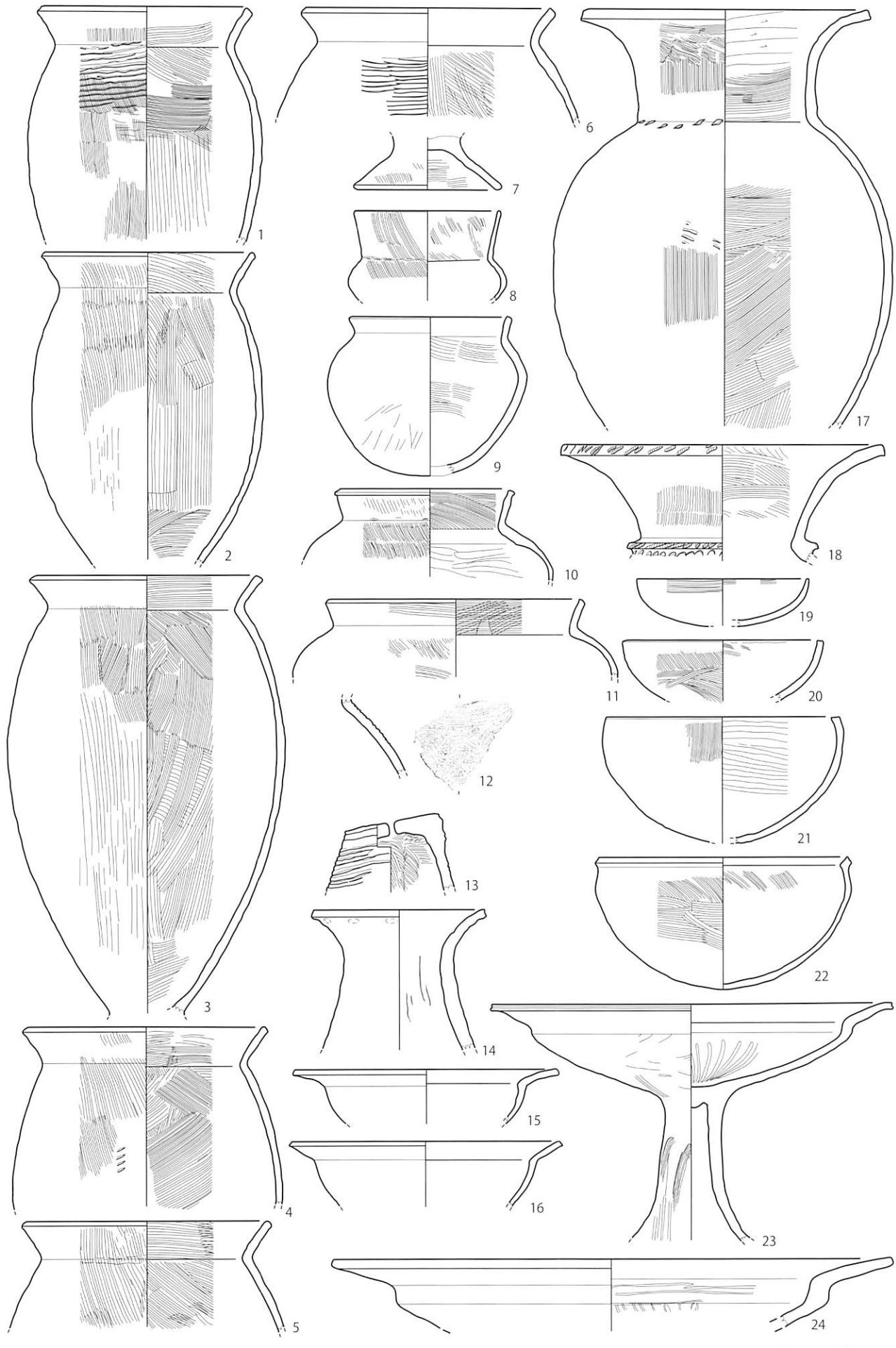
遺物は中世を中心に縄文土器と弥生時代末から古墳時代初頭の土器などを含み、62.32kg が出土した。黒色土器 (13 図 4～7) はいずれも内外面にヘラミガキを施す。滑石製石鍋 (13 図 8～11) のうち、8 は口縁端部に縦方向の把手がある。11 は底部の再利用品か。石製品のうち、磨製石斧 (13 図 37・38) はいずれもごく小片。子持勾玉模造品 (13 図 41、図版 16-2) は扁平で未貫通の孔が 1 個見られる。やや大きな石材 (13 図 42、図版 15-6) は残存する二面の全体にベンガラが付着し、破断面の一部にかけて薄く煤が付着する。

(6) 溝 SD-70 (第 8 図⑤、図版 8-5)

調査区北西に位置する浅い溝。長さ 2.3 m を検出し、北は調査区外へ続く。南端は明確に検出できなかった。竪穴住居 SH-73・100 を切る。幅 1.1 m、深さ 0.09 m。

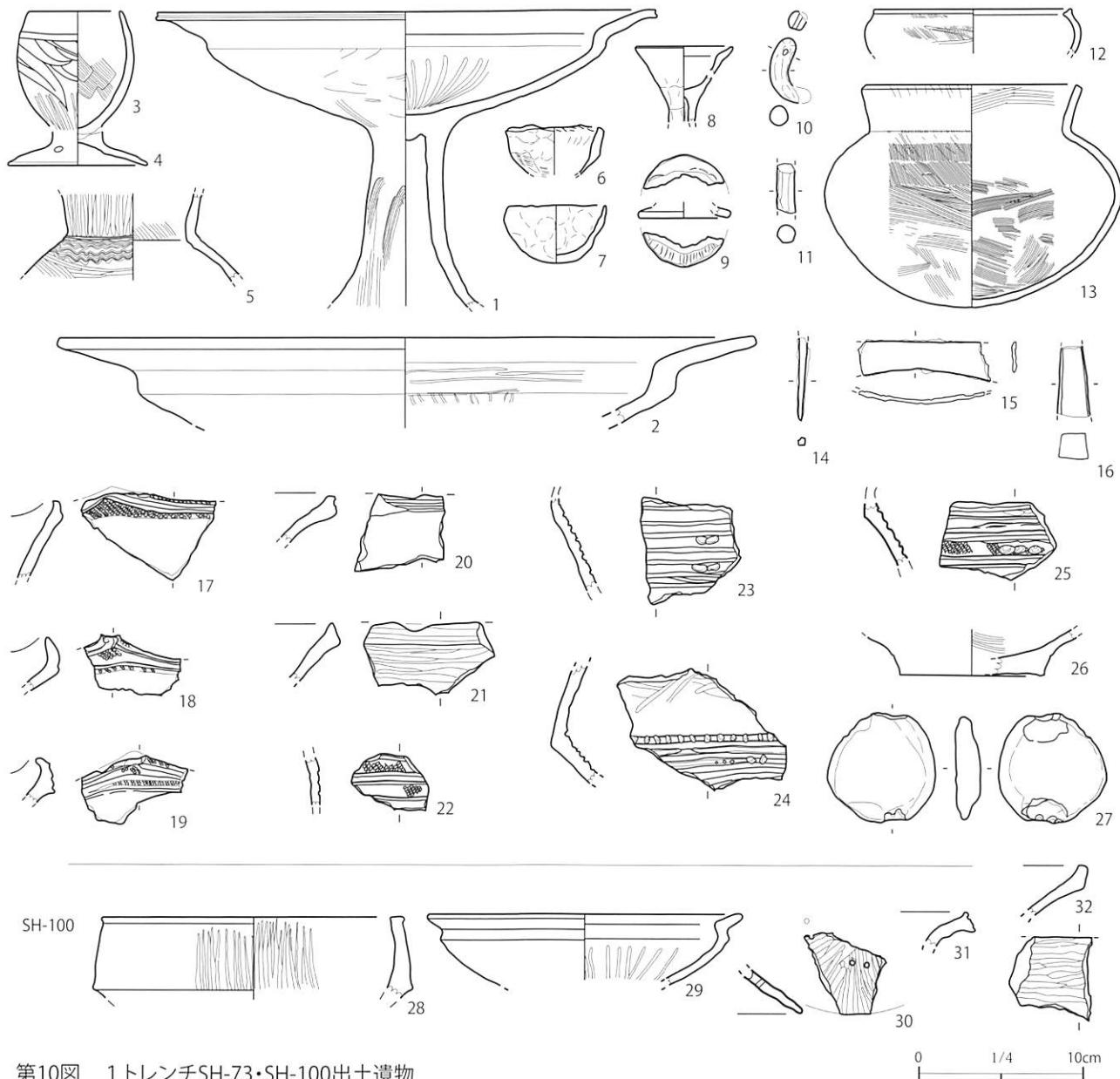


第8図 1トレンチSH-73ほか



第9図 1トレンチSH-73出土遺物

SH-73



第10図 1トレンチSH-73・SH-100出土遺物

(7) 土括 SK-3 (第4図)

調査区南東、土括SK-16の東に位置する。南北に長く規模は $2.15 \times 1.15 \times 0.3$ m。縄文土器片、石鍬などが出土した(第16図9・10、図版16-5)。

(8) 土括 SK-4 (第4図)

調査区南東、土括SK-3の北に位置する。南北に長く規模は $1.6 \times 1.05 \times 0.06$ mと浅い。縄文土器片が出土した(第16図11)。

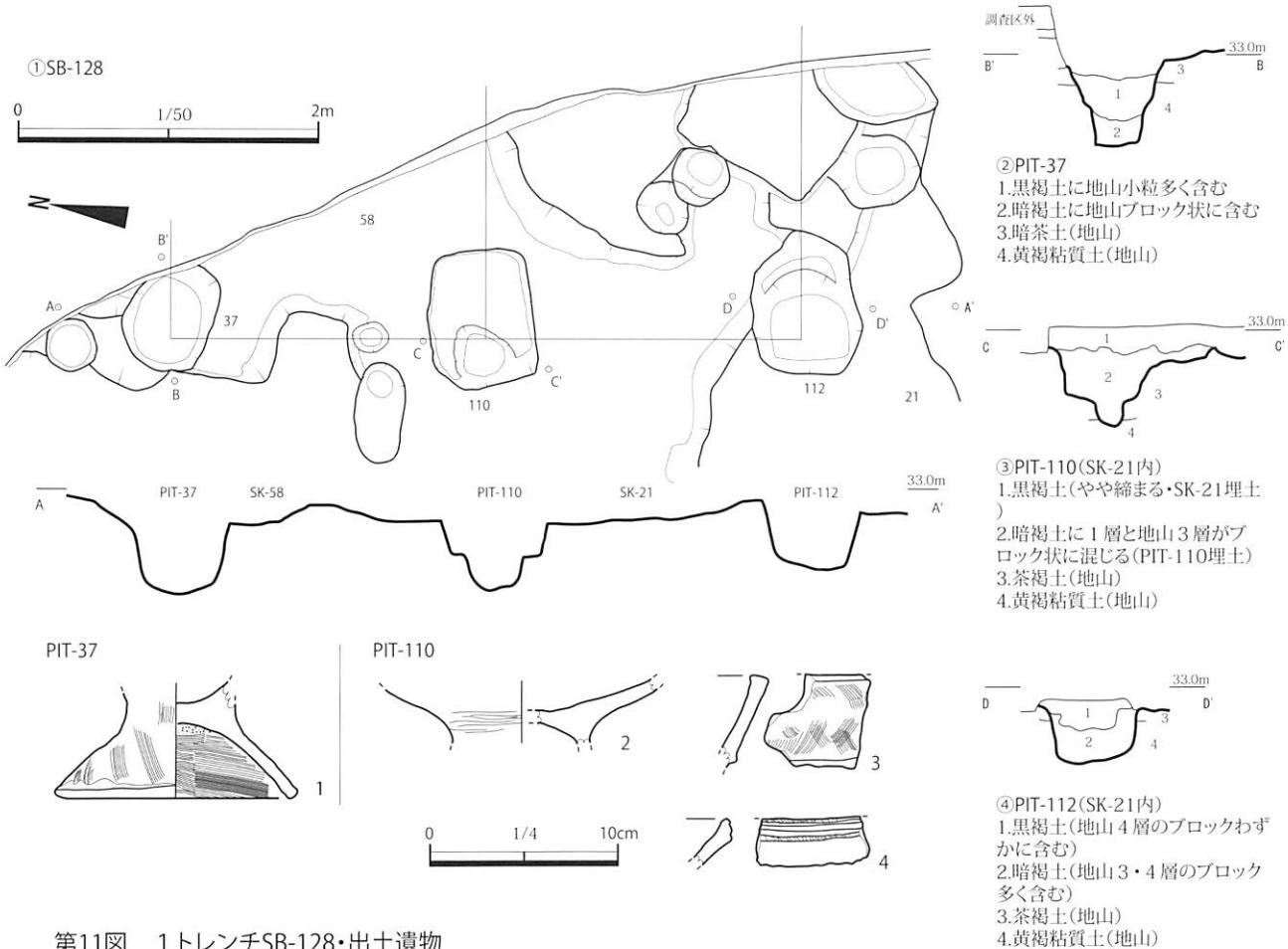
(9) 土括 SK-12 (第4図)

調査区南端、溝SD-1の東に位置する。平面は不

整形で調査区外へ続き、規模は 1.0 以上 $\times 1.9 \times 0.46$ m。縄文土器片が出土した(第16図12)。

(10) 土括 SK-16 (第12図、図版9-1)

調査区中央のやや東に位置する土括。溝SD-1に西半を切られる。東隅は溝状に伸びる。この部分は別遺構(溝SD-20・長 $1.3 \times$ 幅 $0.4 \times$ 深 0.2 m)としたが、切り合い関係は確認できていない。規模は東西 $1.5 \sim 2.2$ m以上、南北 2.8 m、底面はほぼ平坦。高杯脚部(第12図1)が出土した。中央やや南東より柱穴PIT-111($0.34 \times 0.75 \times$ 深さ 0.3 、第12図・断面③5層)を検出した。



第11図 1トレーナーSB-128・出土遺物

(11) 土壙 SK-17 (第4図)

調査区中央のやや南西に位置する焼土。小さく焼土が集まる範囲 ($0.16 \times 0.26 \times$ 深さ 0.06 m) の周囲に焼土をごくわずかに含む褐色土が楕円形状 ($2.0 \times 2.06 \times$ 深さ 0.1 m) に広がる。遺構検出面では掘り込みのラインを検出できず、断ち割りで確認した。遺物は出土していない。

(12) 土壙 SK-19 (第6図)

調査区南西端、住居 SH-18 に切られる。規模は 2.8 以上 $\times 3.0$ 以上 $\times 0.1$ m と浅い。縄文土器の深鉢口縁 (16図 13 ~ 16)、弥生後期の甕脚台 (13図 17) などが出土。

(13) 土壙 SK-21 (第14 ~ 16図、図版9-2)

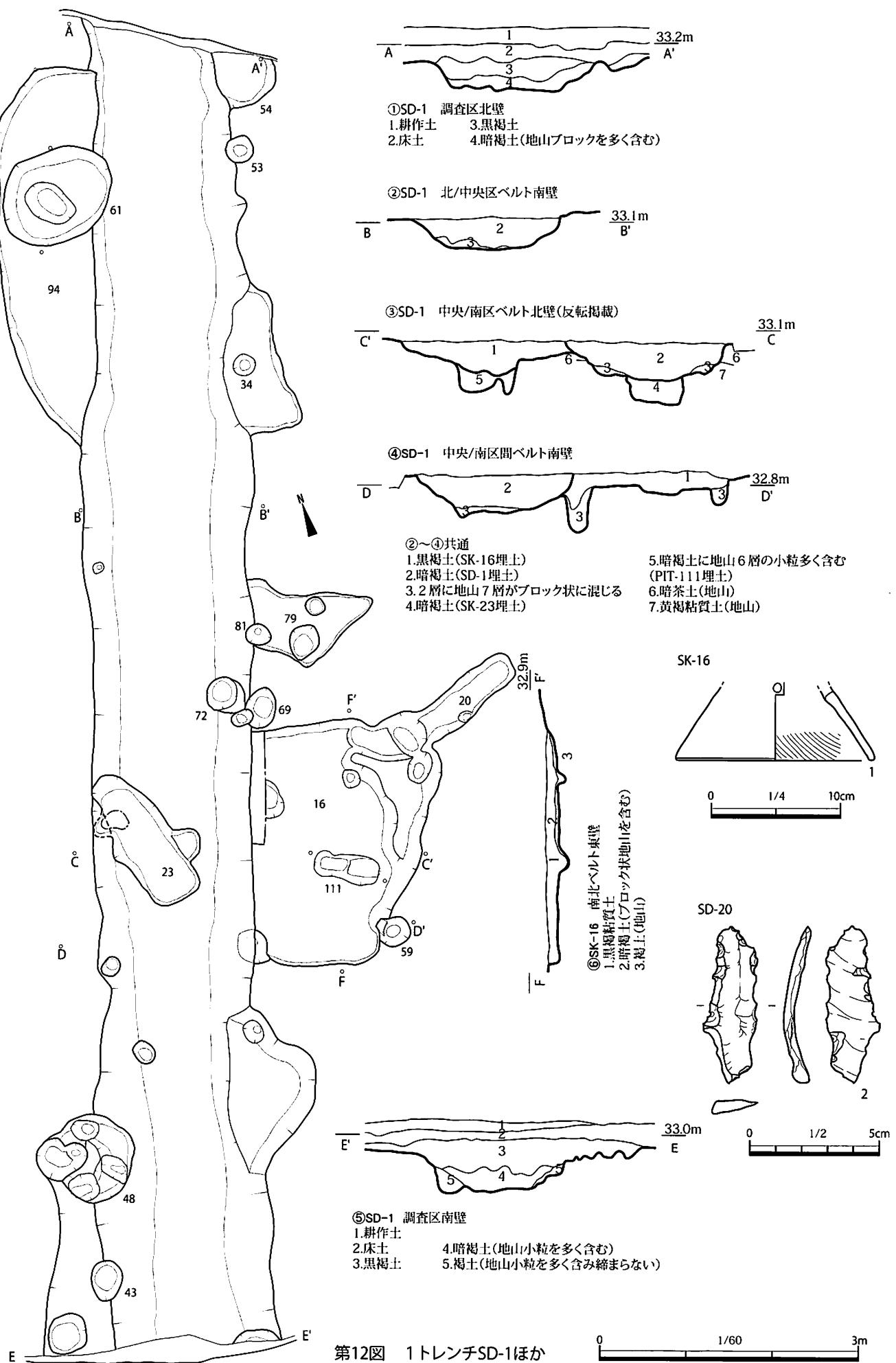
調査区北東部に位置する土壙。重機掘削段階から土器が集中した状態で検出した。平面はゆがんだ円形で規模は東西 2.5 m程度、北端は溝状の落ち込み (溝 SD-58) に連続して明確に検出できなかった。南北 4.0 m程度の大きさか。下層から掘立柱建物

SB-128 の柱穴 PIT-110・112 を検出した。土壙は深さ 0.14 mと浅く、上面 1 m四方の範囲で土器片を多量に検出した (12.27kg) が、接合状況は悪い。本来の遺構上部はかなり削平されているようだ。遺構面を掘削して構築した土壙ではなく、くぼみに土器片を投棄したものか。

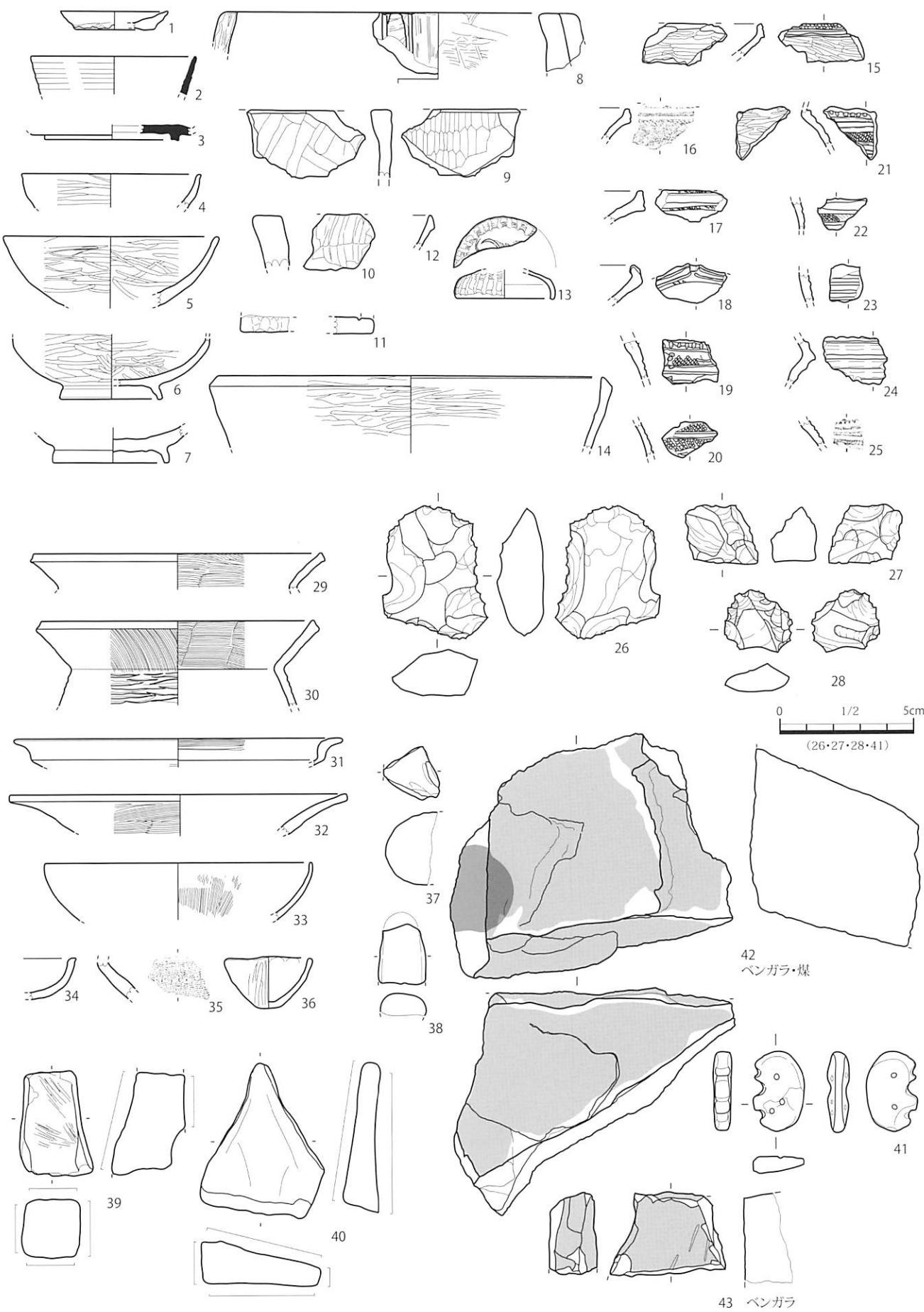
遺物のうち、甕は脚台がつかない長胴で、頸部までタタキを施す。壺口縁のうち、下端に刻み目を施すものがある (15図 13)。グラス状土器 (16図 5、図版 15-2) は脚部外面の三箇所に「ハ」字状線刻があり、その間に二個一組の透かし孔がある。住居 SH-73 から出土した線刻のある精製品 (10図 3・4) と同様の器形だがやや大きく、調整や胎土は普通程度である。円礫には一部が赤く変色したもの (16図 6) や黒く変色したもの (16図 7) がある。

(14) 土壙 SK-23 (第12図、図版9-3・10-4)

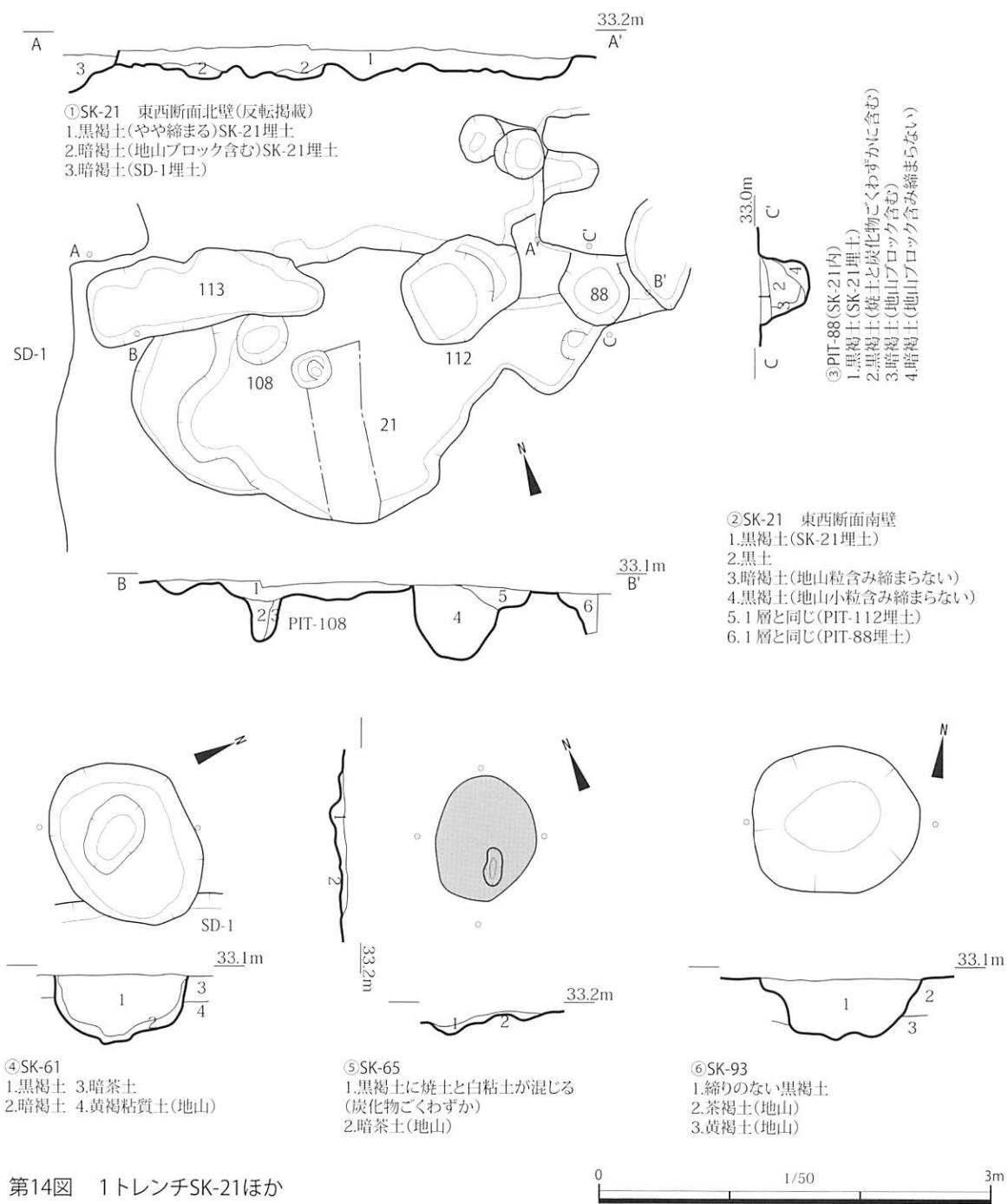
調査区中央、溝 SD-1 の下層で検出した土壙。平面は隅丸長方形で規模は $1.2 \times 0.6 \times$ 深さ 0.32 m (12図③断面4層)。この部分で SD-1 の深さが 0.45



第12図 1トレンチSD-1ほか



第13図 1トレンチSD-1出土遺物



第14図 1トレーナーSK-21ほか

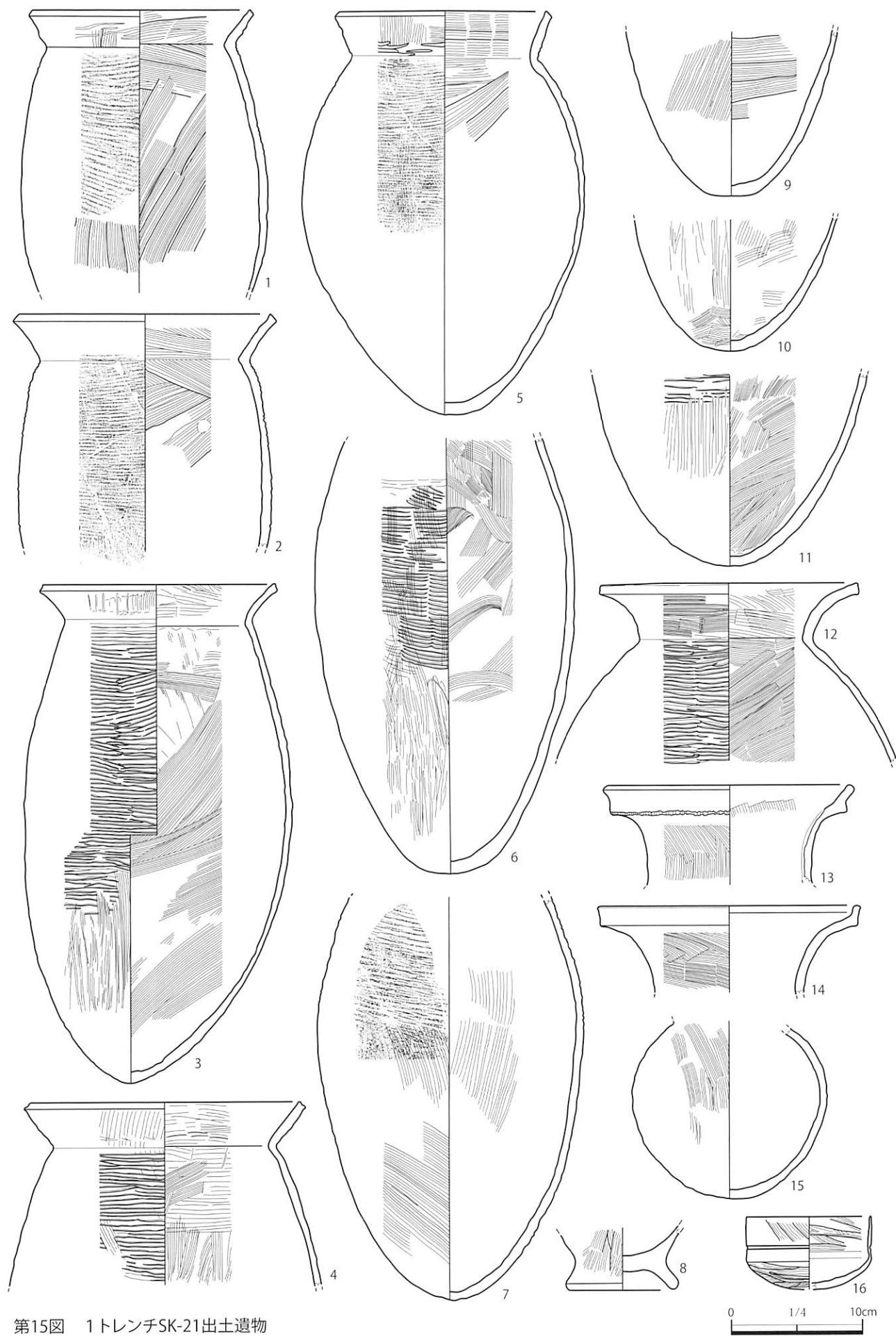
mあるため、本来は 0.77 m以上の深さである。北西の一部が工事のためのボーリングによって破壊されていた。遺物は出土しなかった。

(15) 土塹 SK-39 (第4図)

調査区南端、溝SD-1と住居SH-18の間に位置し、SH-18に切られるようだが埋土が浅いため判然としない。規模は $1.5 \times 1.5 \times 0.06$ m。波状文を施す壺体部や甕口縁などが出土 (16図 18~20)。

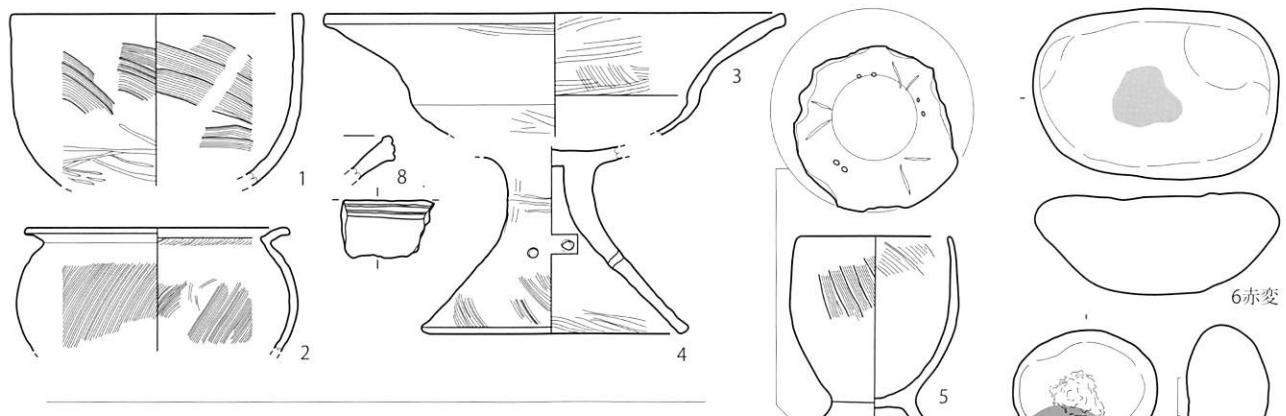
(16) 土塹 SK-61 (第14図④、図版9-5・10-6)

調査区北部の中央に位置する土塹。東を溝SD-1に切られる。平面橢円形で規模は $1.05 \times 1.4 \times$ 深さ 0.52 m。中央部がわずかに深くなる。埋土は壁から床面にかけて粘土を貼り付けたような状態であった。壺口縁や土師器の杯蓋などが出土 (16図 21・22)。

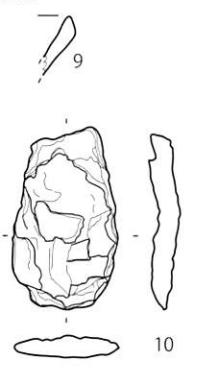


第15図 1トレンチSK-21出土遺物

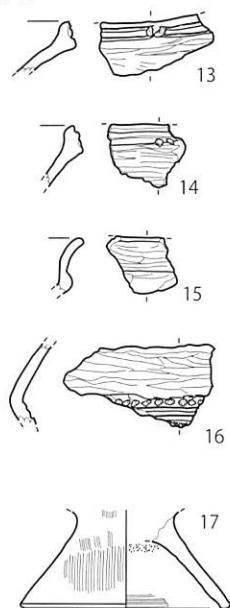
SK-21



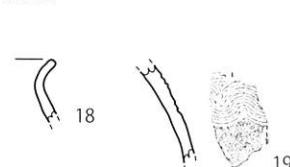
SK-3



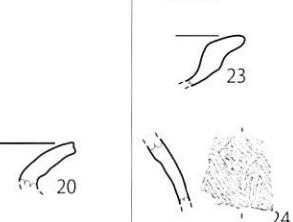
SK-19



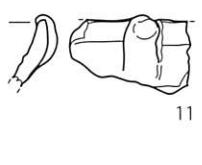
SK-39



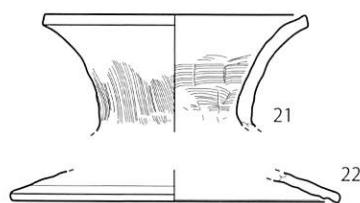
SK-65



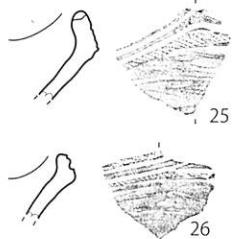
SK-4



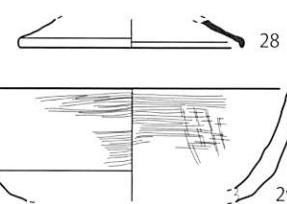
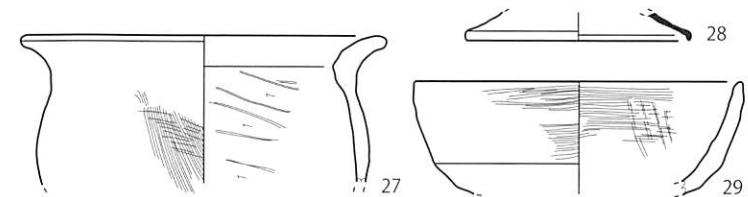
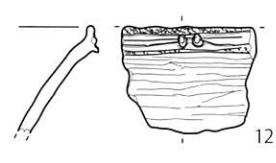
SK-61



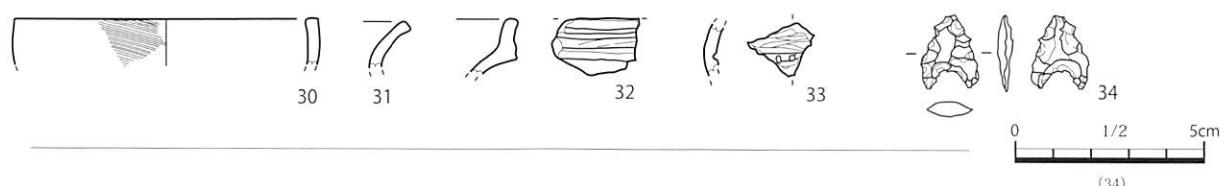
SK-62



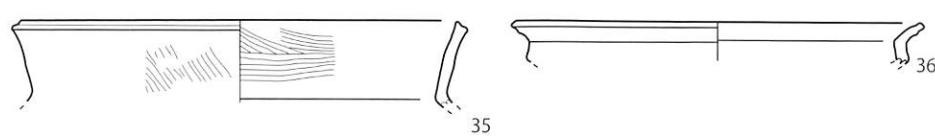
SK-12



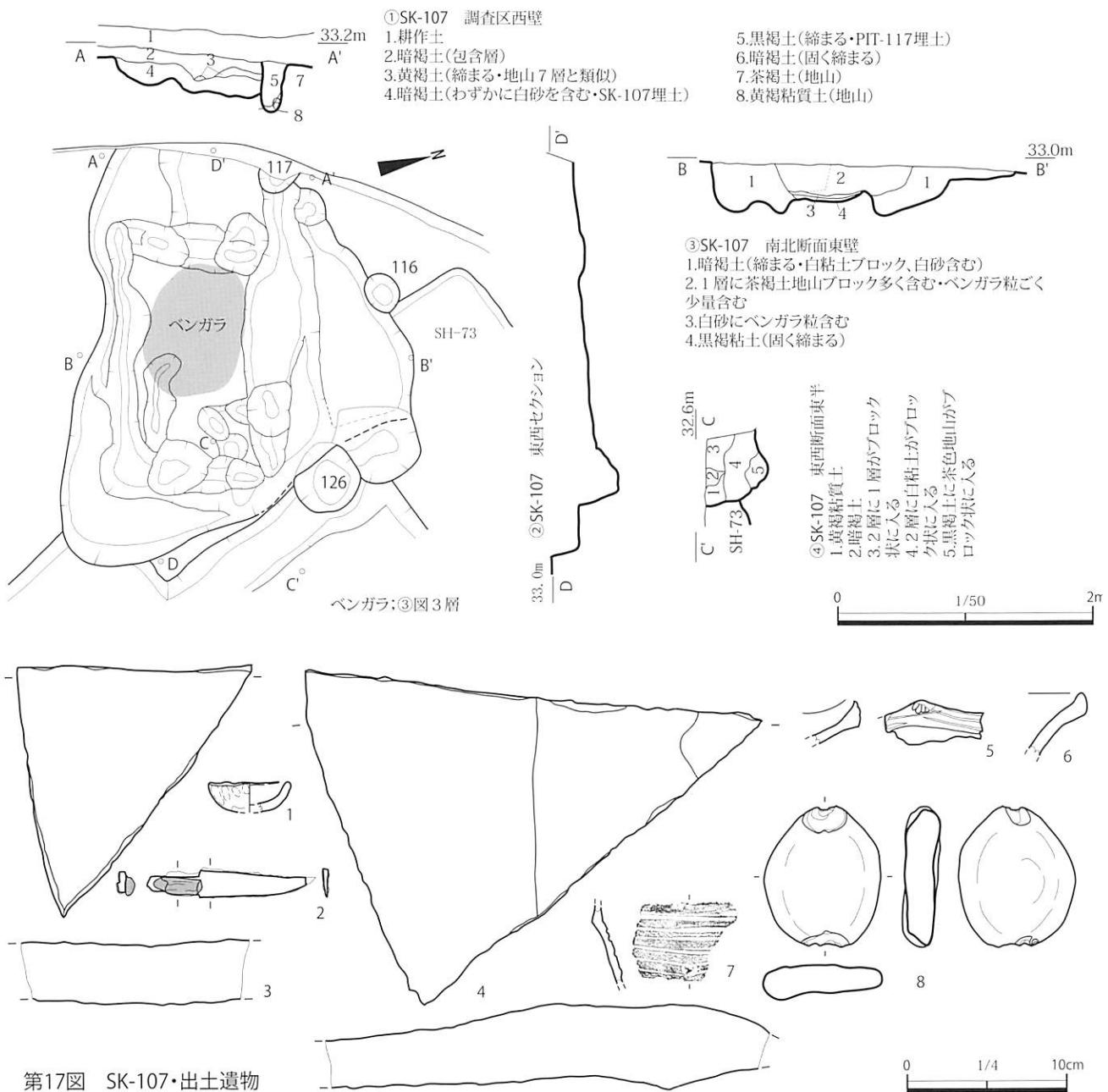
SK-82



SK-113



第16図 1トレンチSK-21ほか出土遺物



第17図 SK-107・出土遺物

(17) 土括 SK-62 (第4図)

調査区西部、住居SH-18と土括SK-19の間に位置する。平面は楕円形で $0.7 \times 0.55 \times$ 深さ0.16mと浅い。縄文土器の波状口縁鉢(16図25・26)や土師器の蓋、甕、杯(16図27~29)などが出土。

(18) 土括 SK-65 (第14図⑤、図版9-7)

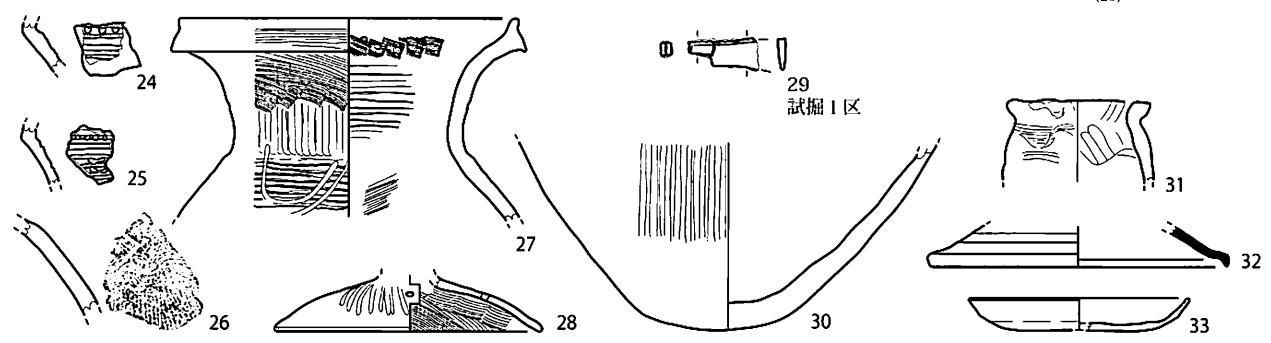
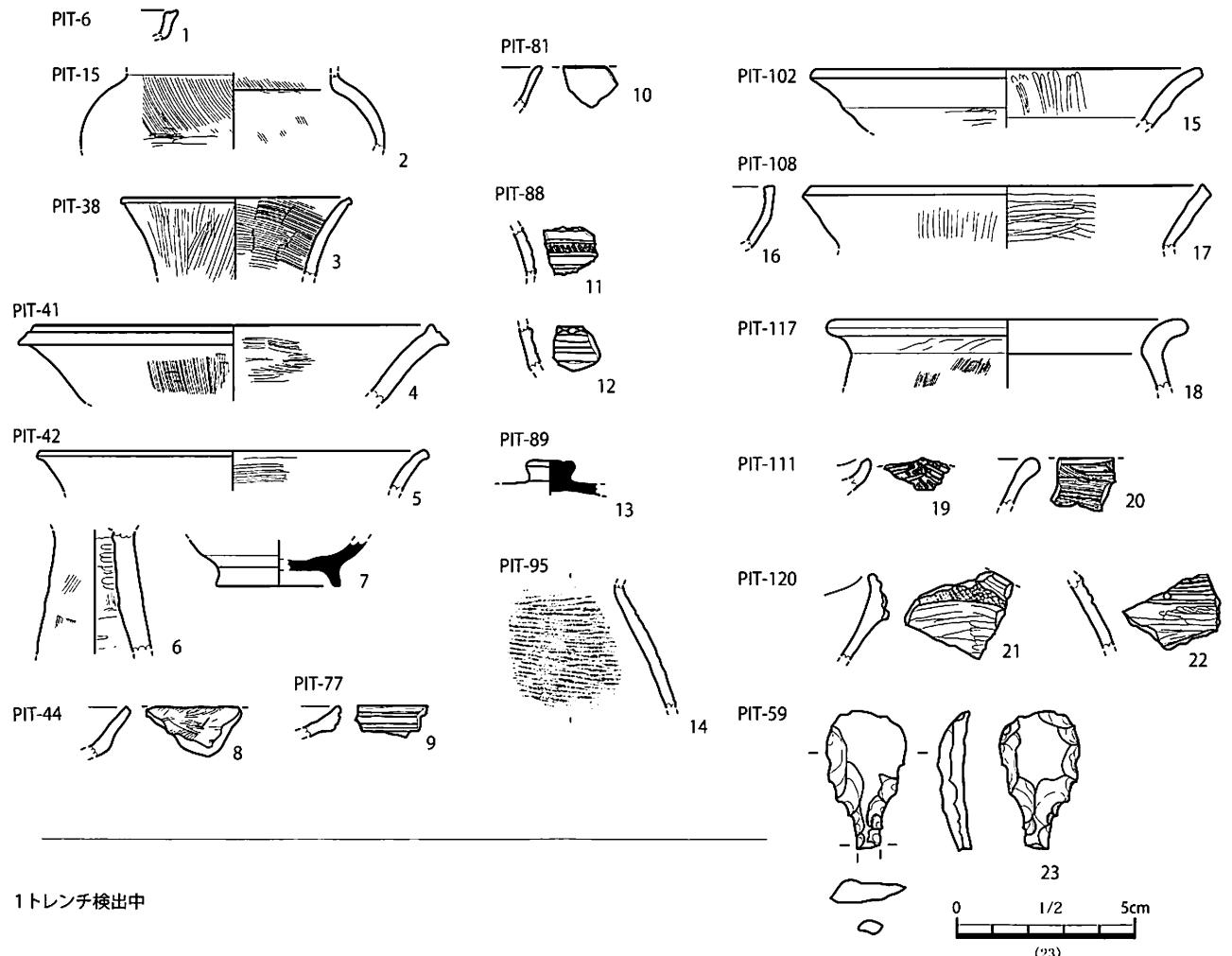
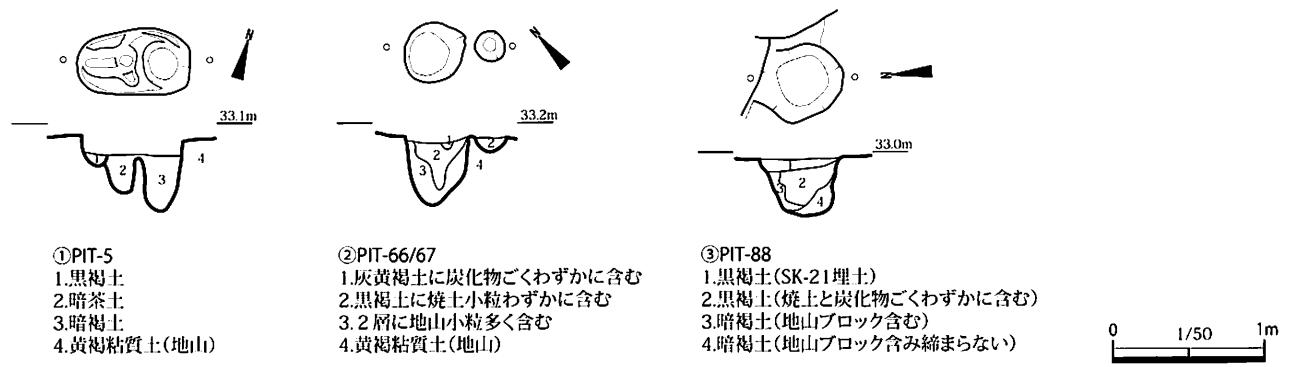
竪穴住居SH-73の北東に位置する土括。ごく浅い掘り込みに焼土と白粘土が混じる埋土。高杯小片、波状文を施す壺体部が周辺から出土した(16図23・24)。

(19) 土括 SK-82 (第4図)

調査区中央、溝SD-1の西に位置する土括。平面は不整形で規模は $0.95 \times 1.4 \times 0.18$ m。弥生鉢、甕口縁や縄文土器、サヌカイト製石鏃などが出土した(16図30~34)。

(20) 土括 SK-93 (第14図⑥、図版9-8)

調査区中央のやや南西、竪穴住居SH-18の北西、竪穴住居SH-73の南に位置する土括。平面は楕円形で規模は $1.1 \times 1.3 \times$ 深さ0.45m。遺物は出土しなかった。



第18図 1トレンチPIT・検出中出土遺物

(21) 土拵 SK-107 (第 17 図、図版 3・6・15-5)

調査区西端に位置する埋葬施設。西で竪穴住居 SH-73 を切り、東は調査区外へ続く。南北 2.7 m × 東西 3.3 m 以上の中央部に東西 2.2 m × 南北 1.7 m の掘り込みがあり、この部分にベンガラと白砂を含む締まった粘質土が 0.75 × 1.0 m の範囲で楕円形に敷かれていた (17 図断面③ 3 層、図版 6-7)。ベンガラの量はそれほど多くなく、やや赤色が濃い部分がある程度であった。この層の周囲は幅 0.3 ~ 0.5 m の溝状に掘り込まれていた。断面からは棺材の抜き取り痕や腐朽痕は確認できなかった。埋土中や周辺から 3 ~ 10 cm 程度の軟質凝灰岩の破片 (図版 15-5 右側) が出土したが少量 (8.39kg) なため、石棺であったとは考えにくい。

遺物のうち、刀子 (17 図 2、図版 16-4) は埋土 (第 17 図断面③ 2 層) から出土した。先端を欠損し、柄部にわずかな木質が残存する。鉄のごく小片 (一边 1.5 cm) も出土したが、図示していない。三角形の板状凝灰岩破片 (17 図 3・4、図版 15-5) は 2 点とも同様の厚さで同質の石材だが、接合しない。図示した上面全体に白粘土状の顔料が塗布してあるようだ。軟質凝灰岩破片の中にはベンガラが付着するものもある (実測図なし、写真のみ掲載・図版 15-5)。埋土から縄文土器の破片や両端を打ち欠いた石錐 (17 図 5 ~ 8・図版 16-5) も出土した。

(22) 土拵 SK-113 (第 4 図)

調査区北東、土拵 SK-21 の北に位置する。平面図では SK-21 を掘り込むように表現しているが、断面観察用ベルトの間に位置していたため前後関係が不明である。東西に長く、規模は 1.8 × 0.6 × 0.05 m と浅い。壺口縁など少量の土器が出土した (16 図 35・36)。



写真3 体験発掘

(23) 柱穴 PIT-5 (第 18 図①)

調査区南東部の中央、土拵 SK-16 の南西に位置する柱穴。平面は長楕円形で規模は 0.43 × 0.76 × 深さ 0.48 m。

(24) 柱穴 PIT-66/67 (第 18 図②)

調査区北西部の南側、溝 SD-1 と竪穴住居 SH-73 の間に位置する柱穴。平面はどちらも円形で、柱穴 PIT-66 は規模 0.45 × 0.4 × 深さ 0.44 m、柱穴 PIT-67 は直径 0.2 m × 深さ 0.08 m とごく浅い。

(25) 柱穴 PIT-87 (第 8 図③)

調査区北西、竪穴住居 SH-73 の上層から掘り込む柱穴。平面は楕円形で規模は 0.4 × 0.52 × 深さ 0.44 m。

(26) 柱穴 PIT-88 (第 18 図③)

調査区東部、土拵 SK-21 の下層で検出した柱穴。平面はほぼ円形で規模は 0.45 × 0.5 × 深さ 0.4 m、底部は平坦。縄文土器のごく小片が出土 (18 図 11・12)。

(27) 柱穴 PIT-102/103 (第 8 図④、図版 6-5)

SH-73 内部の南西、PIT-123 のすぐ南に位置する柱穴。柱穴 PIT-103 が新しい。規模は柱穴 PIT-102 が直径 0.35 × 深さ 0.25 m、柱穴 PIT-103 が 0.33 × 0.4 × 深さ 0.18 m。柱穴 PIT-102 から高杯 (18 図 15) が出土した。



写真4 埋め戻し後 (北から撮影)

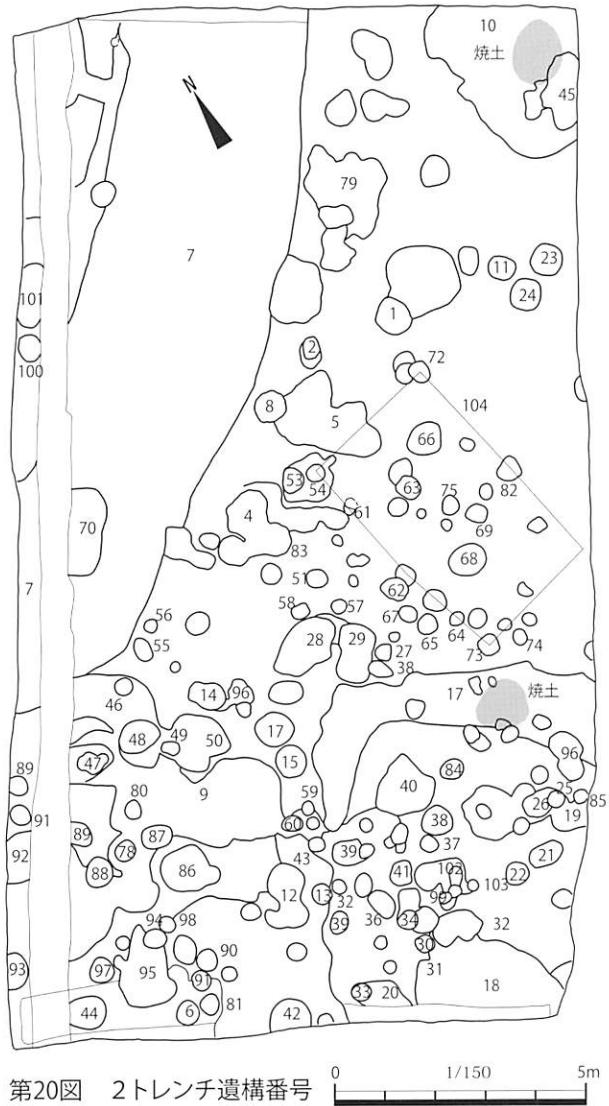
②2トレンチ (第19図、図版4)

調査区の西側、管理建物棟の建設予定地に設定した調査区である。調査区北東から南西にかけて斜めに大規模な溝SD-7があり、東隅に竪穴住居SH-10・南隅に竪穴住居SH-17を検出した。住居はい

ずれも削平され浅い。南半では平面円形で直径0.2～0.5m程度の柱穴や不整形の土拵が多く分布するが、掘立柱建物は1棟(SB-104)を復元したのみ。調査区西壁近くを南北に通る配水管(塙ビ製パイプ、現在は未使用)で破壊されている。



第19図 2トレンチ平面図 (数字は遺構番号)



第20図 2トレンチ遺構番号

(1) 住居 SH-10 (第21図、図版10)

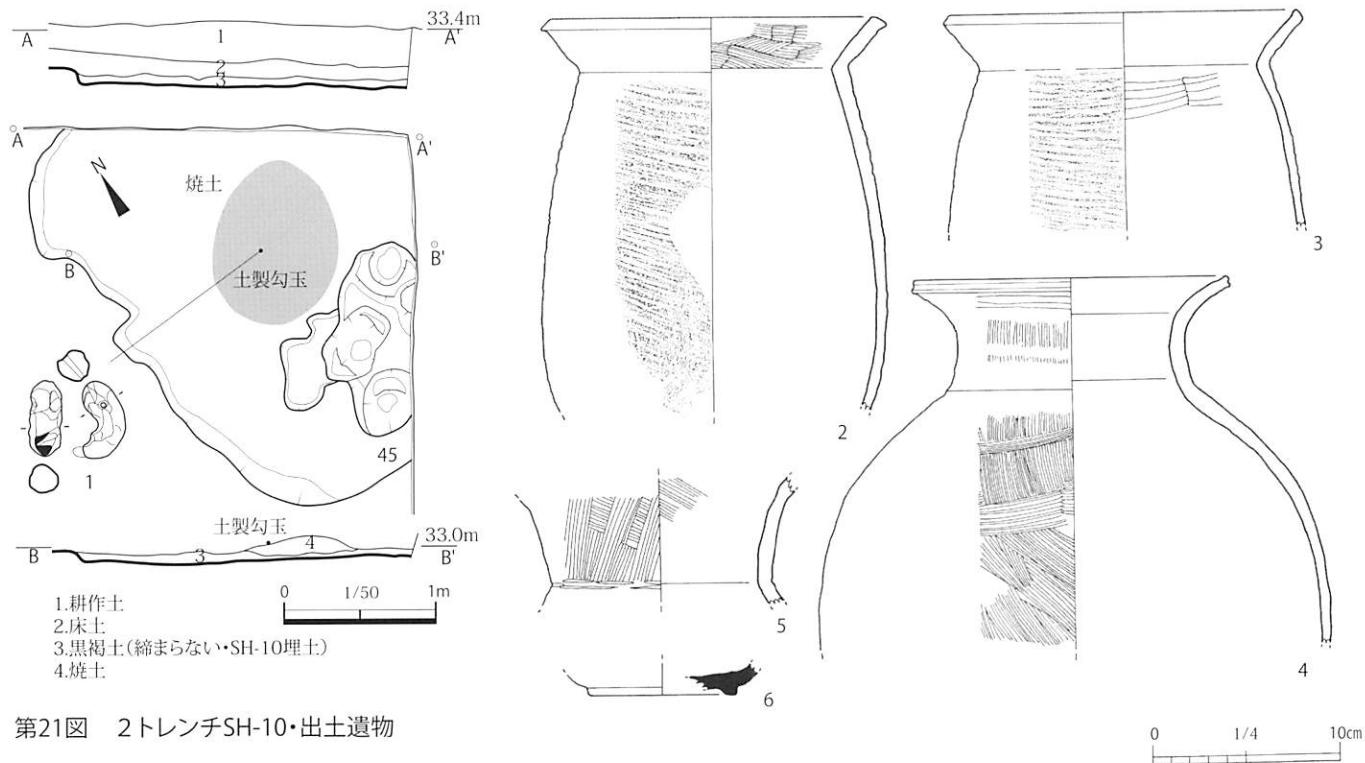
調査区東隅に位置する竪穴住居。大部分が調査区外へ続く。規模は南北3.15×東西2.3m以上、深さ0.08mとごく浅い。南半で不整形の土拡SK-45に上層から掘り込まれる。柱穴は検出しなかった。検出範囲のほぼ中央で埋土上層に焼土が乗る（図版10-3）。焼土の規模は0.8×1.1×厚さ0.12m、この上面で土製勾玉が出土した（21図1、図版16-1）。

(2) 住居 SH-17 (第22図、図版11)

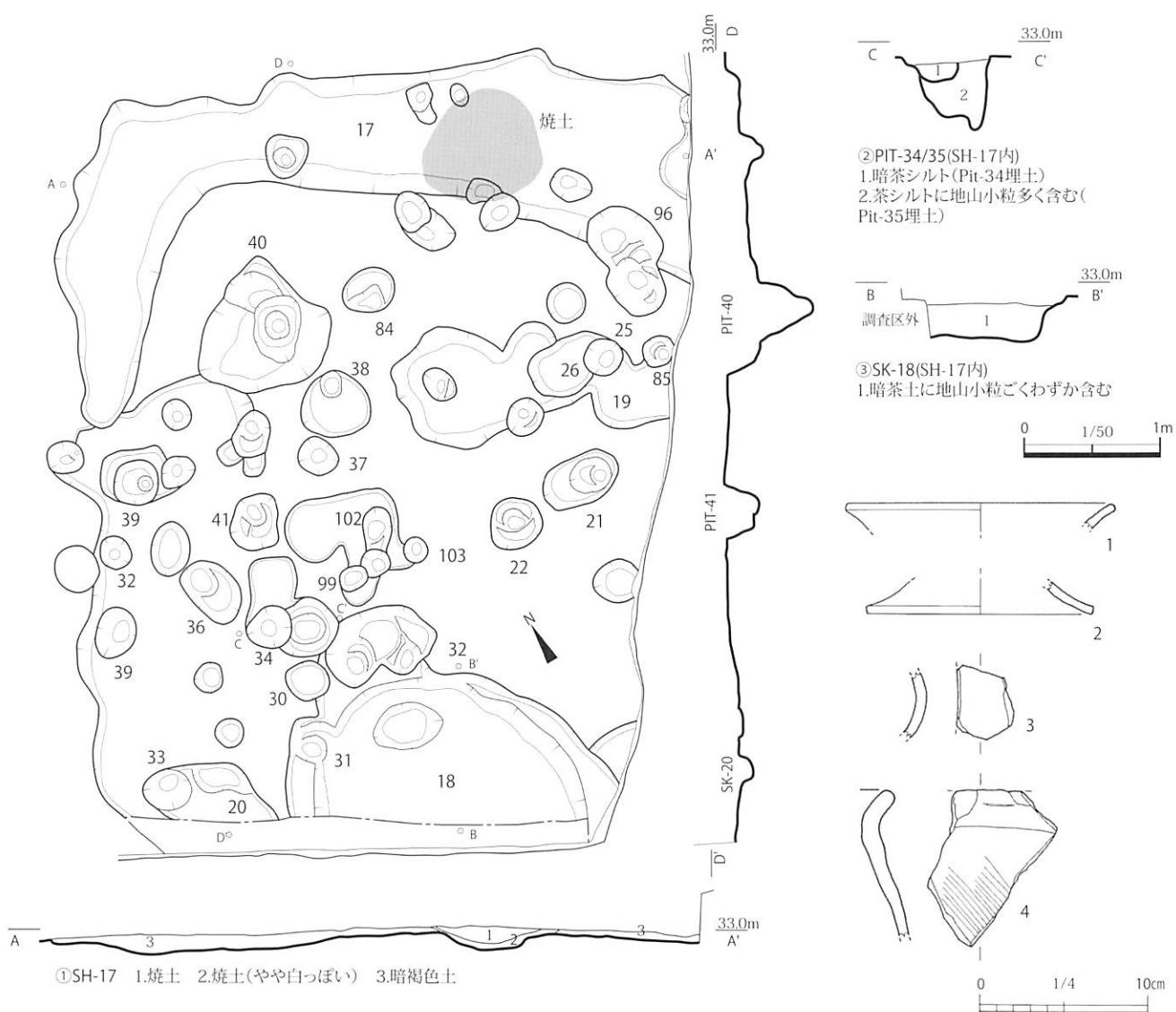
調査区南東隅に位置する竪穴住居。東端は調査区外へ続く。北半の溝状に深い部分のみが残り、南半は削平されて検出できなかった。規模は南北5.95m以上、東西4.7m以上、深さ0.2m程度。内部で柱穴を多く検出したが、PIT-40などがこの住居に



写真5 2トレンチ作業状況



第21図 2トレンチSH-10・出土遺物



第22図 2トレンチSH-17・出土遺物

伴うものか。北端溝部の中央付近で焼土 ($0.8 \times 0.9 \times$ 厚さ 0.14 m) があり、その下位にやや白っぽい焼土がごく薄く (厚さ $0.04 \sim 0.08\text{ m}$) 堆積する (図版 11-3・4)。

遺物は北半の溝部分から少量出土した。高杯 (22 図 1・2)、ジョッキ型土器の把手 (22 図 3)、古代の土師器甕 (22 図 4) などがあるが、いずれも小片である。

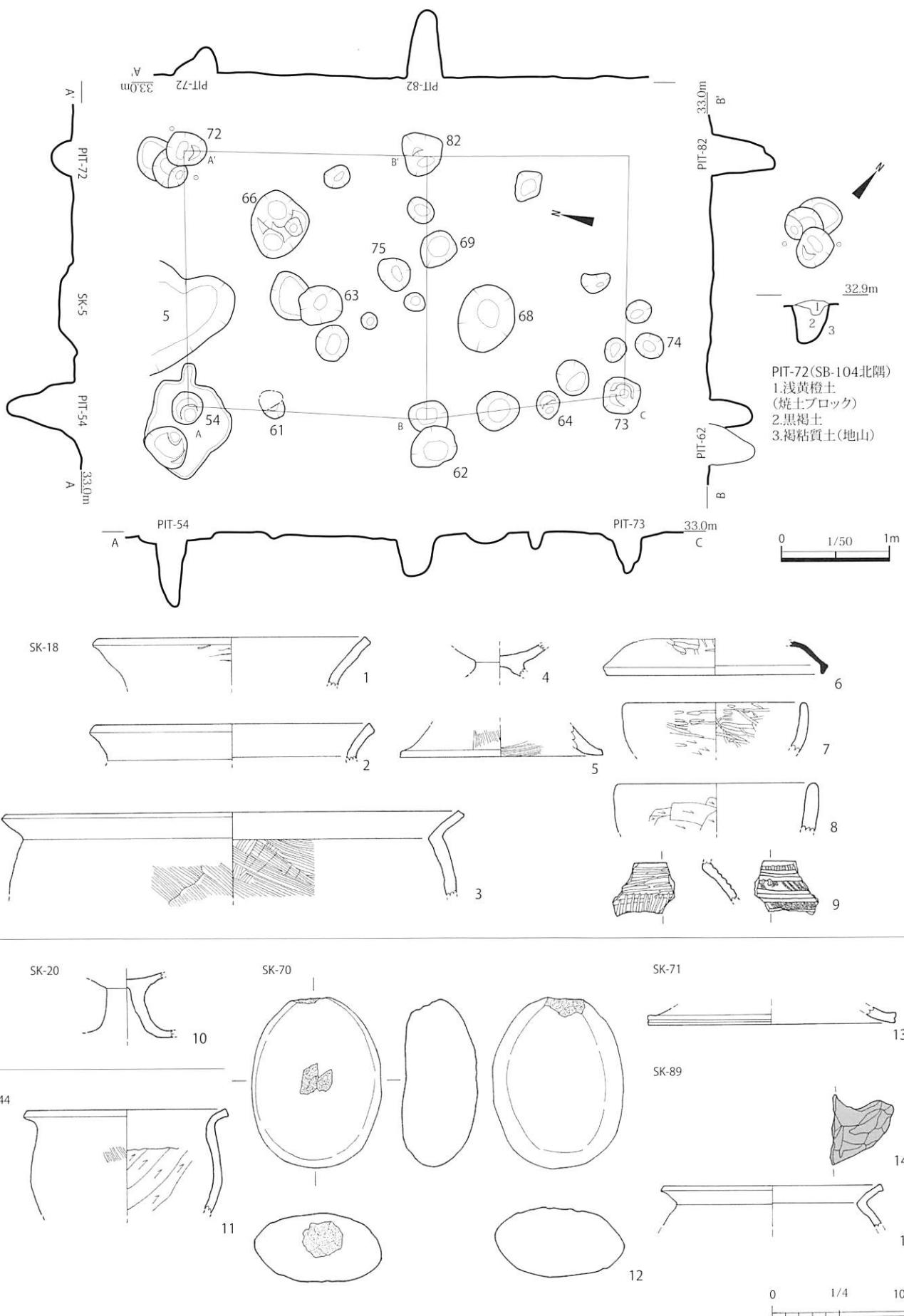
(3) 建物 SB-104 (第 23 図)

調査区中央部の東半に位置する 1×2 間の掘立柱建物。南東隅の柱穴は検出できなかった。方向はほぼ方位に沿う。南北 $4.0 \times$ 東西 2.4 m 。時期を示す遺物はなく、PIT-73・PIT-82 からごく小片が出土したのみ。PIT-72 (23 図、図版 13-8) は北東隅の柱穴。規模は $0.3 \times 0.4 \times$ 深さ 0.38 m 。焼土ブロック

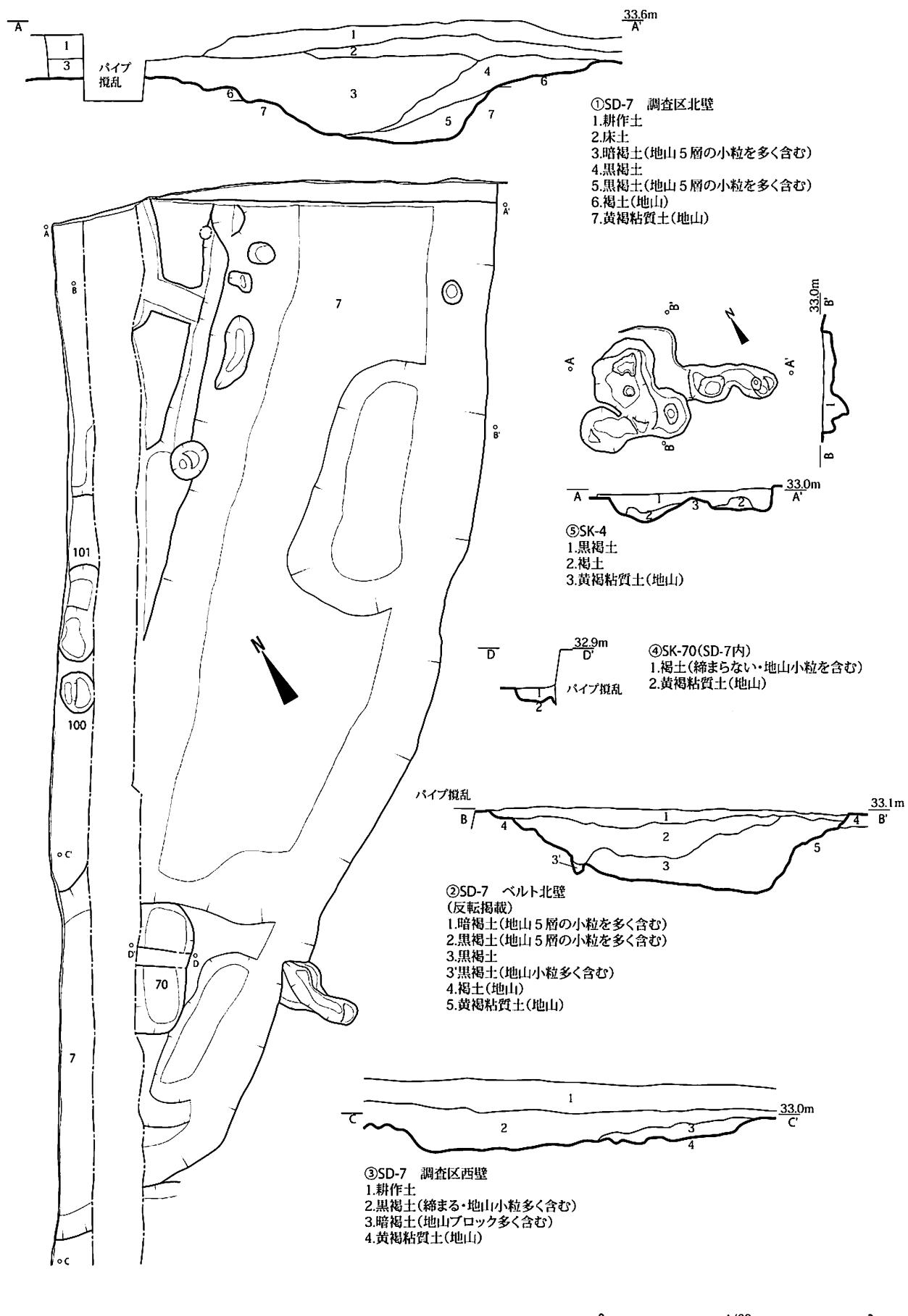
を含む埋土 (23 図・断面 1 層) があり、ここから縄文土器の小片が出土した (26 図 20)。柱穴規模から見て、中世以降の所属か。

(4) 溝 SD-7 (第 24・25 図、図版 4・12・13)

調査区北西部に位置する溝。長さ 12.5 m を検出した。調査区北端から南西に伸び、西壁付近でやや浅くなつて方向を北西に変える。中央付近の幅 3.96 m 、深さ 0.96 m 。底面はほぼ平坦で、東から埋まっている。埋土は暗褐色から黒褐色を呈し、地山小粒の量などで分層した。各時期の出土遺物があり、埋没期間が長かったことを示す。甕は長胴で脚部をもつ (25 図 6～10) が、全体が復元できる個体はない。内面を削って薄くしたものもある (25 図 5、図版 19)。大型壺 (25 図 14、図版 15-9) は底部を欠損するのみでほぼ完形、溝中央部の埋土中位か

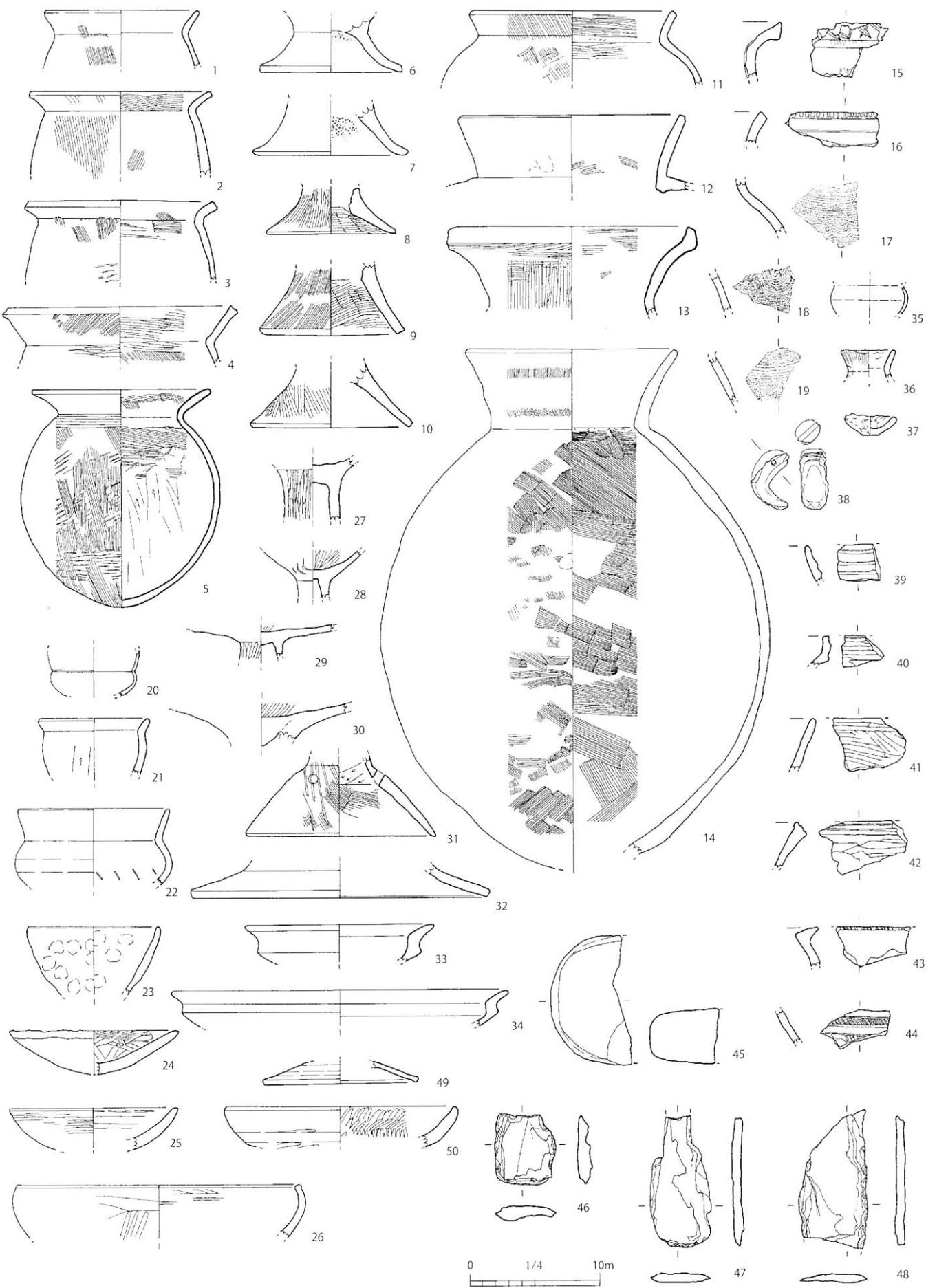


第23図 2トレンチSB-104・土拵出土遺物

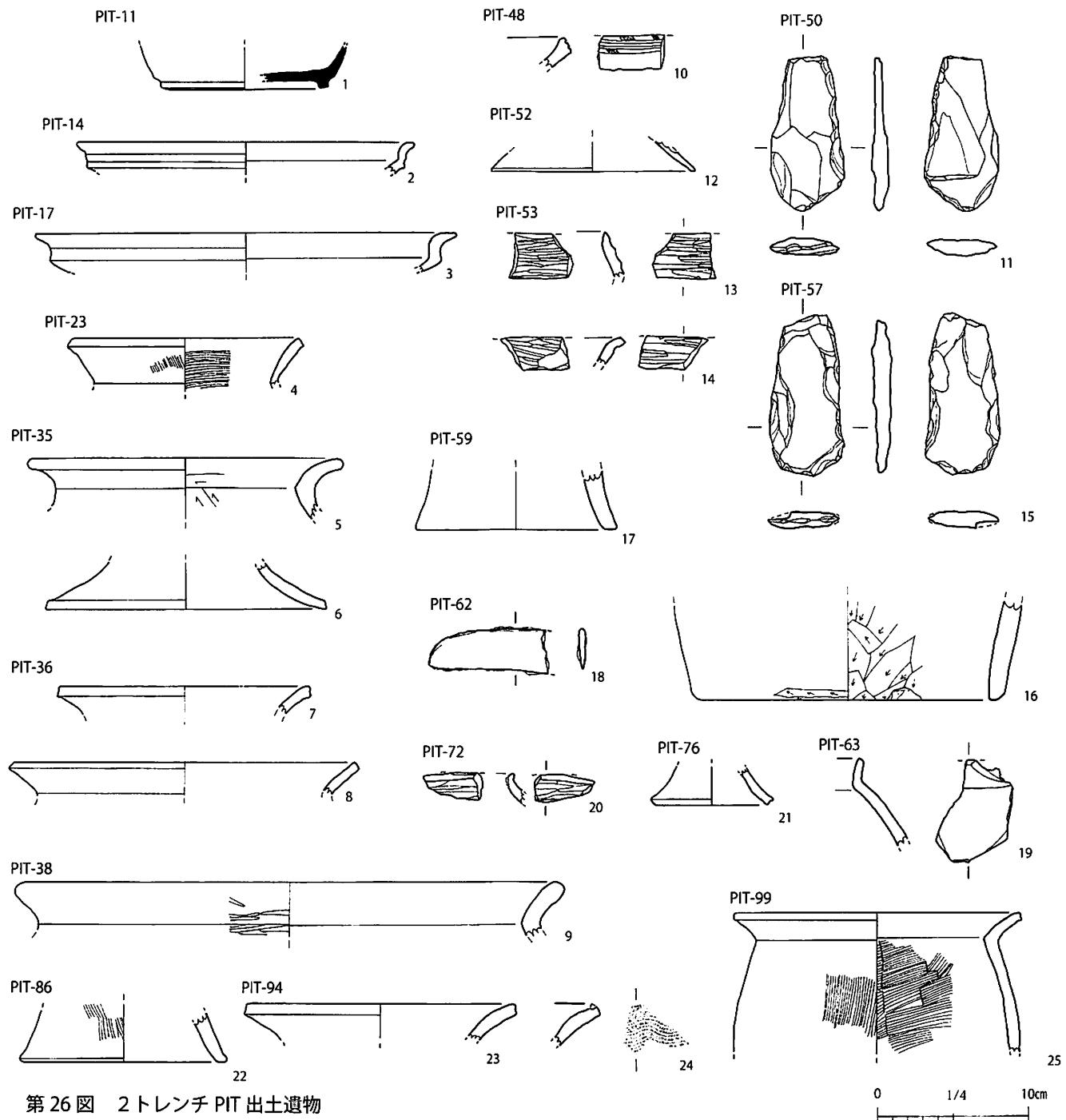


第24図 2トレンチSD-7

0 1/60 3m



第25図 2トレンチSD-7出土遺物



第26図 2トレンチPIT出土遺物

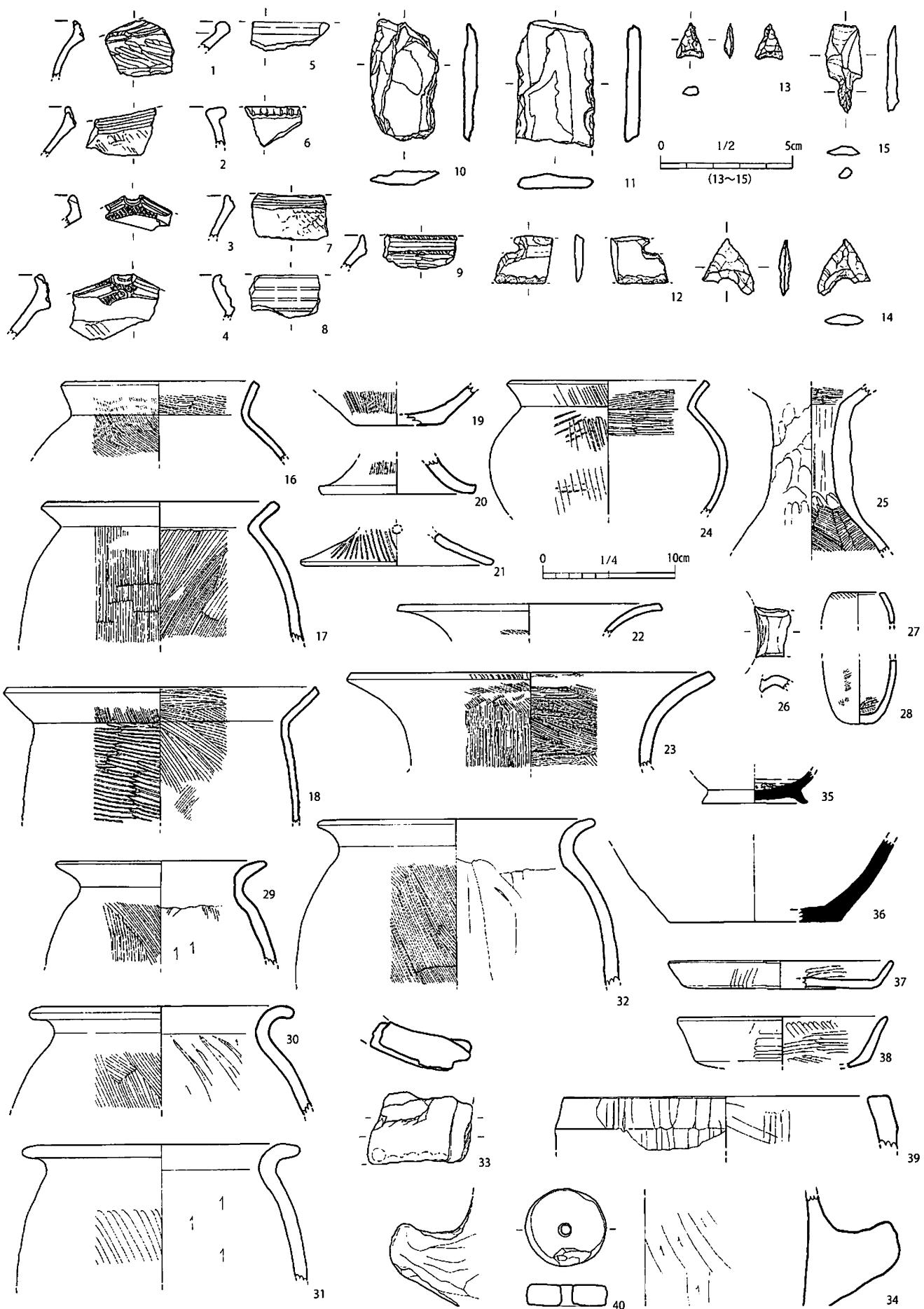
ら横に倒れた状態で出土した。鉢は小型で丸底のもの（25図20～22）と扁平なもの（25図24・25）、大型品（25図26）がある。高杯の杯部（25図34）は小片のため、復元径に難がある。土製勾玉（25図38・図版16-1）は一部が欠損するが、頭部に数本の線刻を施した丁字頭勾玉である。縄文時代の遺物には土器小片（25図39～44）、石器（磨石〔25図45〕石鍬〔25図46～48・図版16-5〕）がある。古代の遺物には須恵器の杯蓋、土師器の杯がある（25図49・50）。

(5) 土塹 SK-4 (第24図⑤、図版13-3)

調査区中央の西側、溝SD-7の東に位置する土塹。平面は不整形で規模は $1.3 \times 1.3 \times$ 深さ0.32m、複数の柱穴が同時に埋没したものか。遺物は土器小片のみ。

(6) 土塹 SK-18 (第22図③、図版13-4)

調査区南隅に位置する土塹。南西部は調査区外へ続く。竪穴住居SH-17に伴う遺構か。規模は長さ1.22m以上、幅2.2m、深さ0.3m。底部は平坦。出土遺物（23図1～9）は弥生～古墳時代の土器



第27図 2トレンチ検出中出土遺物

を中心に、縄文・古代を含む。

(7) 土括 SK-70 (第 24 図④、図版 13-5・6)

調査区中央西側、溝 SD-7 の下層で検出した土括。北西を排水パイプに掘り込まれる。平面は長楕円形で規模は $1.45 \times 0.6 \times$ 深さ 0.2 m 、底部は平坦。遺物はタタキ石 (23 図 12) のみが出土。

(8) 柱穴 PIT-34/35 (第 22 図②、図版 13-7)

調査区南半、竪穴住居 SH-17 内部に位置する柱穴。竪穴住居に伴う柱穴か。PIT-34 が PIT-35 を掘り込む。規模は PIT-35 が $0.32 \times 0.59 \times$ 深さ 0.62 m 、PIT-34 が $0.29 \times 0.4 \times$ 深さ 0.17 m 。PIT-35 から高杯脚部 (26 図 6)、古代の甌 (26 図 5) が出土。

(9) 柱穴 PIT-62 (第 19 図)

建物 SB-104 西中央の柱穴を掘り込む。埋土から鉄鎌が出土 (26 図 18、図版 16-4)。

(10) その他の出土遺物

検出中に出土した遺物はトレンチごとに分けて掲載した (1 トレンチ; 第 18 図、2 トレンチ; 第 27 図)。鉄器 (刀子破片、第 18 図 29、図版 16-4) は試掘調査 1 区で検出中に出土した。2 トレンチの縄文土器 (第 27 図 1 ~ 12) は口縁部を掲載した。打製石器にはサヌカイト (第 27 図 12・14) と黒曜石 (第 27 図 13・15) とがある。カップ形のミニチュア土器 (第 25 図 27・28) は同径に復元できたが接合せず、胎土も微妙に異なる別個体である。古代の移動式カマド (第 27 図 33) は小片、下端焚き口付近の破片か。

第 4 節まとめ

今回の調査によって、調査区全体から各時代の遺構・遺物が出土した。上層がかなり削平されていたため、残存状態が悪い遺構が多い。中心となる時期は弥生時代後期後半から古墳時代初頭にかけてで、住居 (1 トレンチ SH-18・73、2 トレンチ SH-10、18) や溝 (2 トレンチ SD-7) などがある。住居は時期や方位が微妙に異なっている。2 トレンチの溝 SD-7 は埋土に水性堆積物が見られないことから、水路以外の用途のために掘削されたのだろう。

1 トレンチの土括 SK-21 からもこの時期の遺物が

出土したが、二次的な埋没の可能性もある状況だった。このため、下層で検出した掘立柱建物 SB-128 の時期は明らかにし難い。

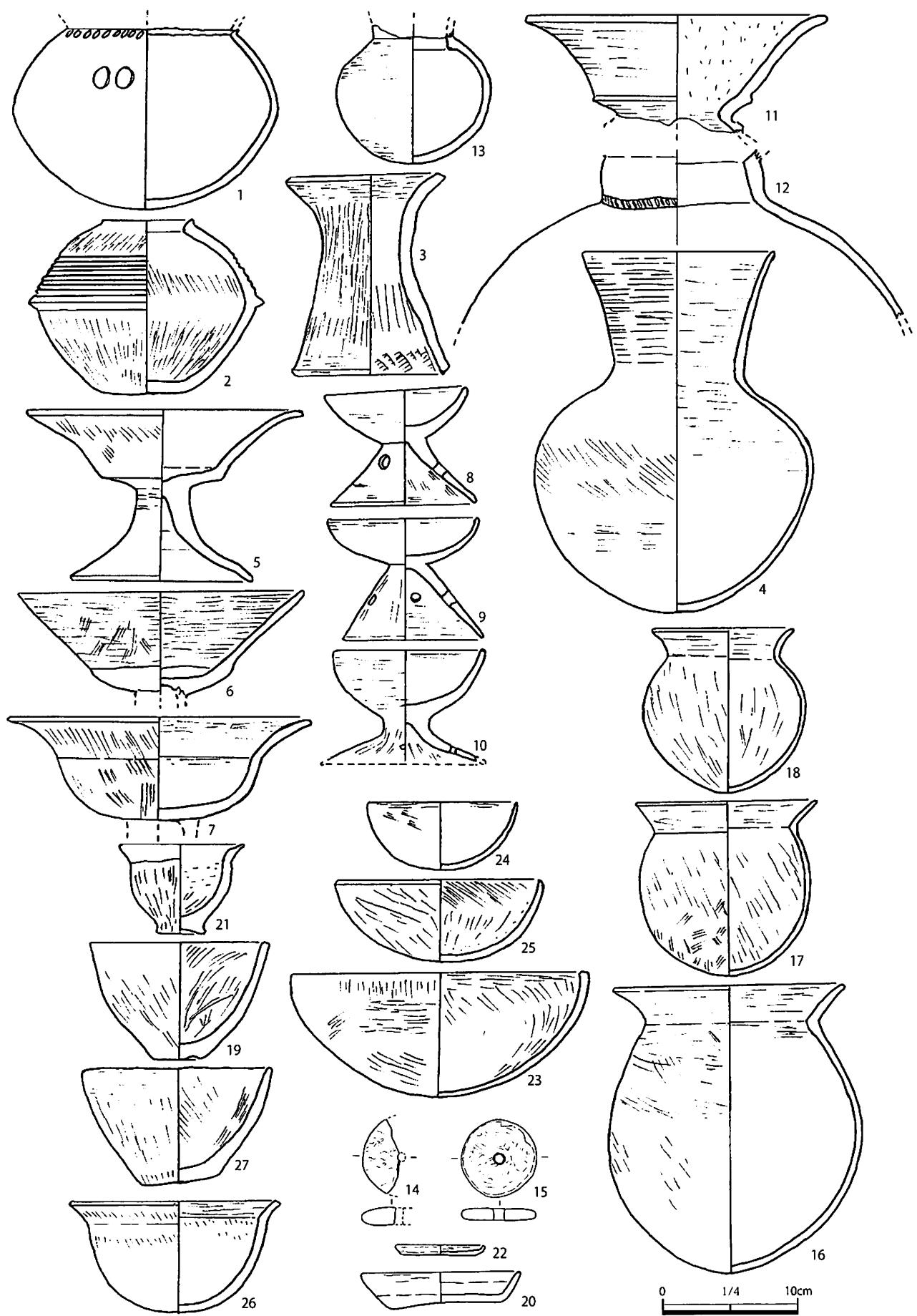
縄文時代の遺物も少量ながら調査地全体から出土した。後期から晩期にかけての磨消縄文を施した土器 (鉢・深鉢) や石器 (石斧・石錐・石鎌・石錐)、石核などがある。土器片は小片がほとんどで接合するものもないことから、遺構の原位置は周辺にあって開墾等で移動したものと考えられる。石斧や石錐 (図版 16-4) もあり、野山や河川で幸を求めた当時の生活について想起させられる。

古代から中世にかけての遺物も出土し、厚手で破損しにくい土師器が目立ったほか、少量の須恵器や黒色土器、滑石製品があった。この時期の遺構には 1 トレンチ溝 SD-1 のほか、二棟の掘立柱建物があり、柱穴規模などから 1 トレンチ SB-128 は古代、2 トレンチ SB-104 は中世の可能性がある。

今回の調査範囲は限定的であったが、このように多様な時期の遺構を検出し、各種の遺物が出土した。これらの遺構は調査地周辺にもさらに連続して分布していたことは明らかである。昭和 43 年の圃場整備事業に際しての採集資料などからは、かなり広範囲に及ぶ大規模な遺構群が埋蔵されていたようである (第 1 章注 1)。当地区において断続的ながら長期間の人類活動が継続されてきたのは、周辺の集落遺跡にも共通する要因だが、河川に近接した高乾な台地上という環境にあったためと考えられる。

方保田遺跡の南東台地上に位置する方保田東原遺跡は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて発展した熊本県内最大級の拠点集落遺跡である。方保田東原遺跡ではこれまで 60 回以上の発掘調査によって、鉄製品や赤色顔料を生産し、流通の中核的役割を果たしたと評価されている (第 1 章注 2)。

方保田遺跡と方保田東原遺跡は、菊池川の支流である方保田川が開析した段丘崖をはさみ、直線距離で 100 m 程度の至近距離にある。方保田遺跡や隣接する白石古窯の上遺跡、白石遺跡は、存続時期や規模などから方保田東原遺跡の周辺に位置して生産された物資の供給を受けた「子村」と位置づけることができる。しかしこれらの遺跡においては調査事例の蓄積がある方保田東原遺跡とは異なり、詳細な内容を確認できる発掘調査の機会に乏しいのが現状である。今後に期すこととしたい。



第28図 方保田遺跡出土遺物(昭和43年)

隈 昭志「山鹿市方保田の石棺群と遺物包含層の調査」『菊池川流域の古代文化』熊日出版、2012年、340-341頁掲載を引用改変

写 真 図 版



1 南から



2 北西から

図版2 1トレンチ完掘状況



1 1トレンチ全景 南西から



2 SH-73 南から

図版3 1トレンチSD-1・SK-107



1 SD-1 南東から



2 SK-107 南西から

図版4 2トレンチ完掘状況



1 全景 南から



2 SD-7 北東から



1 SH-18 東から



2 SH-18 北西から



3 SH-73 北西から

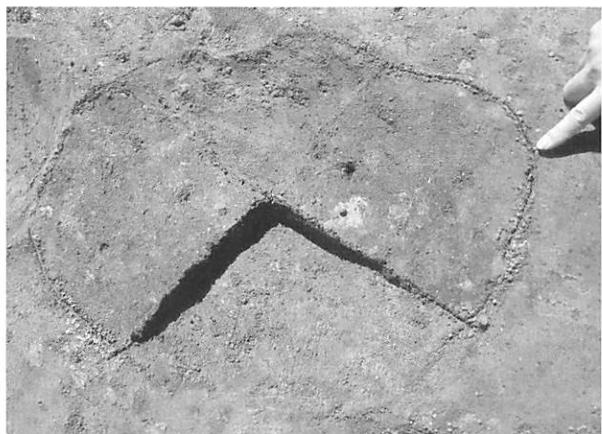
図版6 1トレンチSH-73・SK-107



1 SH-73ベッド状遺構 南西から



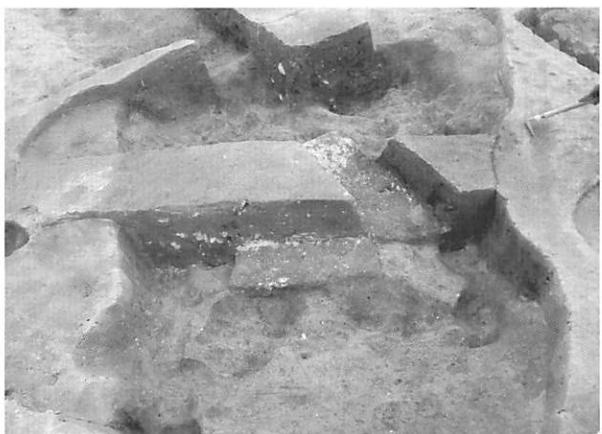
2 PIT-123 (SH-73内) 南東から



3 土拵SK-124 (SH-73内) 北西から



4 PIT-102/103切り合い (SH-73内) 南西から



5 SK-107 北西から



6 SK-107 南東から



7 SK-107白砂層(ベンガラ混) 南東から



8 調査区西壁断面 北東から



1 柱穴配置状況 南東から



2 PIT-37断面 北から



3 PIT-37 北から



4 PIT-110 東から



5 PIT-112 南西から

図版8 1トレンチSD-1



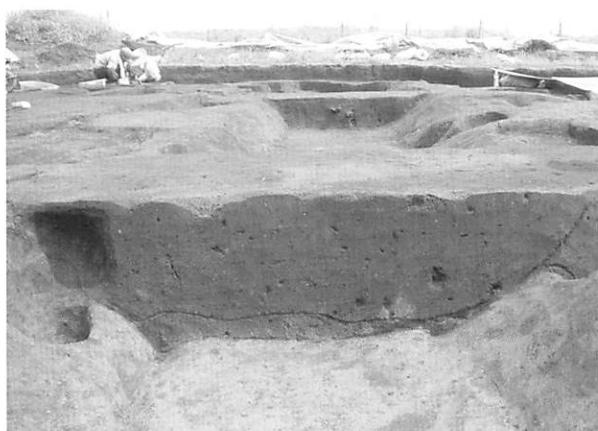
1 北西から



2 北壁断面 南から



3 南壁断面 北から

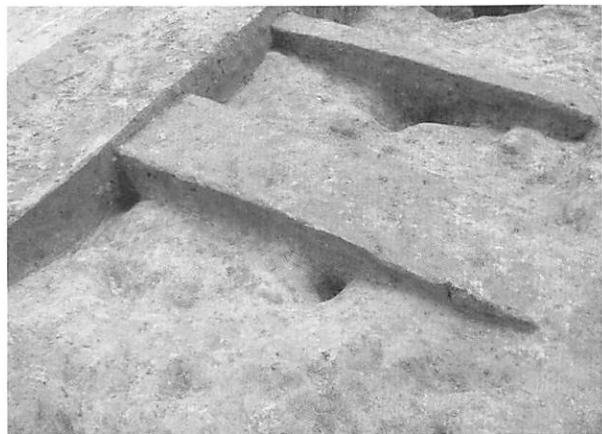


4 中央/南区間断面南壁 南から

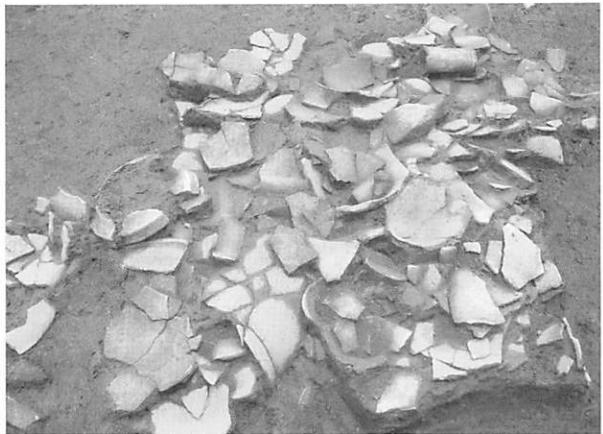


5 SD-70断面 南西から

図版9 1トレンチ土拵



1 SK-16 南東から



2 SK-21土器出土状況 南から



3 SK-23 南東から



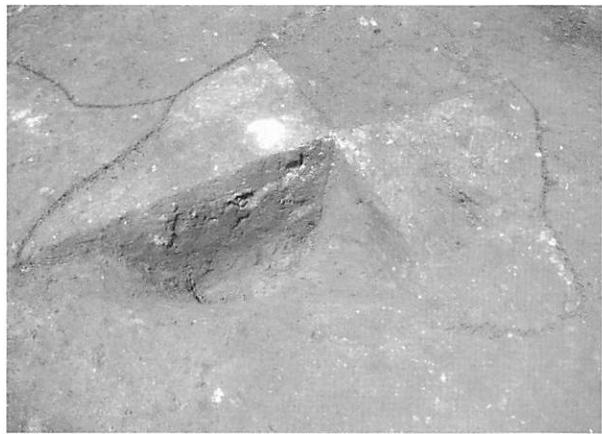
4 SK-23・SD-1断面 北西から



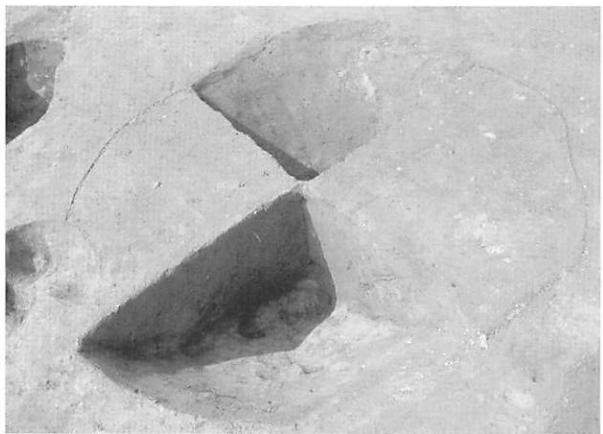
5 SK-61 南東から



6 SK-61完掘 南東



7 SK-65(焼土)南東から



8 SK-93 南から

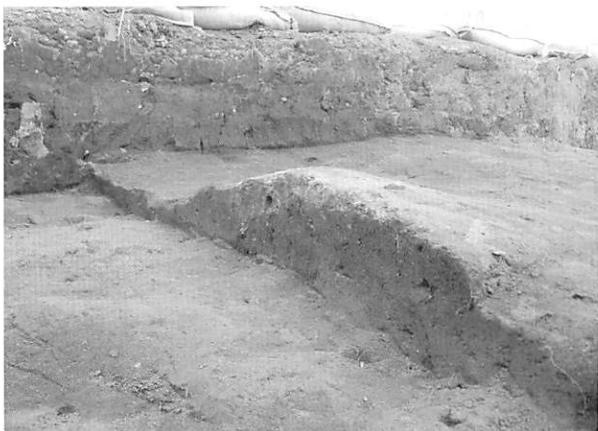
図版10 2トレンチSH-10



1 西から



2 南西から



3 焼土断面 北西から



4 焼土上面の土製勾玉出土状況 南西から

図版11 2トレンチ SH-17



1 北から



2 東から



3 焼土 西から



4 焼土 南東から

図版12 2トレンチSD-7



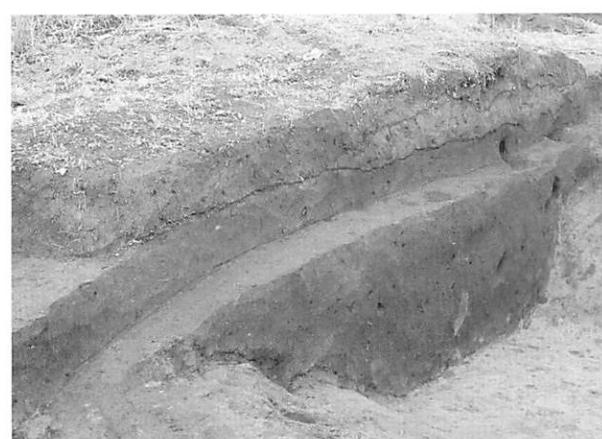
1 南から



2 南西から



3 断面北壁 北東から



4 調査区北壁 西から



5 調査区西壁 南東から

図版13 2トレンチ SD-7・SK・PIT



1 SD-7掘削状況 北東から



2 SD-7遺物出土状況 南西から



3 SK-4 西から



4 SK-18 東から



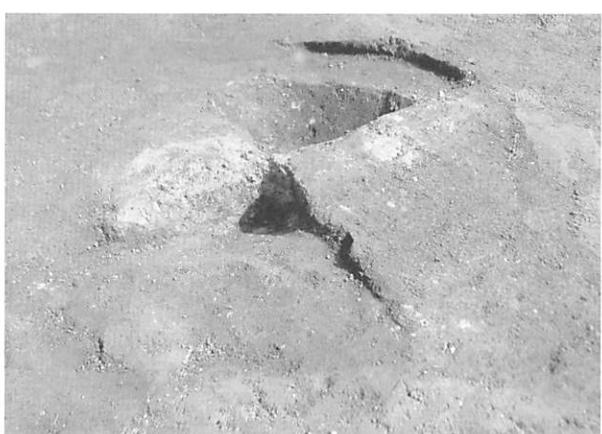
5 SK-70 南から



6 SK-70 南東から

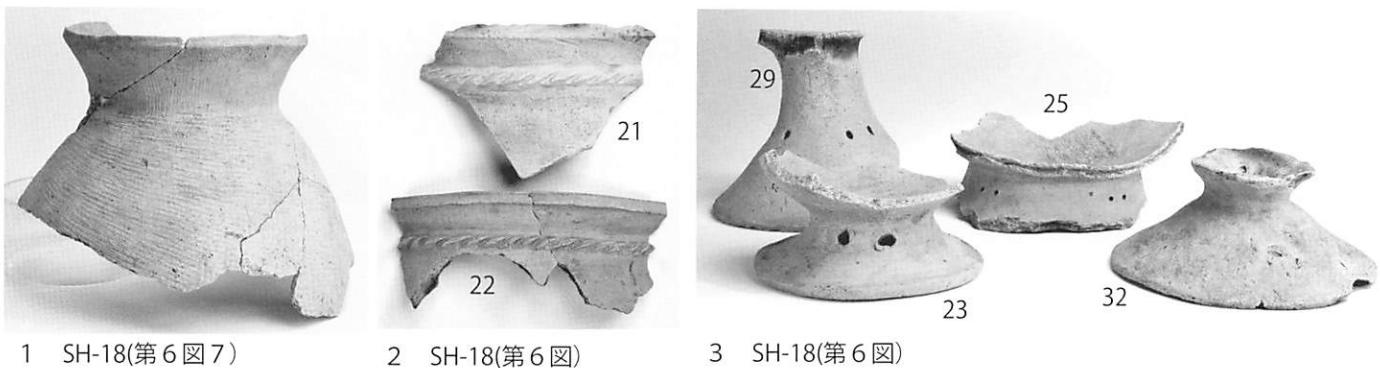


7 PIT-34/35 南西から



8 PIT-72 北東から

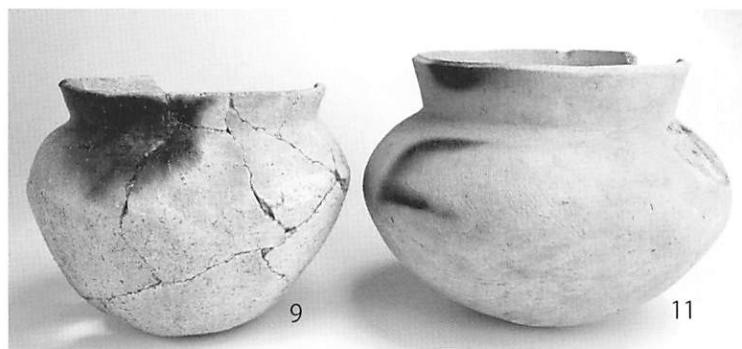
図版14 1トレンチ出土遺物



1 SH-18(第6図7)

2 SH-18(第6図)

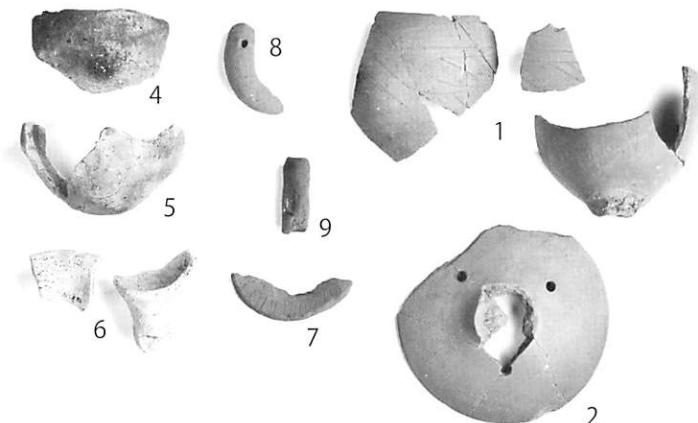
3 SH-18(第6図)



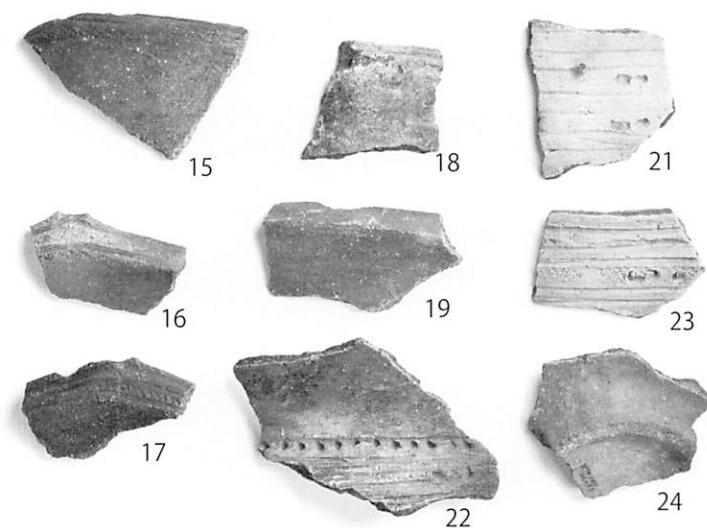
4 SH-73(第8図)



5 SH-73(第8図3)

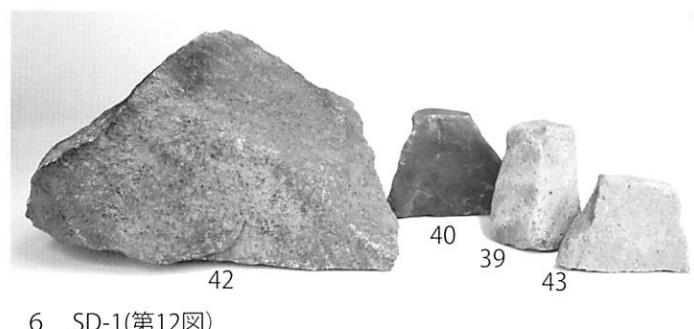
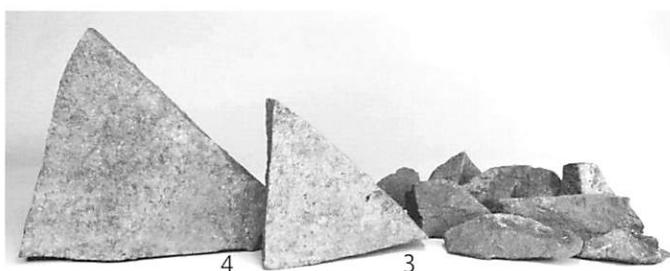
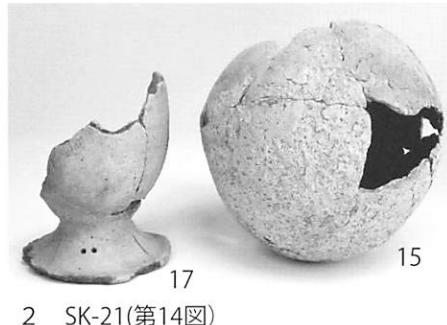
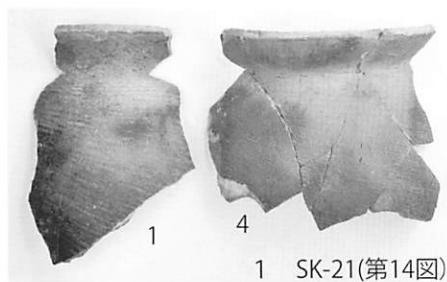


6 SH-73(第9図)

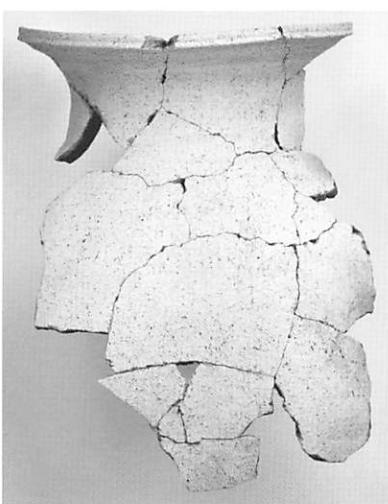


7 SH-73(第9図)

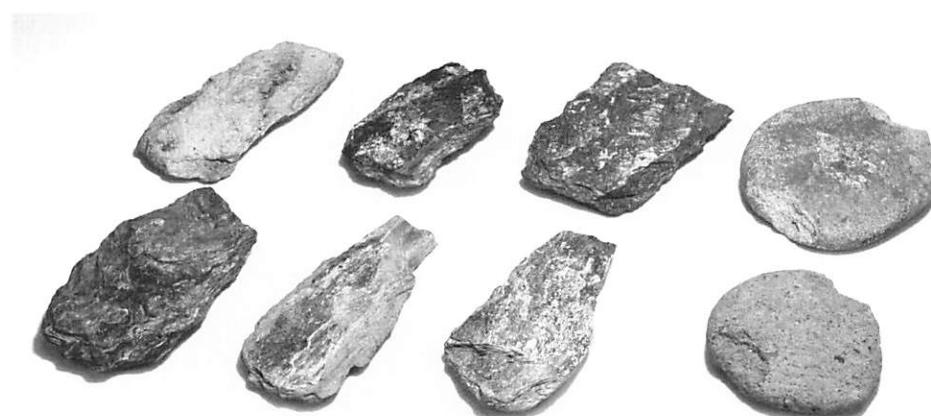
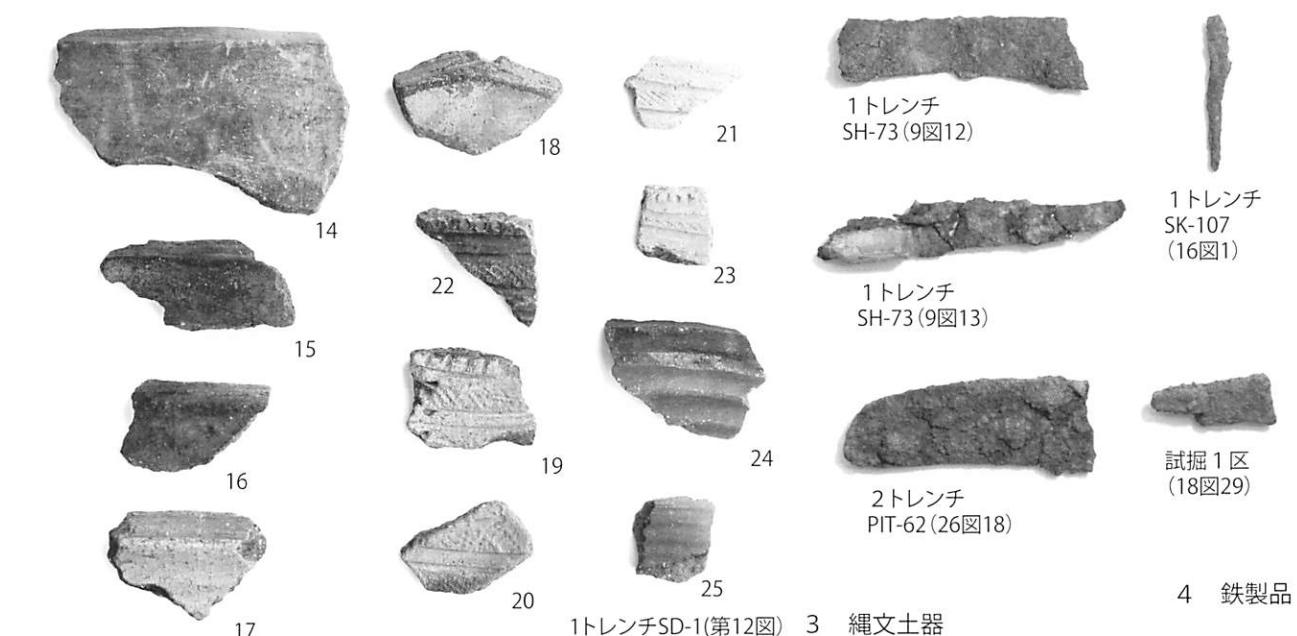
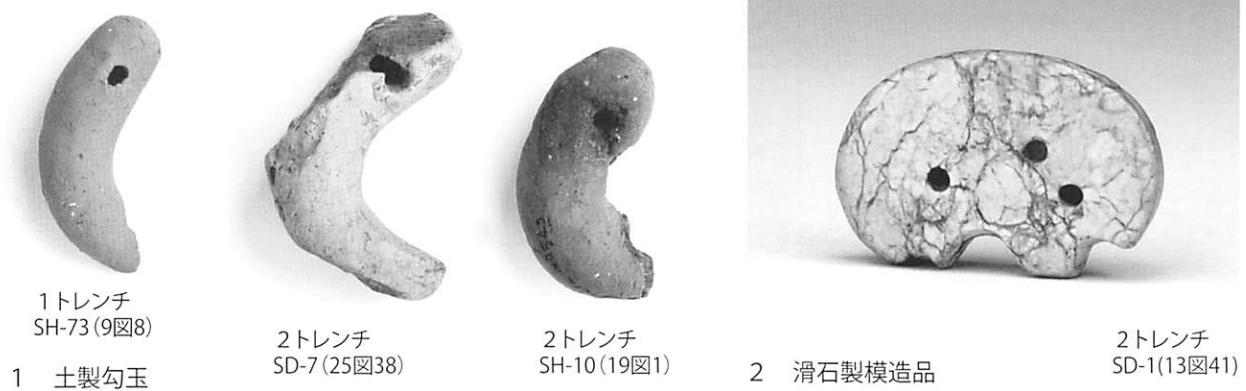
図版15 1・2トレンチ出土遺物



2トレンチ出土遺物(7~9)



図版16 1・2トレンチ出土遺物



図番号	遺構名	取上げ番号	器種	部位	口径 ()は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調査 上部からの記入	内面調査 上部からの記入	黒斑	焼 成	備 考	実測番号
1 トレンチ															
6 図 1	SH-18 東半黒褐色土	270. 266	縦	口縁・脚部	(13.8)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ	無	有	焼(外面全体)	13-4
6 図 2	SH-18 東半 黑褐色土	270	縦	口縁・脚部	(14.2)	不明	(外) 仄黃褐 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	無	有	焼(外面全体)	15-1
6 図 3	SH-18 東半	266	縦	口縁・脚部	(15.0)	不明	(外) 仄褐 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・タタキ	ナデ・ハケ	無	有	焼(外面脚部)	T3-3
6 図 4	SH-18 東半暗褐色土	266	縦	口縁・脚部	(16.0)	不明	(外) 浅黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	無	有	焼(外面全体)	I3-3
6 図 5	ベルト以東暗褐色土	275. 202	縦	口縁・脚部	16.0	不明	(外) にぶい黄 (内) 明黄褐	良	良好	ナデ・タタキ・ハケ	ハケ・ナデ	無	有	外面全体	II-2
6 図 6	ベルト以東	275	縦	口縁・脚部	(18.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・タタキ・タタキ後ナ デ・タタキ	ナデ	無	有		T3-2
6 図 6	SH-18 ベルト以東	275	縦	口縁・脚部	(18.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・タタキ・タタキ後ナ デ・タタキ	ナデ	無	有		T3-2
6 図 7	黒褐色土	264	縦	口縁・脚部	(18.0)	不明	(外) 浅黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ハケ	無	有		14-2
6 図 8	SH-18 ベルト以東暗褐色土	275. 355	縦	口縁・脚部	17.4	不明	にぶい黄橙 (内) 淡黄	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ後ナデ・ タタキ	ハケ	無	無		II-1
6 図 9	SH-18 ベルト以東	202	縦	口縁・脚部	(15.6)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	無	無		T3-1
6 図 10	SH-18 ベルト以東	202	脚台付縦	脚部	1.径不明 底径 11.0	不明	(外) 浅黄 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ後ナデ	無	無		T8-1
7 図 1	SH-18 ベルト以東暗褐色土	266	縦	口縁・脚部	(14.8)	不明	(外) 浅黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ハラケスリ	無	無		M1-3
7 図 2	SH-18 ベルト以東暗褐色土	275. 202. 319	縦	口縁・脚部	(17.8)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・タタキ後ナデ・タタ キ	ハケ	無	無		I2-2
7 図 3	SH-18 東半	266. 270	縦	口縁部	(16.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) 明黄褐	良	良好	ナデ・タタキ後ナデ・タタ キ	ナデ・磨減	無	有		T1-1
7 図 4	SH-18 ベルト以東	275	縦	口縁	(18.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ	ナデ・ハケ後ナデ	無	無		T1-4
7 図 5	SH-18 ベルト以東	275	縦	口縁	(20.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・刻み目・ハケ	ハケ・磨減により調整不 明	無	無		T1-3
7 図 6	SH-18 ベルト以東暗褐色土	275	縦	口縁・脚部	(10.0)	不明	(外) 淡黄 (内) 淡黄	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ後ナデ・ハケ	有	少		I2-3
7 図 7	SH-18 ベルト以東暗褐色土	275	縦	口縁・脚部	14.2	不明	(外) 黑褐 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	有	無		I2-1
7 図 8	SH-18 黒褐色土	202. 319.	縦	口縁・脚部	(18.0)	不明	(外) 淡黄 (内) 淡黄	良	良好	ナデ・ハケ・タタキ	ハケ	無	有		14-1
7 図 9	SH-18 ベルト以東暗褐色土	275	縦	口縁部	14.2	不明	(外) 黑褐 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ	無	有	焼(外面全体)	M1-2
7 図 10	SH-18 西半 黑褐色土	272	縦	脚部(破片)	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	外面に一部ベンガラ付着	M1-1

凶番号	遺物名	取上げ番号	器類	部位	口径	（ ）は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	上部かららの記入	上部かららの記入	黒斑	焼	備考	尖端番号
7番 11	SH-18 ベルト東半	273	鉢	11線・脚部	(7.6)	不明	(外) 淡黄橙 (内) ぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ・ ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ハケ	無	有	口縁部に刻み目		T1-2	
7番 12	SH-18 東半	266、270、 271	鉢	11線・脚部	12.1	不明	(外) 淡黄橙 (内) 淡黄橙	不良	不良	ナデ	ナデ	無	無	内外とも唇耗により調整不 ^明		M4-1	
7番 13	SH-18 ベルト上層	202	鉢	口縁・脚部	不明	頭部 径12.0	(外) 陶片 (内) 脊突	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ハケ	無	無	内面、糊痕らしき跡がある。		T9-2	
7番 14	SH-18 ベルト以西	270、275	鉢	口縁・脚部	(14.4)	不明	(外) にぶい黄 (内) ぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ・ナデ	ナデ	無	有	焼(外面)		T2-1	
7番 15	SH-18 ベルト以東暗褐色上	275	鉢	11線・底部	(17.6)	10.1	(外) 淡黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ヘラケズリ	ハケ	無	無	黒斑(外面)		M3-2	
7番 16	SH-18 ベルト以東暗褐色上	270	鉢	口縁・脚部	(16.1)	不明	(外) 粒 (内) 粒	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ	有	有	黒斑(内面) 烧(外面全体)		M2-1	
7番 17	SH-18 ベルト以東暗褐色上	266	鉢	11線・脚部	(18.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ	有	無			M2-2	
7番 18	SH-18 ベルト上層	202	鉢	口縁・脚部	(19.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ・ ヘラケズリ	ナデ	無	無			T9-1	
7番 19	SH-18 ベルト以東暗褐色上	266、202	鉢	口縁・脚部	(20.0)	5.9	(外) にぶい黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	有	有	焼(外面全体) 黒斑(内面一部)		M3-1	
7番 20	SH-18 ベルト以東暗褐色上	275、278	鉢	口縁・脚部	(21.0)	8.8	(外) 淡黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ハケ後ナデ	ナデ	無	有	焼(外面)		M2-3	
7番 21	SH-18 ベルト以西北部褐色上	267	鉢	11線・脚部	(24.0)	不明	(外) 淡黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・突筋・ タタキ	ナデ	有	有			I3-2	
7番 22	SH-18 東半黒褐色上	270、202	鉢	口縁・脚部	(26.4)	不明	(外) 黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ナデ・ハケ	無	無			I3-1	
7番 23	SH-18 ベルト以東黒褐色上	270	高杯	脚部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・突筋・ タタキ	ナデ?	摩滅	有			I5-2	
7番 24	SH-18 ベルト上層	202	脚台付鉢	脚部	口径不明 底径(14.0)	不明	(外) 黄橙 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・突筋・ タタキ	ナデ・ハケ	無	無			T8-2	
7番 25	SH-18 東半黒褐色上	270	脚台付鉢	脚部・脚部	不明	不明	(外) 淡黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好	ハケ・ハケ後ナデ・ナデ・ 穿孔・ナデ	ナデ・ハケ	無	無	脚部に穿孔、二孔一組四方向		M4-2	
7番 26	SH-18 ベルト以西上層	267	脚台付鉢	脚部	口径不明 底径(17.0)	不明	(外) 粒 (内) 粒	良	良好	ナデ	ナデ	無	無			T2-2	
7番 27	SH-18	200、203	高杯	杯部	(23.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ・ハケ後ナデ・ナデ	ナデ・ハケ後ナデ	無	無			T8-4	
7番 28	SH-18 ベルト上層	202	高杯	杯部	不明	不明	(外) 粒 (内) 粒	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ	無	無			T9-3	
7番 29	SH-18	202	高杯	脚部	口径不明 底径(13.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ	ナデ・穿孔・ナデ	無	無	脚部に穿孔、二孔一組三方		T8-3	
7番 30	SH-18 東半黒褐色上	204、270	高杯	脚部	底径(14.3)	不明	(外) 粒 (内) 粒	良	良好	ヘラミガキ・ハケ後ナデ・ 穿孔・ハケ・調整不明(柄耗)	ナデ・穿孔・ハケ後ナデ	有	無	黒斑外 ^面 一部。 穴は2つしか残っていないが四方開きのままで。		M4-3	
7番 31	SH-18 ベルト以東暗褐色上	275	台付鉢	底部・脚部	口径不明 底径10.4	不明	(外) 浅黄橙 (内) 浅黄橙	良	良好	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ	無	無	個の穿孔のうち4個は貫通せず、1個はかろうじて開いている。		I5-3	

図番号	遺構名	取上げ番号	器種	部位	口徑 () は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	上部からの記入	内部調整	上部からナーベルの記入	脚部ナーベル	脚部ナーベル・ハケ	黒斑	煤	備考	実測番号
7図32	SH-18 ペルト以東	275	器台	脚部	12.4	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル (一部ハケ私が残る)	脚部ナーベル	ナーベル・ハケ	無	無	初期あり。砂型無し。底部少しづむ。	T3-4			
7図33	SH-18 西洋褐色上:	265	瓶	11線・底部	(9.3)	8.0	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	未調査	ハケ	無	無	無	外側は未調整。下: 下 1cm 約 1cm の所に基盤上の繋ぎ目あり。	M3-3			
7図35	SH-18 西洋褐色上:	269	深鉢? (鉢文)	脚部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル後凹点・孔跡・ミガキ・沈線・修復縫合点	ミガキ	無	無	無		M4-4			
9図1	SH-73 ペルト N-E区	315, 303, 312	甕	口線・脚部	15.6	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ハケ後ナーベル・タキ・タタキ後ナーベル・ハケ	ナーベル・ハケ	有	有	有	黒斑 (内部面)、煤 (外面)。 外面上半のみタキ目が残る、下半 はハケ目及び擦痕。	17-1			
9図2	SH-73 ペルト N-E区	315	甕	口線・脚部	(15.6)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル・ハケ・ハケ後ナーベル	ハケ	有	有	有	黒斑 (内部面)、煤 (外面)。	17-2			
9図3	SH-73 S区-括 周褐色上:	302	甕	口線・脚部	(16.4)	不明	(外) 混黄橙 (内) 混黄橙	良	良好	ナーベル・タキ後ナーベル	ハケ	有	有	有	黒斑 (外部)。	19			
9図4	S区-括 周褐色上:	302	甕	口線・脚部	17.8	不明	(外) 混黄橙 (内) 混黄橙	良	良好	ナーベル・ハケ後ナーベル (タキ後ナーベル)	ハケ	有	有	有	黒斑 (外面)、煤 (外面)。	18-2			
9図5	SH-73 ペルト N-E区	315	甕	口線・脚部	(18.0)	不明	(外) 混黄橙 (内) 混黄橙	良	良好	ナーベル (跡がごく一部残る)	ハケ	有	有	有	黒斑 (外面)、煤 (外面)。	17-3			
9図6	S区-括 周褐色上:	301	甕	口線・脚部	(18.2)	不明	(外) 混黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル・タキ	ナーベル・ハケ	有	有	有	煤 (外面全体) 脚部細部沙型無し、ハケ有。	18-4			
9図7	SH-73 S区-括 周褐色上:	302	甕	脚部	11径不明、 底径 (10.4)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル後ナーベル	ハケ後ナーベル	有	有	有	黒斑 (脚部内部面)。	18-3			
9図8	S区-括 周褐色上:	301	小型丸底盆	口線・脚部	(10.8)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル・タキ	ナーベル・ハケ	無	無	無	頭部多少歪む	110-5			
9図9	SH-73 S区	314	甕	ほぼ完形	11.6	12.0	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル後ナーベル・ハケ・ナーベル	ハケ後ナーベル・ハケ・ナーベル	有	有	有	黒斑 (外面)	T4-3			
9図10	SH-73 ペルト N-E区	315, 314, 297	甕 (短颈 盤?)	口線・脚部	11.8	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 脱灰	良	良好	ナーベル後ナーベル	ハケ・ナーベル	有	有	有	黒斑 (外面)、煤 (外面)。 脚部に歪みあり。頭部に工具(爪?) 痕跡あり。	18-1			
9図11	SH-73 ペルト N-E区	315	甕	口線・脚部	(19.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル・ハケ後ナーベル	ハケ・ナーベル	無	無	無		T4-2			
9図12	N区 黑褐色上:	306	壺	肩部 (破片)	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	橢円直線文・ハケ後輪揃波	ハケ	有	有	無	黒斑 (内外面)。	110-6			
9図13	SH-73 ペルト N-E区	315	齊型器台	上部・脚部	不明	不明	(外) 11径・褐色 (内) (上面) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル (1面) ハケ (脚部) タタキ	ハケ	有	無	無	上面に穴 1。破損の為傾き不明。	111-1			
9図14	東区	298	器台	口線・脚部	(12.6)	不明	(外) 浅黄・壺 (内) 売黄	良	良好	ナーベル・ハラ調整	ナーベル	無	無	無	11線近くに約 2cm 間隔で指跡有	T5-1			
9図15	SH-73 東半	296	高杯	环部	(19.6)	不明	(外) 灰黄褐・にぶい黄橙 (内) 灰黄褐・にぶい黄橙	良	良好	ナーベル	ナーベル	無	無	無		T6-2			
9図16	SH-73 南半	297	高杯	环部	(20.0)	不明	(外) にぶい黄・壺 (内) 売黄	良	良好	ナーベル	ナーベル	無	無	無	口縫部に指跡有	T6-3			
9図17	SH-73 ペルト N-E区	315, 296, 303, 312	壺	11線・脚部	21.0	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナーベル・ハケ後ナーベル ナーベル・ハケ	ナーベル・ハケ	有	有	有	黒斑、外血と丁字縫に少。内器面に刻 離あり、脆い。頭部に刻み口あり。	16			
9図18	SH-73 E区	303	壺	11線部	(24.0)	不明	(外) にぶい黄橙・壺 (内) にぶい黄橙・壺	良	良好	ナーベル・糊縫文・ナーベル・糊縫文・刻口	ナーベル・糊縫文・ナーベル	無	無	無		T4-1			

図番号	遺物名	取上げ番号	器種	部位	() は復元	口径	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	上部からの記入	上部	黒斑	煤	備考	実測番号
9 図 19	SH-73 ベルト N.E 区	315	鉢	口縁・底部	(12.8)	3.6	(外) 深黄褐色 (内) 浅黄褐色	良	良好	ハケ後ナデ・ナデ	ハケ後ナデ・ナデ	無	無	無	無	無	110-4	
9 図 20	SH-73 東半 暗褐色上:	296	鉢	口縁・脚部	(14.4)	不明	(外) 粒 (内) 粒	良	良好	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ・ナデ	有	無	黒斑(外側)。	無	無	110-3	
9 図 21	SH-73 ベルト N.E 区	315	鉢	ぼぼた形	17.6	9.5	(外) ぶい黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ	ハケ	有	無	黒斑(外側)。	無	無	110-1	
9 図 22	SH-73 ベルト N.E 区	315, 303, 296	鉢	口縁・底部	(18.6)	9.9	(外) 明黄褐色 (内) 明黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ・ナデ	ナデ・ハケ・ナデ	有	有	黒斑(内側)、煤(外側)。	無	無	110-2	
10 図 1	SH-73 ベルト N.E 区	296, 315	高杯	口縁・脚部	(30.0)	不明	(外) 深黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	ハケ後ナデ	环部 ハケ後ナデ・ヘラ ミガキ 脚部 ヘラ調整	無	無	無	無	無	T6.1	
10 図 2	SH-73 ベルト N.E 区	315	高杯	口縁部	不明	不明	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	良	良好	ナデ	ナデ・ミガキ	無	無	無	無	無	T7.4	
10 図 3	SH-73 暗褐色上: 東区	283, 298, 341, 342, 352	グラス型: 器	口縁・脚部	(5.5)	不明	(外) ぶい黄褐色 (内) 明褐色	良	良好	ミガキ	ナデ・ハケ・ハケ後ナデ	無	無	無	無	無	M7.2	
10 図 4	SH-73 暗褐色上:S 区-45	298, 302, 303	グラス型: 器	脚部	11径不明、 底径(8.5)	不明	(外) ぶい黄褐色 (内) 粒	良	良好	ナデ	ナデ・ミガキ・洗練・輪描波状文・ ハケ後ナデ・ナデ	無	無	無	無	無	M7.1	
10 図 5	SH-73 M位不明	352	長颈瓶	颈部・脚部	(7.8)	不明	(外) 粒 (内) ぶい黄褐色	良	良好	ミガキ	ミガキ・洗練・輪描波状文・ ハケ後ナデ・ナデ	無	無	無	無	無	M7.3	
10 図 6	SH-73 ベルト N.E 区	315	ミニチュア 土器(全体)	口縁・脚部	(5.2)	不明	(外) 深黄褐色 (内) 露灰	良	良好	指押さえ・ハケ	ハケ・ナデ	有	有	黒斑(内外全體)。 全体的に赤み、ルビも異なる。	無	無	111-2	
10 図 7	SH-73 東区 暗褐色上:	296, 298	ミニチュア 土器(全体)	泡形	5.8	3.5	(外) ぶい黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	指押さえ	指押さえ	有	有	黒斑(内外全體)。口縫部削少く形 状は不確か。全体的に赤む。	無	無	111-3	
10 図 8	SH-73 暗褐色上:	296	ミニチュア 土器(高杯)	口縁・脚部	(5.8)	不明	(外) 深黄褐色 (内) 深黄褐色	良	良好	ナデ・指調整	ナデ・ヘラ調整	無	無	高杯もしくは盤ど思われる(傾きの 平底と傾きから高杯と推測)。	無	無	111-4	
10 図 9	SH-73 S 区	314	ミニチュア 土器(高杯 脚)	脚(底部)	(5.6)	不明	(外) 明黄褐色 (内) 明黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ後放射網状に刻み目	無	無	全体的に赤む。	無	無	111-5	
10 図 12	PIT122 黒褐色上:(SH-73 N)	169	鉢	口縁部・脚部	(11.8)	不明	(外) 深黄褐色 (内) 深黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ・ナデ	ナデ	無	無	無	無	無	131-5	
10 図 13	PIT123	171	壺	ぼぼた形	12.6	13.4	(外) 黄褐色 (内) 深黄褐色	良	良好	ナデ・ナデ	ナデ後ハケ・ハケ後 ハケ	有	無	黒斑(外側)	無	無	131-4	
10 図 17	SH-73 S 区	304	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	無	無	無	T7.1	
10 図 18	SH-73 ベルト N.E 区	315	浅鉢? (細 文)	口縁部	不明	不明	(外) ぶい黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	洗練文・磨消調文(一部) 磨消調文間に丸線文(3本)	ミガキ	無	無	無	無	無	T7.2	
10 図 19	SH-73 E 区	303	浅鉢? (細 文)	口縁部	不明	不明	(外) 黑褐色 (内) 露灰	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	無	無	無	無	T7.3	
10 図 20	SH-73 S 区 暗褐色上:	301	浅鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) ぶい黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	ミガキ	ミガキ	無	有	煤(外側)。	無	無	M6.1	
10 図 21	SH-73 暗褐色上: 南区	299	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) 黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	ナデ後ナデ・ミガキ	ナデ	無	無	無	無	無	M5.4	
10 図 22	SH-73	308	深鉢(細文)	脚部	不明	不明	(外) 黄褐色 (内) ぶい黄褐色	良	良好	沈殿(1) - 壁消調文・沈線(1) (2) - 壁消調文・沈線(1)	ミガキ	無	無	無	無	無	M5.5	

図番号	遺構名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整 上部からの記入	上面調整 上部からの記入	内面調整 上部からの記入	黒斑	焼 成	備 考	実測番号
10 図 23	SH-73 S.K.	314	深鉢(細文)	脛部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ミガキ後洗練 (3) - 両点 ミガキ後洗練 (2) - 両点 - ミガキ後洗練 (2)	ミガキ後ナデ	無	無	黒斑 (内面) 沈殿 7 本、凹点は格 円状に 2 つが 1 対。側面は上 下で 1.3 cm	M5-1	
10 図 24	SH-73 暗褐色土: 南北区	299	深鉢(細文)	脛部・脚部	不明	不明	(外) 灰黄褐 (内) 灰黄褐	良	良好	ミガキ・両点・沈殿 (4 本)	ナデ・ミガキ	無	無	黒斑に凹点 (鋸長の倍) 5 mm 附 隣で横に並ぶ。その 1 cm 程下にも 2 つあり。	M5-3	
10 図 25	SH-73 暗褐色土: E 区	303	深鉢(細文)	脛部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	沈殿 (3 本) - 低消韻文 (川 に凹点) - 沈線 (2 本)	ミガキ	無	無	沈線 5 本。円柱は横切丸が横に 3 つつながっている。	M5-2	
10 図 26	SH-73 東区: 暗褐色土	298	深鉢? (細 文)	底部	(8.8)	不明	(外) 灰黄褐 (内) 灰黄褐	良	良好	ナデ・ケズリ後ナデ・ナデ	ハケ後ナデ	有	無	黒斑	M6-2	
10 図 28	SK-100	251	壺	口縁部	(18.3)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ケズリ後ナデ・ナデ	ミガキ・ ナデ	無	無	黒斑	M14-1	
10 図 29	SK-100 暗褐色土: 南北 ST	250	壺	底部	(18.8)	不明	(外) 黄灰 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ	ナデ・ナデ後ヘラミガキ	無	無	黒斑	M14-5	
10 図 30	SK-100 暗褐色土	251	壺	脚部	不明	不明	(外) 黑 (内) 黑	良	良好	ヘラミガキ・穿孔・ナデ	ナデ・穿孔・ナデ	有	無	2.6cm 間隔に穿孔、二孔一组 : 方向	M14-2	
10 図 31	SK-100 暗褐色土: 暗褐色土	251	壺	口縁部	不明	不明	(外) 深黄褐 (内) 超灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	黒斑 (外面)	M14-3	
10 図 32	SK-100 暗褐色土: 暗褐色土	232	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) 深黄褐 (内) 超灰	良	良好	ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (外面・縁部)	M14-4	
11 図 1	PTT37 暗褐色土: 暗褐色土	219	甕	脚部	口径不明、 底径 (13.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	脚部 砂形・ハケ	有	無	黒斑 (内面)	121-1	
11 図 2	PTT10 暗褐色土 (混じり)	157	甕	口縁部	不明	不明	(外) 深黄褐 (内) 深黄褐	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	脚部 砂形・ハケ	有	有	黒斑 (内面・底部)	130-6	
11 図 3	PTT10 暗褐色土 (混じり)	157	甕	脚部	不明	不明	(外) 明黄褐 (内) 保褐	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ	脚部 砂形・ナデ	有	無	黒斑 (内面)	130-7	
11 図 4	PTT10 暗褐色土 (混じり)	157	浅鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	脚部 消韻文・沈殿 (2 本) - 底	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (内面)	130-8	
12 図 1	暗褐色土: 暗褐色土	189	台付鉢	脚部	(15.4)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ハケ後ナデ	無	無	穿孔一つ、部分的に確認できる。	113-5	
13 図 1	C.S. 間ベルト	21	皿 (土鍋器)	口縁・底部	(8.0)	1.4	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ	底部 ヘラ キリ	有	無	黒斑 (内面)	123-7	
13 図 2	C.S. 間ベルト	9	須恵鉢	口縁・脚部	(12.3)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	凹版ナデ	凹版ナデ	無	無	黒斑 (内面)	M16-3	
13 図 3	N.K.	2	須恵壺	底部	口径不明、 底径 (10.0)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	凹版ナデ	ナデ	無	無	黒斑 (内面)	M16-2	
13 図 4	C.K. C.S. 間ベルト	13	黒色土器 (施?)	口縁・脚部	(13.3)	不明	(外) 黒 (内) オリーブ	良	良好	ナデ後ヘラミガキ	ナデ	無	無	黒斑 (内面)	M16-4	
13 図 5	N.K.	2	瓦器碗	口縁・脚部	(15.8)	不明	(外) 黄 (内) 黄	良	良好	ナデ後ヘラミガキ・ケズリ	ナデ後ヘラミガキ	無	無	黒斑 (内面)	M16-1	
13 図 6	SD-01 C.S. ベルト 粘土	20	瓦器碗	底部・脚部	口径不明、 底径 (7.2)	不明	(外) 黑 (内) 黑	良	良好	ナデ後ヘラミガキ・ナデ	ナデ	無	無	両面・黒色	M16-7	
13 図 7	南側 ST 暗褐色質土	42	甕	底部・脚部	口径不明、 底径 (5.0)	不明	(外) 浅黄 (内) 浅黄	不良	不良	ナデ	ナデ	無	無	上角質	M16-8	
13 図 8	SD-01 C.K.	11	滑石質陶器	口縁部	(22.0)	不明	(外) 保黄 (内) 浅黄	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有	有	黒 (外面)。把手は 1 つ確認できる。 内面開闊は難 重 (135.7 g)	124-5	

凶番号	遺物名	取上げ番号	器種	部位	() は復元	口径	高さ	色調	胎土	焼成	外面調整	上部からの記入	内面調整	上部からの記入	黒斑	焼 成	備 考	実測番号	
13 図 10 C区 暗褐色土:	SD-01	11	滑石製石鍋 (口縁部)		不明	不明	(外) 赤灰 (内) 赤灰			ケズリ		ケズリ		無	有	口径器高は不明。把手は確認できな い。重は 78.3 g	124.6		
13 図 11 C区 底近く	SD-01	17	滑石製石鍋 (底部)		不明	不明	(外) 灰 (内) 灰			ケズリ		ケズリ		無	有	口径器高は不明。上部(内面)、外 側 1cm くらいの所に凹みがあり。1 kg は 37.3 g	124.7		
13 図 12 C区 暗褐色土:	SD-01	10	背底施合	口縁部	不明	不明	(外) 灰白 (内) 灰白	良	良好	ケズリ		ケズリ		無	無	無	無	124.3	
13 図 13 C区 暗褐色土 (下半)	SD-01	16	背底施合子蓋	口縁部	(7.2)	不明	(外) 明灰灰 灰 (内) 明灰 灰	良	良好	轍	轍	轍	轍	無	無	無	無	124.4	
13 図 14 暗褐色土 南壁	SD-01	43	浅鉢(細文)	口縁部	(28.6)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	ヘラミガキ		ヘラミガキ		有	無	黒斑(内面)		127.5	
13 図 15 暗褐色土 北壁	SD-01	58	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) 黄灰 (内) オーラーク	良	良好	繩文・沈線(2本)・ヘラミ 万キ		繩文・沈線(2本)・ヘラミ 万キ		無	無	無	無	M18.1	
13 図 16 C.S.ベルト	SD-01	21	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) 黄灰 (内) 重黄灰	良	良好	唐草綱文後押縞文(2本)・ ヘラミガキ		唐草綱文後押縞文(2本)・ ヘラミガキ		有	無	黒斑(内面)		127.1	
13 図 17 S区	SD-01	29	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) にぶい黄 灰(内) にぶい黄 灰	良	良好	唐草綱文(徐減してい る) 後押縞文2本・ヘラミ 万キ		唐草綱文(徐減してい る) 後押縞文2本・ヘラミ 万キ		無	無	無	無	127.4	
13 図 18 S区	SD-01	26	深鉢(細文)	口縁部	不明	不明	(外) にぶい黄 灰(内) にぶい黄 灰	良	良好	刻み目(刺突文) 1つ・押 縛文(2)・格消綱文? (僅 減してはっきりしな い)		刻み目(刺突文) 1つ・押 縛文(2)・格消綱文? (僅 減してはっきりしな い)		ヘラミガキ	無	無	無	127.3	
13 図 19 C区 暗褐色土:	SD-01	10	深鉢(細文)	脣部	不明	不明	(外) にぶい黄 灰(内) にぶい黄 灰	良	不良	四点・沈線・麻押消綱文・ナ ナデ後沈線(2本)		四点・沈線・麻押消綱文・ナ ナデ後沈線(2本)		無	無	無	無	M18.3	
13 図 20 N区	SD-01	26	滑石製石鍋	口縁部	不明	不明	(外) 黑 (内) 灰			ケズリ		ケズリ		有	無	口径器高は不明。外面上に焼付有 り。重は 32.5 g	M19.1		
13 図 21 C区 暗褐色土:	SD-01	6	(細文)	脣部	不明	不明	(外) にぶい黄 灰(内) にぶい黄 灰	良	良好	唐草綱文・沈線文(2本)・ ヘラミガキ		唐草綱文・沈線文(2本)・ ヘラミガキ		有	無	黒斑(外面)		T12.4	
13 図 22 N区	SD-01	10	深鉢(細文)	脣部	不明	不明	(外) 黑 (内) にぶい黄 灰	良	良好	四点・沈線(2本)・細文・ ナデ後沈線(2本)		四点・沈線(2本)・細文・ ナデ後沈線(2本)		無	無	無	無	M18.2	
13 図 23 N区	SD-01	4	(細文)	脣部	不明	不明	(外) 黄灰 (内) 灰	良	良好	沈線文・ナデ・沈線文・ ナデ		沈線文・ナデ・沈線文・ ナデ		無	無	無	無	T12.1	
13 図 24 N区	SD-01	4	深鉢? (細 文)	脣部	不明	不明	(外) 黄灰 (内) にぶい黄 灰	良	良好	ナデ後沈線文(3本) ナデ		ナデ後沈線文(3本) ナデ		無	無	無	無	T12.2	
13 図 25 C.S.ベルト	SD-01	23	深鉢(細文)	脣部	不明	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	三万キ後四綱文(3本) ナデ		三万キ後四綱文(3本) ナデ		有	無	黒斑(外面)		T12.3	
13 図 26 C.S.ベルト	SD-01	21	縹	口縁部	(21.4)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	刻み目(刺突文) - 沈線文・ ナデ		刻み目(刺突文) - 沈線文・ ナデ		ハケ	有	無	黒斑(外面)		123.1
13 図 27 S区	SD-01	26	縹	口縁・脣部	(20.2)	不明	(外) 浅黄 灰(内) にぶい黄 灰	良	良好	ナデ・ハケ・ハケ後ナデ・ タキ		ナデ・ハケ・ハケ後ナデ・ タキ		有	無	黒斑(外面)		123.6	
13 図 28 C.S.ベルト	SD-01	23	高环	口縁部	(23.4)	不明	(外) 浅黄 灰(内) にぶい黄 灰	良	良好	ハケ・ハケ後ナデ		ハケ・ハケ後ナデ		無	無	無	無	123.5	

図番号	遺構名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	内面調整	上部からの記入	上部からの中空	黒斑	焼	備考	火薬番号
13 図 32	SD-01 S区 上層	31. 355	高杯	口縁・脚部	24.4	不明	(外) 浅黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ		行	無	黒斑 (内面)		124-1
13 図 33	SD-01 C.S間ベルト	23	鉢	口縁・脚部	(19.8)	不明	(外) 浅黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好	ナデ	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ		行	無	黒斑 (外面)		123-4
13 図 34	北ST 黒褐色粘質土	38	鉢	口縁・底部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 浅黄橙	良	良好	ナデ・ハケ・ハケ後ナデ	ナデ		無	無			124-2
13 図 35	SD-01 C.S間ベルト	23	壺	脚部	不明	不明	(外) 明黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ・タキ後ナデ・ハケ	ナデ		無	無	外面に赤色顔料 (ヘンガラ)		123-3
13 図 36	N区 喰泡色土	7	ミニチュア 上器	口縁・底部	(6.0)	3.8	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ (後ヘラミガキ?)	ナデ		行	無	黒斑 (内面)		123-2
15 図 1	SK-21	215. 279. 354	甌	口縁・脚部	17.2	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ・タキ後ナデ・ハケ	ナデ・タキ		無	有	煤 (外面)		M10-1
15 図 2	SK-21	215. 354	甌	口縁・脚部	(19.0)	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ・タキ	ナデ・ハケ・ハケ後ナデ		無	有	煤 (外面)		M12-1
15 図 3	SK-21	215. 354	甌	口縁・底部	(18.0)	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ・タキ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		無	有	黒斑 (外面)。煤 (外)。1段と底部 にずれがあり全体に歪んでいます。		117
15 図 4	SK-21	354	甌	口縁・底部	(20.4)	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ		有	有	黒斑 (外) 煤 (外)。		118-2
15 図 5	SK-21	215. 354	甌	口縁・底部	16.5	(30.5)	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	不良	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ・ ハケ・ハケ後ナデ・タタキ・ ハケのため調査不明	ナデ		無	有	煤 (外面)。脚部と底部の接点なし、 因面で化粧。		M11-1
15 図 6	SK-21	215. 354	甌	底部・脚部	不明	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	タタキ後ハケ・ハケ	タタキ		有	有	黒斑 (外面)。煤 (外面全体)		T10-1
15 図 7	SK-21	217. 354	甌	底部・脚部	不明	不明	(外) 黒にぶい赤褐 (内) 瓷	良	良好	タタキ・ハケ後ナデ・ハケ・ ナデ・ハケ・ナデ	ナデ		無	有	外面、上部より (2/3) 位まで黒く、 下 (1/3) は赤。		M9-1
15 図 8	SK-21 北部 (北側) 黒褐色土	283	甌	脚部	11倍不明、 底径 8.0	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ナデ・ヨコナデ	ナデ		無	無	煤 (外面)		M10-2
15 図 9	SK-21	215	甌	底部	不明	不明	(外) にぶい黄褐 (内) にぶい黄褐	良	良好	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ		無	無	脚部内面、砂型		M12-2
15 図 10	SK-21	354. 355	甌	底部・脚部	不明	不明	(外) 瓷 (内) 瓷	良	良好	ナデ後ヘラ調整・ナデ後ハ ケ	ナデ後ヘラ・ナデ・ヘラ 調整		無	無	底部のみで脚部の付が不確。		116-3
15 図 11	SK-21	215. 354	甌	底部・脚部	不明	不明	(外) 浅黄褐 (内) 浅黄褐	良	良好	タタキ・ハケ後ナデ・ナデ	タタキ		無	有	煤 (外面)		118-1
15 図 12	SK-21 北部 (北側)	280. 342. 354. 355	甌	口縁・脚部	(19.4)	不明	(外) にぶい黄褐 (内) 黄灰褐	良	良好	ハケ後ナデ・ハケ・タタキ	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ		有	無	黒斑 (外)。1線少し歪みあり。		115-2
15 図 13	SK-21	279. 280. 354	甌	口縁・脚部	18.0	不明	(外) にぶい黄褐 (内) 黄褐	良	良好	ナデ・刻目・ハケ	ナデ・確認不可 (ほぼ齊 調整不明)		無	無	黒斑 (外)。全体的に歪曲する。		115-1
15 図 14	SK-21 北部 (北側)	283	甌	口縁・脚部	(19.4)	不明	(外) 浅黄褐 (内) 浅黄褐	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・齊滅		無	無	黒斑 (外)。1線外部の調整は あまり綺麗でない。		116-1
15 図 15	SK-21	215. 354	甌	底部	不明	不明	(外) にぶい黄褐 (内) 浅黄褐	良	不良	ナデ・ハケ・齊滅	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ		無	無	脚部 (外) ?。全体的に齊滅する。		116-2
15 図 16	SK-21 南西 喰泡色土	214	鉢	底部	(9.5)	5.6	(外) にぶい黄褐 (内) 瓷	良	良好	ハケ後ナデ・ナデ・ハケ	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ		無	無			M13-2
16 図 1	SK-21	354	鉢	口縁・脚部	(15.5)	不明	(外) にぶい黄褐 (内) 浅黄褐	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ 後ナデ	ナデ・ハケ後ナデ		無	無			M13-1
16 図 2	SK-21 北部 (北側) 黒褐色土	283	小型甌	口縁・底部	(13.2)	不明	(外) 浅黄褐 (内) 明黄褐	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ナデ・ハケ		有	有	黒斑 (外) 煤 (外)。		118-3

図番号	遺物名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整 上部からの記入	内部調整 上部からの記入	黒斑	煤	備考	実測番号
16 図 3	北遠部 (北側) 黒褐色土:	270.	283	高杯	环部	(24.0)	不明	(外) 浅黄橙	良	良好 ナデ・ハケ後ナデ	ハケ後ナデ・ハケ・ナデ	有	無	黒斑 (外面)	119-1
16 図 4	SK-21	215	高杯	脚部	口径不明、底径 (13.2)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ハケ後ナデ・穿孔・ハケ・ナデ	ハケ後ナデ・ナデ・穿孔・ハケ・ナデ・穿孔・ナデ・ハケ	有	無	黒斑 (外面)。穿孔、二孔、鉢四方向。 5つ以上通、3つ未貫通。孔の高さ は多少少されている。	119-2	
16 図 5	SK-21	215	脚付鉢 (コップ形)	1縁・底部	1径 (7.8)、 底径 (9.0)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	不良 ハケ後ナデ・ナデ・穿孔・ナデ	脚部内面ナデ。脚部内面 ハケ後ナデ・ナデ・穿孔・ナデ・ヨコナデ	有	無	黒斑 (脚部外面) 4 ~ 5cm 間隔で ヘラ書き (八の字) が 3つ、その間に に穿孔 (二孔一組、三方向)	M13-3	
16 図 8	SK-21	212	深鉢 (細文)	1縁部	1縁	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 淡黄橙	良	良好 洗練 (2本) - ナデ	ナデ	無	無	黒斑 (外面)	M13-4	
16 図 9	SK-03	180	縄文	1縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 赤灰	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	内外とも剥離している	113-2	
16 図 10	SK-04	183	深鉢 (細文)	口縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 灰褐色	良	良好 ナデ後貼付突帯	ナデ	無	有	前面にも附け文の剥離があり。	113-3	
16 図 11	暗茶土 粘質土:	187	深鉢 (細文)	1縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 黑泥	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	黒斑 (外面)	113-4	
16 図 12	SK-12	206	深鉢 (細文)	口縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	黒斑 (外面)	113-5	
16 図 13	SK-19	210	深鉢 (細文)	1縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 黑泥	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (外) 1縁 (内) 全体	114-2	
16 図 14	SK-19	211	縄文	1縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 黑泥	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無	黒斑 (外面)	114-3	
16 図 15	暗茶色土:	210	深鉢 (細文)	口縁	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 黄泥	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (内面全体)	114-4	
16 図 16	SK-18 ~ 19	211	縄文	脚部	不明	不明	(外) 黄灰 (内) にぶい黄橙	良	良好 ヘラミガキ・刻口・押縞文(2 本)・刺突(2個1対)	ヘラミガキ	無	無	黒斑 (内面全体)	114-5	
16 図 17	SK-19	206	脚台付鉢	脚部	1径不明、 底径 (11.2)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (内面全体)	114-6	
16 図 18	SK-39	221	小型甌	1縁部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ヘラミガキ・刻口・押縞文(2 本)・唇沿縦文	ヘラミガキ・ナデ	有	無	黒斑 (内面全体)	121-3	
16 図 19	SK-39	221	甌	脚部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ヘラミガキ	ナデ・ハケ	無	無	黒斑 (外面)	121-4	
16 図 20	SK-39	220	甌	脚部	不明	不明	(外) 黑褐色 (内) 赤灰	良	良好 ヘラミガキ	ナデ・ハケ?	無	無	黒斑 (外面)	121-5	
16 図 21	SK-61	228	甌	脚部	不明	不明	(外) 甌 (内) 明黄褐色	良	良好 ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・ハケ・ナデ	無	無	黒斑 (外面)	121-6	
16 図 22	SK-61	228	器 (上部器)	口縁部	(16.8)	不明	(外) 甌 (内) 甌	良	良好 ナデ	ナデ	無	無	黒斑 (外面)	121-7	
16 図 23	SK-65	236	高杯	环部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) 浅黄橙	良	良好 ナデ	ナデ	無	無	黒斑 (外面)	122-7	
16 図 24	SK-65	236	甌	脚部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ハケ後端端部状文	ハケ	無	無	黒斑 (外面)	122-6	
16 図 25	SK-62	231	深鉢 (細文)	1縁部	不明	不明	(外) 浅黄橙 (内) 浅黄橙	良	良好 押縞文 (2本)・唇沿縦文	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (内面)	122-3	
16 図 26	SK-62	231	深鉢 (細文)	1縁部	不明	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 押縞文 (2本) (押点文1つ) ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑 (内面)	122-4	
16 図 27	SK-62 中央 白粘土	235	甌 (古代)	底部・脚部	(17.8)	不明	(外) にぶい黄橙 (内) にぶい黄橙	良	良好 ナデ・ハケ	ナデ・ヘラ調整後ナデ	有	有	黒斑 (内外) 煤 (外面)	122-1	

図番号	遺物名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整		上部からの記入	内面調整	上部からの記入	黒斑	焼	備考	実測番号
										外	上部から							
16 図 28	SK-62	231	蓋(復原器)	I 線部	(11.6)	不明	(外) 褐灰 (内) 鮎灰	良	良好	ナデ		不明		無	無	内器面全体に淡黄褐色の自然釉	122-5	
16 図 28	暗褐色土	231	鉢(1脚器)	I 線部・底部	(17.0)	17.0	(外) 淡黄 (内) 黄褐色	良	良好	ハケ後ミガキ(ナデ?)	ハケ後ナデ・ナデ	有	無	黒斑(内外)	有	黒斑(内外)	122-2	
16 図 29	暗褐色土	231	鉢(1脚器)	I 線部	(15.3)	不明	(外) 淡黄 (内) 黄褐色	良	良好	ハケ	ナデ	有	無	黒斑(内外)	有	黒斑(内外)	128-2	
16 図 30	暗褐色土	SD-82	鉢	I 線部	56	燃	口縁	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 褐灰	良	良好	良	良	無	有	焼(外面)	128-5	
16 図 31	暗褐色土	SD-82	鉢	I 線部	56	燃	口縁	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 褐灰	良	良好	良	良	無	有	焼(外面)	128-4	
16 図 32	暗褐色土	SD-82	深鉢(縦文)	I 線部	56	深鉢(縦文)	口縁	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 褐灰	良	良好	良	良	無	無	無	128-3	
16 図 33	暗褐色土	SD-82	深鉢(縦文)	脇部	56	深鉢(縦文)	口縁	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 黑褐色	良	良好	良	良	無	有	黒斑(内外)	128-3	
16 図 40	暗褐色土	SK-113	鉢	I 線部	262	壺	I 線部	(24.2)	不明	(外) 檻 (内) 檻	良	良好	良	良	無	無	黒斑(外側)	M8-1
16 図 41	暗褐色土	SK-113	鉢	I 線部	262	壺	I 線部	(21.9)	不明	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ハケ	有	無	黒斑(外側)	M8-2
17 図 1	SK-107	256	深鉢(縦文)	I 線部	256	壺(ミニチュア土器)	I 線部	(5.0)	(1.8)	(外) 檻 (内) 檻	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	無	T11-1
17 図 5	SK-107	256	深鉢(縦文)	I 線部	256	壺(ミニチュア土器)	I 線部	不明	不明	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	無	T11-4
17 図 6	ベルト	260	深鉢(縦文)	I 線部	260	壺	I 線部	不明	不明	(外) 褐灰 (内) 褐灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	T11-3
17 図 7	暗褐色土北テラス	PTT06	261	深鉢(縦文)	脇部	壺	I 線部・脇部	不明	不明	(外) 明黄褐色 (内) 明黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	T11-2
18 図 1	暗褐色土	PTT15	61	壺	61	壺	I 線部	不明	不明	(外) 浅黄褐色 (内) 浅黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	T12-1
18 図 2	暗褐色土	PTT38	71	鉢	71	鉢	I 線部・脇部	不明	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ・タキ後ナデ	ハケ・ハケ後ナデ	有	無	黒斑(外側)	T12-2
18 図 3	暗褐色土	PTT41	89	壺	89	壺	I 線部	(12.8)	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ	ハケ	無	無	無	T12-3
18 図 4	暗褐色土	PTT42	93	壺	93	壺	I 線部	(22.2)	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 鮎灰	良	良好	ナデ(間に社線2本)・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ナデ後ハケ	有	無	黒斑(外側)	T12-4
18 図 5	暗褐色土	PTT42	94	壺	94	壺	I 線部	(21.4)	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 浅黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	黒斑(外側)	T12-5
18 図 7	暗褐色土	PTT42	95	壺(復原器)	底部・脇部	底径(7.0)	口径不明、 底径(7.0)	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 鮎灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	T12-6	
18 図 8	暗褐色土	PTT44	97	壺?	97	壺?	口縁	不明	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	黒斑(外側)	T13-1
18 図 9	暗茶色土	PTT77	118	浅鉢(縦文)	口縁部	口縁部	口縁部	不明	不明	(外) 黑褐色 (内) 黑褐色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	所調縦文の部分に刺突文(2つ)	T13-2
18 図 10	暗茶色土(小)	PTT81	122	中世以降?	122	中世以降?	口縁部	不明	不明	(外) にぶい黄褐色・黒褐色 (内) 鮎灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	T13-3

図番号	遺構名	地上呼番号	器種	部位	口径 () は後元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	内部調整	上部からの記入	黒斑	焼	備考	実測番号
18図11	PIT88	136	縦文	腹部	不規	不明	(外) 暗赤褐色 (内) 浅黄	良	良好	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	ミガキ・洗練・削削絶縁文・ 縦文	無	無	無	T13.4	
18図12	PIT88	136	縦文	脇部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	ナデ	無	無	全体的に摩滅しており不明瞭。	T13.5	
18図13	PIT89	137	蓋(須恵器)	縦文	脇部	不規	不明	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	130.1	
18図14	PIT95	144	縦	脇部	不規	不明	(外) 淡黄褐色 (内) 浅黄褐色	良	良好	タタキ	ハケ	有	有	黒斑(外面) 焼(外面)	130.2	
18図15	PIT02 (SH-73内) 黒褐色上	148	縦	口縁部	(21.4)	不明	(外) 淡黄褐色 (内) 浅黄褐色	良	良好	ナデ・ヘラミガキ?	ナデ後ミガキ	有	無	黒斑(外面)	130.3	
18図16	PIT08	155	縦	口縁部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ハケ	ハケ後ナデ	無	無	無	130.5	
18図17	PIT108 黒褐色上 (SK-21内)	154	縦	(古代)	(22.0)	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ナデ後ハケ	ナデ後ミガキ	有	無	黒斑(外面)	130.4	
18図18	PIT117 黒褐色上	164	縦	口縁部	(19.0)	不明	(外) 檻 (内) 檻	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無	無	無	131.1	
18図19	PIT111 黒褐色上	159	縦文	口縁部	不規	不明	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	良	良好	ミガキ (削削絶縁文)	ナデ	無	無	無	T13.6	
18図20	PIT111 黒褐色上	159	縦	口縁部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ・ハケ	無	無	無	T13.7	
18図21	PIT20 茶色上 証じり (SH-73内)	167	深体(縦文)	口縁部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) 暗赤	良	良好	ミガキ (削削絶縁文)	ミガキ	無	無	無	131.2	
18図22	PIT20 茶色上 証じり (SH-73内)	167	深体(縦文)	脚部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ後ミガキ	ナデ後ミガキ	有	無	黒斑(外面)	131.3	
18図23	1トレンチ南半 (SD-1 東側) 檜山中黒褐色上	37	深体(縦文)	脚部	不規	不明	(外) 淡黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハラミガキ	ナデ・ハラミガキ	無	無	無	132.6	
18図24	1トレンチ南半 (SD-1 東側) 檜山中黒褐色上	37	深体(縦文)	脚部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハラミガキ	ナデ・ハラミガキ	無	無	無	132.5	
18図25	1トレンチ南半 (SD-1 東側) 檜山中黒褐色上	37	深体(縦文)	脚部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハラミガキ	ナデ・ハラミガキ	有	無	黒斑(外面)	132.5	
18図26	1トレンチ検出中	342	縦	脚部	不規	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ後ナデ・糊接液状文・ ハケ後ナデ	ナデ後ハケ・ハケ・ ハケ後細かい ハケ・ハケ・タタキ	無	無	無	T14.1	
18図27	1トレンチ検出中	342	縦	口縁部・脚部	(17.6)	不明	(外) 明黄褐色 (内) にぶい黄褐色	良	良好	ナデ・ハラミガキ	ナデ・ハラミガキ	無	無	内・外共に赤色顔料 (ベンガラ?) 付 石。6cm高さに二重輪描文。	132.1	
18図28	1トレンチ検出中	343	高杯	脚部	(14.0)	不明	(外) にぶい暗赤褐色 (内) にぶい暗赤褐色	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	黒斑(外面)	T14.3	
18図29	1トレンチ検出中	342、355	縦	底部	不規	不明	(外) 淡黄褐色 (内) 淡黄褐色	良	良好	ハケ・ナデ	ナデ	無	無	内面に赤色顔料 (ベンガラ?) 付着	132.2	
18図30	1トレンチ検出中	344 (16.7)	下づくね鉢 (16.7)	口縁部・脚部	(6.2)	不明	(外) 檻 (内) 檻	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	全体的に難な作り。	132.4	
18図31	1トレンチ検出中	344	蓋(須恵器)	口縁部	(16.0)	不明	(外) にぶい黄褐色 (内) オリーブ灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	底が歪む。	132.3	
18図32	1トレンチ検出中	343	1脚皿	1脚皿・底部	(11.4)	1.7	(外) 黒褐色・底にぶい 黄褐色	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	底が歪む。	T14.2	

図番号	遺構名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元	器高	色調	胎土	焼成	外面調整	上部からの記入	内面調整	上部からの記入	黒斑	焼	備考	実測番号
2トレンチ																	
21■02	SH-10 暗茶色土	482・522, 534	縦	口縁・腹部	(17.0)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ナデ・タタキ・ナデ	ハケ・ナデ	無	無	無	無	無	M20-1
21■03	SH-10 暗茶色土	482	縦	口縁・腹部	(17.8)	不明	(外) 褐黄緑 (内) 浅黄緑	良	良好	ナデ・ヨコナデ後ミガキ・ タタキ	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ	無	有	有	無	無	M20-2
21■04	SH-10 暗茶色土	482・521・ 522・534	縦	口縁・腹部	(16.6)	不明	(外) 褐黄緑 (内) 浅黄緑	良	不良	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・摩滅により調整不 明	無	無	無	無	無	M21-1
21■05	SH-10 暗茶色土	482	縦	腹部	口縁不規、 腹部(?)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) 浅黄緑	良	不良	ハケ・ナデ	ハケ・剥離により調整不 明	無	無	無	無	無	M20-3
21■06	SH-10 暗茶色土	483	环(知恵器)	底部	口縁不規、 底径(?)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	無	無	M21-2
22■01	暗褐色土(1上:墨じり)	511	縦	口縁部	(15.7)	不明	(外) 褐黄緑 (内) 浅黄緑	良	良好	ケズリ後ナデ・ナデ	ナデ	無	無	無	無	無	M22-3
22■02	サブトレ焼土:暗茶色土	508	高杯?	腹部	口縁不規、 底径(13.3)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) 浅黄緑	良	不良	摩滅により不明・ナデ	ナデ	無	無	無	無	無	M22-1
22■03	暗褐色土(1上:墨じり)	511	縦	ジョキ型上 器	把手	不明	(外) 浅黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ナデ	ナデ	無	無	無	無	無	M22-5
22■04	暗褐色土:粘土小粒含む	486	縦(古代)	口縁・腹部	不明	不明	(外) 浅黄緑 (内) 浅黄緑	良	良好	ヨコナデ・ハケ後ナデ	ヨコナデ・ケズリ後ナデ ・ヘラケズリ	無	無	無	無	無	M22-2
23■01	暗褐色粘質土	487	縦	口縁部	(19.9)	不明	(外) 浅黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	有	無	黒斑(外側面) 口あり。	外面上に粘土の縫合	無	M24-3
23■02	暗褐色粘質土	488	縦	口縁部	(20.5)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無	無	無	無	M23-2
23■03	暗褐色粘質土	489	鉢	口縁・腹部	(33.6)	不明	(外) 浅黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ヨコナデ・ハケ後ナデ	ヨコナデ・ハケ	無	無	無	無	無	M23-1
23■04	暗褐色粘質土	487	高杯	口縁・腹部	不明	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無	無	無	無	M24-1
23■05	暗褐色粘質土	487	高杯	脚部	口縁不規、 底径(15.2)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ハケ後ナデ・ナデ	ハケ後ナデ	無	無	無	無	無	M24-2
23■06	暗褐色粘質土	487	高杯	口縁部	(15.9)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ヘラケズリ?後ナデ・ヨコ ナデ(环部、脚部)	ヨコナデ	無	無	無	無	無	M24-5
23■07	暗褐色粘質土	487	鉢(古代)	口縁・腹部	(13.5)	不明	(外) 浅黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ナデ・ヘラケズリ後ナデ、 後ヘラミガキ・ケズリ	ナデ後ヘミガキ	無	無	無	無	無	M24-4
23■08	暗褐色粘質土	488	鉢(古代)	口縁部	(14.7)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) オリーブ緑	良	良好	ヨコナデ・ヘラケズリ	ヨコナデ	無	無	無	無	無	M23-3
23■09	暗褐色粘質土	488	縦文	腹部	不明	不明	(外) にぶい黄緑 (内) 布文	良	良好	沈線(2本)・押点文・唇消 細文・沈線(2本)・縦文	ヘラミガキ(横方向後縫 縫・ナデ	無	無	無	無	無	M23-4
23■10	SK-20付近検出中 褐色土	529	高杯	口縁・腹部	不明	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ヘラミガキ(横方向後縫 縫・ナデ	ヘラミガキ(横方向後縫 縫・ナデ	無	無	無	無	無	M25-1
23■11	暗褐色土	493	縦	口縁・腹部	(14.8)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	不良	ナデ・ハケ後ナデ・ナデ	ナデ・ケズリ後ナデ	無	有	有	無	無	M25-2
23■12	暗褐色土	498	高杯	脚部	口縁不明、 底径(18.2)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) 浅黄緑	良	良	ナデ	ナデ	無	無	無	無	無	M28-4

図番号	迎樹名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元	器高	色調	脂土	焼成	外面調整	内部調整	上部からの記入	上部からの記入	黒斑	煤	備考	実測番号
23 図 14	SK-89	499	甌	把手	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ケズリ後ナデ	ヘラケズリ			無	無	外面全体に赤色顔料(ベンガラ)	M28-1
23 図 15	黒褐色土	499	甌	口縁部	(16.1)	不明	(外) 浅黄 (内) 浅黄	良	不良	輪誠により調整不明	ナデ			無	無		M28-2
25 図 01	I.-中筋	372	甌	口縁・腹部	(11.7)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ			無	無		I38-5
25 図 02	SD-07 北サブレンチ	361	甌	口縁・腹部	(13.8)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ハケ・ナデ・ハケ			有	煤(外側)		I37-2
25 図 03	SD-07 北サブレンチ	361	甌	口縁・腹部	(14.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ・タキ後ナデ	ナデ・ハケ			無	無		I37-1
25 図 04	I.-中筋	373	甌	口縁	(17.0)	不明	(外) 浅黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ・タキ	ハケ			有	黒斑(外側)		I38-8
25 図 05	I.-中筋	355	甌	口縁・底部	13.6	16.6	(外) 浅黄 (内) 浅黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ナデ後ハケ・ハケ後ナデ			無	黒斑(外側)		I36-1
25 図 06	SD-07	370	甌	脚部	口径不明、 底径(11.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	-ナデ			有	外面の脚部上面に工具痕		I38-2
25 図 07	SD-07 北サブレンチ	370	甌	脚部	(12.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ・ナデ	砂型・ナデ			有	黒斑(外側)		I38-1
25 図 08	SD-07 北サブレンチ	361	甌	脚部	(10.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ・ナデ	砂型・ナデ			有	黒斑(外側)		I37-3
25 図 09	I.-筋	364・365	甌	脚部	11.2	不明	(外) 粒・にぶい黄 (内) 明黄褐・粒	良	良好	ナデ・ハケ・ナデ	ナデ・ハケ			有	黒斑(外側)		I37-5
25 図 10	SD-07	362	甌	脚部	12.5	不明	(外) 明黄褐 (内) 明黄褐	良	良好	ハケ後ナデ・ハケ・ナデ	ナデ			有	黒斑(内外側)		I37-4
25 図 11	SD-07	370	甌	口縁・腹部	(15.3)	不明	(外) 浅黄 (内) 浅黄	良	良好	ナデ・ハケ・タキ後ハケ	ナデ・ハケ・ナデ			無			I38-3
25 図 12	I.-中筋	372	甌	口縁・腹部	(16.6)	不明	(外) 浅黄 (内) 浅黄	良	良好	ナデ・指押さえ	ナデ・指押さえ			無			I36-3
25 図 13	I.-中筋	372	甌	口縁・腹部	(17.8)	不明	(外) にぶい黄 (内) 浅黄	良	良好	ナデ・ハケ・タキ後ハケ	ナデ・ハケ・ナデ			無			I36-2
25 図 14	I.-中筋	371	甌	口縁・底部	15.8	不明	(外) 粒 (内) 明赤褐	良	良好	ナデ・指押さえ・ナ ハケ後ナデ・指押さえ・ナ	ナデ・指押さえ			無	黒斑(外側) 煤(外側) ほぼ丸形(底 部のみ欠損)		T15-1
25 図 15	SD-07	362	甌	口縁部	不明	不明	(外) 粒 (内) 赤灰	良	良	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・刺離			無			T16-2
25 図 16	SD-07	370	甌	口縁部	不明	不明	(外) 粒 (内) 粒	良	良	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ			無	有 煤(外側)		T16-6
25 図 17	I.-中筋	372	甌	肩部	不明	不明	(外) 浅黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ	ナデ・刺離			無	無		I36-4
25 図 18	SD-07	368	甌	脚部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・指押抜状 ナデ	ナデ			無	無		T16-4
25 図 19	SD-07	368	甌	脚部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ・指押抜状文・輪指波狀文	ナデ			無	無		T16-5
25 図 20	SD-07	362	小型丸底甌	脚部	内径(6.0)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良	ナデ	ナデ			無	底部に列点		T16-1

箇番号	遺構名	取上げ番号	器種	部位	口径 ()	は復元	器高	色調	胎土	焼成	外部調整 上部からの記入	内面調整 上部からの記入	黒斑	煤	備考	実測番号
25箇21 上層	SD-07	364	小型鉢	口縁・腹部	(4.0)	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良	ヨコナデ	ケズリ後ナデ・ナデ	無	無		T18-2	
25箇22 上層	SD-07	363	小型丸底盆	口縁・腹部	(11.4)	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良	ヨコナデ	ヨコナデ・ハケ後ナデ	無	無		T16-3	
25箇23 上・中層	SD-07	373	鉢	口縁・腹部	(10.0)	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良	指調整	指調整	有	無	黒斑(外側)	T17-4	
25箇24 上・中層	SD-07	370	鉢	口縁・底部	(12.6)	3.5	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良	ナデ	ナデ・ハケ・ヘラミガキ	有	無	黒斑(外側) 外面はほとんど調整しない(軽くなでてある程度)	T17-2	
25箇25 上・中層	SD-07	372	鉢	口縁・底部	(12.8)	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良	ナデ	ナデ・ハケ・ナデ	無	無		T17-1	
25箇26 上・中層	SD-07	368	鉢	口縁・腹部	(10.9)	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良	ケズリ後ナデ・ミガキ後ナ	ケズリ後ナデ・ミガキ後ナ	無	無		M26-5	
25箇27 上・中層	SD-07	370	高杯	杯・脚部	不明	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良好	ヘラミガキ	脚部未調整	無	無		M26-4	
25箇28 上・中層	SD-07	370	高杯	杯・脚部	不明	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ナデ	木調整	無	無	木調整	M26-3	
25箇29 黒褐色粘質上	SD-07	363	高杯	杯・脚部	不明	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良好	ナデ・ヘラミガキ	脚部未調整	無	無		M26-2	
25箇30 上・中層	SD-07	370	高杯	杯・脚部	不明	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ナデ	木調整	無	無		M26-6	
25箇31 上・中層	SD-07	370	高杯	脚部	不明	不明	(外)浅黄・黄灰 (内)浅黄・黄灰	良	良好	ナデ・穿孔・ハケ後ナ	ペラミガキ	無	無	ペラミガキ	M27-1	
25箇32 上・中層	SD-07	372	高杯	脚部	不明	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良好	ナデ	木調整	無	無	木調整	M27-2	
25箇33 上・中層	SD-07	372	高杯	杯部	(14.5)	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良好	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無		M26-1	
25箇34 止サブトレンチ	SD-07	361	高杯	杯部	(25.8)	不明	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良好	ナデ	ナデ	無	無		T18-3	
25箇35 上・中層	SD-07	365	ミニチュア 上器	脚部	口径不明、 内径(5.4)	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ナデ	ナデ	無	無		M27-4	
25箇36 上・中層	SD-07	370	ミニチュア 上器(鉢)	脚部	(3.6)	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ハケ・ナデ・指押さえ	ナデ後指押さえ	無	無	指押さえが少々歪む	T18-5	
25箇37 上・中層	SD-07	368	ミニチュア 上器(鉢)	口縁・底部	(36.0)	1.5	(外)浅黄 (内)浅黄	良	良好	指調整	指調整	無	無	上縁部が少々歪む	T18-4	
25箇38 上・中層	SD-07	372	細文	口縁部	不明	不明	(外) 植 (内) 植	良	良好	押線文	ナデ	無	無		139-4	
25箇39 上・中層	SD-07	372	細文	口縁部	不明	不明	(外) 植 (内) 植	良	良好	押線文(2本)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑(外側)	139-3	
25箇40 上・中層	SD-07	372	細文	口縁部	不明	不明	(外) 植 (内) 植	良	良好	押線文(2本)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	無	黒斑(内側)	139-2	
25箇41 上・中層	SD-07	372	細文	口縁部	不明	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ヘラミガキ	ナデ	有	無	黒斑(内側)	139-1	
25箇42 上・中層	SD-07	364	細文	口縁部	不明	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ヘラミガキ	ナデ	有	無	黒斑(外側)	138-4	
25箇43 上・中層	SD-07	370	縁	口縁部	不明	不明	(外)にぶい黄緑 (内)にぶい黄緑	良	良好	ナデ	ナデ	有	無	黒斑(外側)	138-3	

図番号	遺物名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は後元	器高	色調	胎土	焼成	外面調査 上部からの記入	内部調査 上部からの記入	黒斑	煤	備考	実測番号
25 44 L- 4W	SD-07	372	細文	脚部?	不明	不明	(外) 棕 (内) 棕	良	良好	細文・押縞文・ヘラミガキ・ヘラケズリ		無	無		139-6
25 49 L-N	SD-07 ベルト	374	环蓋(須恵器)	1脚部	(12.0)	不明	(外) 黒口 (内) 黒口	良	不良	ナデ		無	無		139-8
25 50	SD-07	375	环(古代)	1脚・脚部	(17.4)	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良好	ナデ後ヘラケズリ	ナデ後ヘラミガキ	有	無	黒斑(外側)	139-7
26 01	PIT11	389	环(須惠器)	底部・脚部	(11.1)	不明	(外) 灰 (内) 灰	良	良	円軌ヨコナデ・ナデ・同軸 ヨコナデ	円軌ヨコナデ	無	無		M29-1
26 02	PIT14	392	盤	1脚部	(22.3)	不明	(外) 深黄棕 (内) 浅黄棕	良	不良	陶液により調整不明		無	無		M29-2
26 03	PIT17	399	高环	环部	(27.8)	不明	(外) 反黄 (内) 以黄	良	良	ヨコナデ	ケズリ後?ナデ	有	無	黒斑(外側)	M29-3
26 04	PIT23	403	盤	1脚部	(14.8)	不明	(外) にぶい黄棕 (内) にぶい黄棕	良	良	ハケ後ナデ	ハケ	無	無		M29-4
26 05	PIT35	415	鏡(古代)	1脚部	(20.5)	不明	(外) 黑褐 (内) にぶい褐	良	良	ナデ	ナデ・ヘラケズリ後ナデ -ヘラケズリ	無	無		M29-5
26 06	PIT35	414	高环	脚部	口径不明、 底径(8.6)	不明	(外) にぶい黄棕 (内) にぶい黄棕	良	良	ヨコナデ	ヨコナデ	無	無		M29-6
26 07	PIT36	416	盤	1脚部	(16.5)	不明	(外) にぶい黄棕 (内) にぶい黄棕	良	良	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有	煤(外側)	M30-1
26 08	PIT36	416	盤	1脚部	(22.5)	不明	(外) 黑褐 (内) にぶい黄棕	良	良	ヨコナデ	ヨコナデ	無	有	煤(外側)	M30-2
26 09	PIT38	418	盤	1脚部	(35.0)	不明	(外) にぶい黄棕 (内) にぶい黄棕	良	不良	ナデ・ミガキ(作成してい る為はっきりしない)	ヨコナデ	無	無		M30-3
26 10	PIT48	427	漆器? (縦文)	1脚部	不明	不明	(外) 浅黄棕 (内) 淡黄棕	良	不良	陶液細文・洗練 陶液細文・洗練 底盤により調整不明	ケズリ後ナデ・ナデ	無	無		M30-5
26 12	PIT52	433	漆器? (縦文)	脚部	口径不明、 底径(13.5)	不明	(外) 深黄棕 (内) 深黄棕	良	良	ナデ	ナデ	無	無		M31-1
26 13	PIT53	434	漆器? (縦文)	1脚部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良	ヘラミガキ・押縞文・ヘラ ミガキ・押縞文・ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無		M31-2
26 14	PIT53	434	漆器? (縦文)	1脚部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無		M31-3
26 16	PIT57	435	盤	底部・脚部	口径不明、 底径(19.6)	不明	(外) にぶい黄 (内) 黑褐	良	良	ナデ・ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ	無	無		M31-4
26 17	PIT59	436	器台	底部・脚部	口径不明、 底径(13.2)	不明	(外) にぶい黄 (内) 黑褐	良	良	ナデ	ナデ	無	無		M31-6
26 19	PIT63	441	盤	1脚部	不明	不明	(外) にぶい黄 (内) にぶい黄	良	不良	ナデ・底盤により調整不明	所底盤により調整不明	有	無	黒斑(外側)	M32-2
26 20	PIT72	448	細文	1脚部	不明	不明	(外) 黑褐 (内) 深黄	良	良	ヘラミガキ	ヘラミガキ	無	無		M32-3
26 21	PIT76	453	台付鉢	脚部	(7.4)	不明	(外) 深黄棕 (内) 深黄	良	良	ナデ	ナデ	無	無		M32-4

図番号	遺骨名	取上げ番号	器種	部位	口径 () は復元 口径不明、 底径 (1.3.4)	器高 不明	胎土	焼成	外面輪廓 上部からの記入	内面調整 上部からの記入	黒斑	焼 備 考	実測番号	
26 図 22 PIT86		463	器台	底部		(外) に赤い黄斑 (内) 淡黄斑	良	良	ハケ後ナデ	ヨコナデ・ナデ	無	無	M32-5	
26 図 23 PIT94		469	縁	口縁部	(17.6)	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良	ヨコナデ	無	無	M33-2	
26 図 24 PIT94		469	縁	口縁部	不明	不明	(外) 淡黄斑 (内) 淡黄斑	良	不良	骨質により調整不明・歯槽 液状文	ハケ後ナデ	無	無	M33-1
26 図 25 PIT99		474	縁	口縁・腹部	(18.8)	不明	(外) に赤い黄斑 (内) 淡黄斑	良	良	ナデ・ヨコナデ・ハケ後ナデ	ヨコナデ・ハケ	無	無	M33-3
27 図 01 検出中		537	縁文	口縁部	不明	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	押録文 (2本)・ヘラミガキ	ヘラミガキ	有	黒斑 (内外面) 剥離文 1	I44-5
27 図 02 検出中		355	深鉢(縁文)	口縁部	不明	不明	(外) 赤灰 (内) 開灰	良	良好	押録文 (3本)・ナデ後ミ	ヘラミガキ	無	無	I35-2
27 図 03 南西検出中		518	深鉢(縁文)	口縁部	不明	不明	(外) 黄褐色 (内) 黄褐色	良	良	ミガキ後消褪文・ナデ	ミガキ	有	黒斑 (外側)	T19-1
27 図 04 検出中		355	深鉢(縁文)	口縁部	不明	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	削消褪文の間に押録文 (2 本)・ナデ	ヘラミガキ	無	有 (外側)	I35-1
27 図 05 検出中		534	深鉢(縁文)	口縁部	不明	不明	(外) 赤灰 (内) 赤灰	良	良	ミガキ	ミガキ	無	無	T19-3
27 図 06 検出中		537	縁文	口縁部	不明	不明	(外) 淡黄斑 (内) 淡黄斑	良	良好	剝離文 (2本)・ナデ後ミ	ヘラミガキ	有	黒斑 (外側)	I44-6
27 図 07 検出中		355	縁文	口縁部	不明	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	押録文 (2本)・ナデ後ミ	ヘラミガキ	無	無	I35-3
27 図 08 検出中		534	深鉢(縁文)	口縁部	不明	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	押録文 (2本)・ナデ	ナデ	無	無	T19-4
27 図 09 検出中		355	縁文	口縁部	不明	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	削消褪文・押録文 (2本)・ ナデ後ミガキ	ヘラミガキ	無	有 (外側)	I35-4
27 図 10 検出中		534	縁	口縁・腹部	(14.2)	不明	(外) 黄褐色 (内) 淡黄斑	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ・ナデ	無	無	I42-5
27 図 11 検出中		355、534	縁	口縁・腹部	(17.0)	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	有	黒斑 (内外面)	I41-3
27 図 12 検出中		355	縁	口縁・腹部	(23.4)	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ハケ	有	黒斑 (内外面) 炙 (外側)	I34-1
27 図 13 検出中		519	縁	底部	口径不明、 底径 (6.7)	不明	(外) 淡黄斑 (内) 淡黄斑	良	良好	ハケ・ナデ	ハケ	有	黒斑 (外側)	I42-3
27 図 14 検出中		515	縁	脚部	口径不明、 底径 (12.0)	不明	(外) 橙 (内) 橙	良	良好	ハケ後ナデ・ナデ	ナデ	有	黒斑 (内側) 炙 (外側)	I42-2
27 図 15 検出中		534	縁	脚部	口径不明、 底径 (14.6)	不明	(外) 橙 (内) 橙	良	良好	ナデ後ヘラミガキ・ナデ	ナデ	有	黒斑 (外側) 穿孔 1つあり	I43-3
27 図 16 検出中		536	縁	口縁部	(19.6)	不明	(外) 明黄褐色 (内) 淡黄褐色	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ	有	黒斑 (内外面)	I41-2
27 図 17 検出中		355	縁	口縁・腹部	(27.0)	不明	(外) に赤い黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	剝離文・ハケ	ハケ後ナデ・タタキ	無	外面水色顔料 (ベンガラ?)	I33-1
27 図 18 検出中		523	縁	口縁・腹部	(14.7)	不明	(外) 淡黄斑 (内) に赤い黄斑	良	良好	ナデ・ハケ後ナデ・タタキ	ナデ・ナデ・ナデ	有	黒斑 (外側) 炙 (外側)	I41-1

図番号	遺物名	取上げ番号	器種	部位	（ ）は復元	口径	器高	色調	胎土	焼成	外面調整		内面調整		備考	実測番号
											上部からの記入	上部からの記入	上部からの記入	上部からの記入		
27 図 25 檢出中		355	器台	腹部	不明	不明	(外) 浅黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	指引痕	ハケ・ヘラ調整・ハケ	無	無	外面は粗いが、内面は滑らか	前面に調整	134-2
27 図 26 檢出中	ショキ型上器	535	把手	把手	不明	不明	(外) にぶい黄緑 (内) 緑	良	良好	ハケ後ナデ	ハケ	無	無			143-5
27 図 27 檢出中	ミニチュア上器	550	1.1縁	(3.8)	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ハケ後ナデ	ナデ	無	無			134-4	
27 図 28 檢出中	ミニチュア上器	550	底部	1.1径不規、底径 2.3	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ・ハケ	有	無			134-5	
27 図 29 檢出中	南西部	515	鏡(古代)	口縁・脚部	(15.0)	不明	(外) 浅黄緑 (内) 緑	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無	無			142-1
27 図 30 檢出中		534	鏡(古代)	口縁・脚部	(18.0)	不明	(外) 緑 (内) 緑	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無	無			141-4
27 図 31 檢出中		355	鏡(古代)	口縁・脚部	(18.4)	不明	(外) にぶい黄緑・緑 (内) にぶい黄緑・緑	良	良好	ナデ・ヘラ調整後ナデ	ナデ・ケズリ	有	無	黒斑(4mm)		133-2
27 図 32 檢出中	南西部	517	鏡(古代)	1.1縁・脚部	(20.0)	不明	(外) 緑 (内) 緑	良	良好	ナデ・ハケ	ナデ・ケズリ	無	無			142-4
27 図 33 檢出中		534	鏡	腹部(把手)	不明	不明	(外) にぶい黄緑 (内) にぶい黄緑	良	良好	ケズリ後ナデ	ナデ	有	有	黒斑(内外面)	煤(外面)	143-4
27 図 34 檢出中	南西部	516	鏡	腹部(把手)	不明	不明	(外) にぶい黄緑 (内) 緑	良	良好	ヘラケズリ後ナデ	ヘラケズリ	有	有	黒斑(外面)	煤(外面)	143-1
27 図 35 檢出中		355	土師器環(須恵器)	底部	口径不規、底径 3.0	不明	(外) 暗灰黄 (内) 暗灰黄	良	良好	回転ナデ	脇部、脚部共に回転ナデ	無	無	脚部内側に自然釉		135-6
27 図 36 檢出中		355	壺(須恵器)	底部	口径不規、底径 1.3.0	不明	(外) 朱オーブ (内) 灰	良	良好	ナデ	ナデ	無	無			135-5
27 図 37 檢出中	南西部	517	皿(古代)	口縁・底部	(16.6)	2.1	(外) 灰黄褐 (内) にぶい黄緑	良	良好	ナデ後ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	有	無	黒斑(内外面)		143-2
27 図 38 檢出中		355	壺(須恵器)	口縁・底部	(15.6)	3.8	(外) 緑 (内) 緑	良	良好	ナデ後ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	有	無	黒斑(内外面)		135-7
27 図 39 檢出中		550	滑石製石鍋	口縁部	(22.0)	不明	(外) 岩版 (内) 岩版	ケズリ	ケズリ	ケズリ	ケズリ	有	無	把手は確認できない。内器純に黒斑。	重計 78.3 g	134-3

図版番号	遺構名	取上番号	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	備考	実測番号
------	-----	------	-------	----	---	----	----	----	------

1 トレンチ石器

(単位は cm、g)

10 図 16	SH-73 E 区	298	砥石？	4.3	2.0	1.6	23.0	使用痕なし	I12-2
10 図 27	SH-73 S 区	314	石錐	6.6	6.6	1.6	65.5		I12-1
12 図 02	SD-20 暗茶土	45	剥片石器	6.0	2.0	1.1	8.0	黒曜石	I28-6
13 図 26	SD-01 N-C 間ベルト	9	石核	4.9	3.8	1.7	33.0	サヌカイト	T12-5
13 図 27	SD-01 C 区	12	黒曜石	2.2	2.8	1.7	9.5		I25-5
13 図 28	SD-01 暗褐色土 北壁	58	黒曜石	2.3	2.5	1.0	5.2		T12-6
13 図 37	SD-02 北 ST	40	石斧（大型 蛤刃）	不明	不明	不明	107.8		I25-3
13 図 38	SD-01 C 区 暗褐色土	11	磨製石斧	4.5	3.5	1.7	42.7		I25-4
13 図 39	SD-01 C 区 暗褐色土	10	砥石	7.9	5.5	5.5	301.8	四面に使用痕	I25-1
13 図 40	SD-01 北 ST	40	砥石	11.2	9.3	3.5	296.5	四面に使用痕	I25-2
13 図 41	SD-01 N-C 間ベルト	9	滑石製模造 品	3.0	1.9	0.7	4.2	子持勾玉。穴のうち1つは未貫通で1.5 mm程窪んだ状態	M17-5
13 図 42	SD-01 C 区 底近く	17	凝灰岩	21.1	18.1	16.8	5.7	二面にベンガラ付着	I26-1
13 図 43	SD-01 S 区	27	凝灰岩	6.2	8.2	3.5	240.0	三面にベンガラ付着 石棺材か	M17-4
16 図 06	SK-21	354	磨石（クド 石か）	129.5	8.9	5.1	867.8	被熱による変色か	I20-2
16 図 07	SK-21	354	くぼみ石	7.6	6.4	4.4	273.0	一部黒変	I20-1
16 図 10	SK-03 暗褐色土	178	打製石斧	9.6	5.5	1.3	95.3		I13-1
16 図 34	SD-82 暗褐色土	56	石鏃	2.0	1.5	0.4	1.0	サヌカイト	I28-7
17 図 03	SK-107 埋土中	256	石棺材か	14.7	15.7	3.8	1080.0	一部ベンガラ付着	m1-2
17 図 04	SK-107 埋土中	256	石棺材か	28.8	20.5	0.5	3400.0		m1-1
17 図 08	SK-107 暗褐色土	257	石錐	8.8	7.3	1.8	0.2	砂岩？	T11-5
18 図 23	SK-16 暗褐色土 南東	194	石錐	3.9	2.7	0.7	5.2	安山岩	I13-6
7 図 34	SK-18 黒褐色土	198	砥石	5.4	3.3	1.2	26.8		T9-4

1 トレンチ鉄器

10 図 14	SH-73	308	釘状鉄器	4.9	0.3	0.5	2.5	頭部欠損	M6-4
10 図 15	SH-73 暗褐色土	295	刀子	7.7	2.3	0.3	8.5		M6-3
17 図 02	SK-107	258	刀子	9.9	6.6	1.8	16.0	柄に木質残存	M15-1
18 図 29	試掘 1 区 検出中		刀子	3.7	1.6	0.5	5.2	柄に木質残存	T1-m

図版番号	遺構名	取上番号	器種・部位	長さ	幅	厚さ	重量	備考	実測番号
------	-----	------	-------	----	---	----	----	----	------

1 トレンチ土製品

10 図 10	SH-73 S 区一括	302	土製勾玉	3.9	1.1	1.2	6.0	裏面は全体的に割れる	I11-6
10 図 11	SH-73 N 区	300	土製品	不明	1.1	1.1	4.2	棒状の破片	I11-7

2 トレンチ石器

27 図 13	検出中	548	石族	1.4	1.0	0.4	0.2		I33-4
27 図 14	検出中	548	石族	2.1	1.9	0.4	1.0		I33-5
27 図 39	検出中	550	滑石製石鍋				78.3	復元口径 (22.0)	I34-3
25 図 45	SD-07 上 - 中層	373	磨石	9.9	5.2	4.3	380.3		I40-1
25 図 48	SD-07 上層	364	打製石斧	10.7	5.2	0.8	66.5	緑色片岩の未製品	I40-2
25 図 47	SD-07	370	打製石斧	10.2	4.6	0.9	56.5		I40-3
25 図 46	SD-07	370	打製石斧	5.3	4.6	1.2	48.2		I40-4
27 図 10	ラベル無し	541	打製石斧	9.2	5.2	1.1	68.2		I44-1
27 図 11	検出中	543	打製石斧	9.5	5.7	1.3	115.5		I44-2
27 図 12	検出中	543		4.4	3.6	0.8	14.5		I44-3
27 図 15	検出中	540	石錐	3.4	1.4	0.5	1.7		I44-4
23 図 12	SK-70	496	敲き石	12.8	9.6	5.5	854.0		M28-3
26 図 11	PIT50	431	打製石斧	10.1	4.9	1.1	65.0	緑色片岩	M30-4
26 図 15	PIT57	435	打製石斧	10.5	4.8	1.4	82.5	緑色片岩	M31-5

2 トレンチ鐵器

26 図 18	PIT62	439	鎌	8.0	2.6	0.6	31.7		M32-1
---------	-------	-----	---	-----	-----	-----	------	--	-------

2 トレンチ土製品

27 図 40	検出中	355	紡錘車	5.9	6.1	1.8	69.5	完形	I33-3
21 図 01	SH-10	542	土製勾玉	4.0	1.6	1.6	10.5		M21-3
25 図 38	SD-07	362	土製勾玉	4.4	2.0	1.4	15.0		T18-1

報告書抄録

ふりがな	かとうだ いせき
書名	方保田遺跡
副書名	水道事業による方保田配水池整備事業に伴う 方保田遺跡発掘調査（第1次調査）報告書
シリーズ名	山鹿市文化財調査報告書
シリーズ番号	第15集
編著者名	宮崎 歩
編集機関	山鹿市教育委員会
所在地	〒861-0501 熊本県山鹿市山鹿156-3（文化課） 電話 0968-43-1691
発行年月日	2014年3月31日

所収遺跡	所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
方保田 (1次)	熊本県山鹿市 方保田字木下 2389・2390-1	43208 -167	33° 0' 6"	130° 42' 36"	2012/5/21～ 2012/8/17	350 m ²	水道事業 配水池整備

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
方保田 第1次	集落	弥生後期後半～ 古墳初頭	住居5 土坑 埋葬主体部 溝	土器（弥生土器、古式土師器、須恵器、 土師器）332.6 kg 鉄製品、石製品

要約	
水道事業に伴う発掘調査。周辺は昭和43年圃場整備の際に削平・遺物採取。調査区全体で弥生後期から古墳初頭を中心とする遺構・遺物（土器、鉄器）が出土。このほか縄文後晩期（磨消縄文土器、石鋤、石鎌、石錐）、古代～中世遺物（土師器、須恵器、青白磁、黒色土器）も少量出土。	
1 トレンチ（配水タンク予定地）200 m ² 。弥生後期後半～古墳初頭の竪穴住居3、埋葬施設主体部、廃棄土塉。掘立柱建物の一部（古代か）、中世の溝。	
2 トレンチ（機械棟予定地）150 m ² 。弥生後期の竪穴住居2、溝1。掘立柱建物1（中世か）。	
方保田遺跡は菊池川中流域の弥生時代拠点集落である方保田東原遺跡と近接し、周辺の小規模な同時期集落遺跡とともに有機的関連を想定できるが、調査事例に乏しく具体的な内容は不明である。	

山鹿市文化財調査書報告第 15 集 方保田遺跡

発行 山鹿市教育委員会
平成 26 年 3 月 31 日
編集 山鹿市教育委員会文化課
〒 861-0501 山鹿市山鹿 156-3
印刷 株式会社トライ

仕様	印刷	オフセット
	規格	A 4 版
	組版	電子組版 本文横組み 2 段 (23 字 44 行)、13 級明朝体
	製版	カラー図版 200 線 4 色 モノクロ図版 200 線 1 色
	製本	無線綴じ
	用紙	表紙 アートポスト 220 kg 見返し 色上質 特厚口 本文・図版 マットコート 90kg

この報告書は、一冊あたり 1,365 円で印刷した（人件費等の間接経費は除く）。25 山文 23 号 409,5000/300

文化財調査報告の電子書籍の末尾に挿入する奥付

この電子書籍は、『山鹿市文化財調査報告第 15 集 方保田遺跡』を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

なお、平成 17 年(2005)に山鹿市、鹿北町、菊鹿町、鹿本町、鹿央町が合併し山鹿市となりました。調査記録及び出土遺物は、山鹿市教育委員会が保管しています。

書名：山鹿市文化財調査報告第 14 集 馬見塚古墳群辻古墳

発行：山鹿市教育委員会

〒861-0592 熊本県山鹿市山鹿 987 番 3

電話：0968-43-1651

URL:<https://www.city.yamaga.kumamoto.jp/>

電子書籍制作日：2025 年 7 月 9 日